

全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第10号



全日本大学ソフトボール連盟

ニホンのパワーだ。

高反発チタン
搭載モデルも加わった、
二重管構造のパワー。

2007年2月発売

〈ミズノプロ〉DW-スプリング
2TO-708 ¥36,750 (本体¥35,000)

- 3号、革・ゴムボール用
- HS700+チタン

* DW-スプリングは、その他素材やカラー、
価格違いでお選びいただけます。

ミズノは、

全日本女子ソフトボールチームの
オフィシャルサプライヤーです。

強烈なインパクトで
飛距離を変える、
三層構造のパワー。

2007年1月発売

〈ミズノプロ〉テックファイア
2TP-520 ¥29,400 (本体¥28,000)

- 3号、革・ゴムボール用
- カーボン+グラス+FWパイプ

* テックファイアは、その他素材やカラー、
価格違いでお選びいただけます。

記載価格は、消費税込みのメーカー希望小売価格です。
()内は消費税抜き本体価格です。



www.mizunoballpark.com

● www.mizuno.co.jp ● ☎ 0120-320-799



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
大内 敬 哉

学連機関誌「ウインドミル」が、1997年に発刊され、本年で10周年を迎えることになりました。この間、幾多の困難や紆余曲折もありましたが、広報記録委員会を中心に関係各位のご尽力により今日に至りました。心より御礼申し上げます。

「ウインドミル」の刊行はただ単に、学連の活動記録を留めるばかりでなく、広くソフトボール界の内外の情勢や研究・調査についての情報発信という役割を十分に果たしており、今日では学連の発展に大きく貢献していることは周知の通りであります。今後は学連ばかりでなく、我が国のソフトボール界の情報発信についてのリーダー的役割を発揮していただきたく祈念いたします。

さて、本年10月に日本を訪問されたロゲIOC会長が、2008年の北京五輪を最後に正式競技から除外される「野球・ソフトボール」競技について”世界の注目を集める競技は残すが、存在感のない競技は外す”と厳しい姿勢を明言し、特に「ソフトボール」競技については「普遍性」に欠ける競技であると言及しました。この意味は、もっと国際的なスポーツにならなければならないと理解いたします。学連も今後、今まで以上に国際的な視野に立ち、少しでもオリンピック競技に「ソフトボール」が参加できるよう努力しなければならないと存じます。

最後になりましたが、第10号の「ウインドミル」発刊に際し、ご尽力賜りました関係各位に深甚なる感謝の意を表し、ご挨拶といたします。

ウィンドミル

第10号

目 次

ごあいさつ ●会長 大内敬哉	1
〔巻 頭 言〕 ●スポーツ文化の役割	4
副会長 一谷宣宏	
〔報 告〕 ●平成18年度の事業報告と今後の活動方針	5
理事長 末井健作	
●全日本大学男子選抜チーム・ニュージーランド遠征	
遠征概要	6
選手団レポート	8
●第2回世界大学女子ソフトボール選手権大会	
大会概要	19
選手団レポート	20
〔研究紹介〕 ●ウィンドミル投法における非利き腕のたたみ込み	38
動作がボールスピードに及ぼす影響について	
松下健二	
全国大会の記録 ●文部大臣杯第41回全日本大学男子選手権大会	39
●文部大臣杯第41回全日本大学女子選手権大会	49
●第52回全日本総合男子選手権大会	58
●第58回全日本総合女子選手権大会	59
共催大会の記録 ●第21回東日本大学選手権大会	60
●第38回西日本大学選手権大会	62
後援大会の結果 ●第5回豊田・デンソー・豊田織機・東海理化杯	64
●第3回全国国公立大学オープン大会	66
●第8回千葉オープンフェスティバル	67

●第7回「峠のまち」Matsuida Cup	-----	68
●第3回北信越大学オープン大会	-----	69
各地区の大会結果●北海道・東北地区	春季大会 -----	70
	秋季大会 -----	71
●関東地区	春季大会 -----	72
	秋季大会 -----	73
第37回関東大学ソフトボール選手権大会	-----	76
●北信越地区	春季大会 -----	78
	秋季大会 -----	78
●東京地区	春季大会 -----	79
	秋季大会 -----	82
●東海地区	春季大会 -----	85
第3回東海地域大学ソフトボール選手権大会	-----	89
	秋季大会 -----	91
●近畿地区	春季大会 -----	95
	秋季大会 -----	102
●中国地区	春季大会 -----	109
	秋季大会 -----	110
●四国地区	春季大会 -----	112
	秋季大会 -----	113
●九州地区	春季大会 -----	114
	秋季大会 -----	115
調査研究委員会●原稿等の募集・投稿規定	-----	116
広報記録委員会●全日本大学ソフトボール連盟表彰	-----	117
●第6回東海オープン出場チーム募集	-----	118
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	-----	120
●全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿	-----	121
●平成18年度加盟大学一覧	-----	122
編集後記	-----	124

【巻頭言】 スポーツ文化の役割

副会長 一 谷 宣 宏（園田学園女子大学）

2月のプロ野球キャンプインのニュースが報道されると心は春を迎えている。春先のこのわくわくする気持ち、阪神タイガースのお陰である。すでに還暦を過ぎたこの年であっても、いつも少年時代に戻っている。小学校低学年から始まった甲子園球場通い。全ては父親が虎キチのお陰である。幾度となく親父と甲子園のアルプススタンドから声援を送ったことが懐かしい。当時、公務員であった父親は自らヤジることはせずに、ふがいないプレイが出ると、隣の私の膝をつつき「おい、ヤジれ」のサインを送ったものであった。甲子園球場のヤジ、それは実に聞くに堪えないひどいものもあったが、しかしその大部分は非常にユーモラスに富んで、時宜を得たものが多かった。試合内容が大味になってくるとヤジを聞くのもまた甲子園での楽しみでもあった。こうして、父親に連れられて行った甲子園球場もそのうち自分自身が大虎キチとなりあらゆることを引き継いでいくことになった。初経験となった昭和37年（当時高校3年生）のリーグ優勝以来、これまでに5回の優勝経験を味わうことが出来た。果たして、2007年度6回目の美酒を味わうことが出来るのか。

こうして親父から受け継いだ野球文化、スポーツ文化を通じて多くの人間関係が生まれ、そして様々なコミュニケーションが図られてきた。

スポーツ文化は、人々に勇気と希望を与えて、そして挑戦力を育む力がある。自らを鍛え戦うスポーツ、それを観戦することによって生まれる感動は多くの人々の支えとなっている。そして、その一つが、「学生スポーツ」であり、又、いつでも、誰でも気軽にそれぞれの興味・関心・年齢・体力に応じて、継続的にスポーツに親しむことができる「生涯スポーツ」でもある。正に、今私たちが参画している「ソフトボール」がそれである。人間にとって、体力的にも、精神的にも健康であることは時代を越えて永遠の願いである。

スポーツ文化の役割は、21世紀を迎えた今、個人の価値観が量から質へ、物の豊かさから心の豊さへと移行する中で（最近の諸事件はそれに逆行するところもあるが）スポーツの持っている豪快さ、楽しさ、爽快感、そして人間としてのコミュニケーション力の養成など、スポーツへの様々な関わりは、生活の一部として個人のライフスタイルや地域コミュニティのあり方にも影響を及ぼす。今、中学校では様々な影響を受けて、ソフトボール部が減少しつつある。スポーツ文化の創造性が大きく望まれる中、地域の大学として、ソフトボールを通じて学生諸兄・諸姉と共にその役割を考察したいものである。

【事業報告】平成18年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 末 井 健 作（兵庫県立大学）

文部科学大臣杯第41回全日本大学ソフトボール選手権大会（共催：豊橋市・豊橋市教育委員会、主管：愛知県ソフトボール協会・豊橋ソフトボール協会）は、日本のソフトボールのメッカといわれる愛知県の豊橋市民球場・豊橋市営球場を中心に実施された。今大会は7月に台湾で開催された世界大学女子ソフトボール選手権大会で銅メダルを獲得したことや、8月末に北京で世界女子ソフトボール選手権大会が開催されることもあってか、多くの観客で会場は例年以上に盛り上がった。また、全日本学連のホームページへのアクセス数が、インカレ期間中は毎回急増することから、ソフトボールファンへの情報提供が重要であることを再認識した。

男子は国士舘大学（通算3回目）が優勝し、地元東海地区の中京学院大学は善戦及ばず準優勝であったが、本大会における中京学院大学の活躍は著しいものがあり、男子ソフトボール界に新風を送り込んだといえる。女子は新進気鋭の早稲田大学が念願の初優勝を遂げた。早稲田大学選手の元気滂刺としたプレイは、多くのソフトボールファンに感動を与えた。また、本大会の特記すべきこととしては、1・2年生の活躍が目立った大会であったといえる。今後、大学ソフトボール界は男子・女子いずれも新旧大学の激突がさらに激しさを増すことが予想される。本学連としては各大学がお互いに切磋琢磨して、日本のソフトボールのレベルアップに貢献できるよう努めていきたい。本大会の運営に学生役員が参加するようになったが、今後は学生役員の提案を活かしながら権威ある「学生らしい大会」になるよう発展させることを課題としたい。本大会が成功裡に終えることができたことは、主管くださった愛知県ソフトボール協会、豊橋ソフトボール協会の役員および多くのボランティアの皆様の献身的なご尽力によるものと厚く御礼申し上げます。

後援事業である東日本および西日本大学選手権大会は、それぞれ素晴らしい会場で実施された。学生役員の多くが大会運営に係わり、回を重ねるごとにその役割が増してきている。また、各地区主催のオープン大会は学生による運営が定着しつつあるが、今後は企画・運営面のみならず、ソフトボール指導員・審判員・記録員の資格を取得し、ソフトボール協会の一員として活躍してくれることを期待したい。

平成17年度の事業であるが、第3回男子選抜ニュージーランド遠征(2006. 2. 7～18)を実施した。対戦成績は厳しいものであったが、選手それぞれに技術レベルの高さを実体験できたことにより、今後取り組まなければならない課題が明確になったこと、マオリの文化センターで雑魚寝を経験したが、環境の変化に適応する能力の必要性を学んだこと、ホームステイを通じて多くの友人を得たことは、学生にとって貴重な経験となったといえる。

(財)日本ソフトボール協会のご支援を得て、第2回世界大学女子選手権大会（2006. 7. 11～24、台湾：台南市）に出場した。大会は大変厳しい天候の中での戦いとなったが、前回と同じく銅メダルを獲得することができた。来年度は8月にタイのバンコクで開催されるユニバーシアード大会に出場の予定である。選手の皆さんは悔しさをバネに打倒アメリカを目指して鍛錬し、念願の金メダルの獲得を期待したい。本学連としても男子・女子の選手強化はもとより、加盟大学の選手の皆さんが満足できる運営を目指し努力しなければならないと考えています。

今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願いします。

【報 告】 全日本大学男子選抜チーム ニュージーランド遠征

〈ニュージーランド遠征の目的〉

ニュージーランド遠征は、全日本大学ソフトボール連盟加盟男子大学から20名を選抜し、世界のソフトボールでもっともレベルが高いといわれているニュージーランドを訪問し、交流試合、ホームステイを通じて現地での人的交流・親善を深め、ソフトボールの技術向上を目指すものである。これにより、大学の枠を越えた学生交流の充実、国際交流及び相互理解を深めることを目的とする。

〈参加学生の資格〉

全日本大学ソフトボール連盟に加盟している大学男子の登録選手で、原則として1年生から3年生を対象とする。ニュージーランドに興味と関心を持つとともに、本連盟の遠征目的を理解し、積極的に試合や交流活動に参加する意欲がある者。

〈期間〉

2006年2月7日（火）～18日（土）までの12日間

〈訪問国〉

ニュージーランド（ウェリントン、オークランド）

以上、開催要項より抜粋

スタッフ

団 長 大 内 敬 哉（中京大学）
副団長 末 井 健 作（兵庫県立大学）
総 務 森 田 啓 之（兵庫教育大学）
渉 外 吉 末 和 也（園田学園女子大学）
監 督 高 橋 伸 次（高崎経済大学）
コーチ 宮 原 豊（国士舘大学）

参加選手（内訳：遠征時3年生8名、2年生9名、1年生3名）

●投手（4名）

佐土原 剛（高崎経済大学3年）UN5
阿比留丈治（福岡大学2年）UN18
小田澤正紀（国士舘大学2年）UN15
諸見里 俊（国士舘大学1年）UN20

●捕手（3名）

上石 俊太（国士舘大学2年）UN25
平山 靖（福岡大学2年）UN2
松本 敬介（日本体育大学1年）UN19

●一塁手（2名）

波平 正司（沖縄国際大学3年）UN11
浦本 大嗣（国士舘大学2年）UN3

●二塁手（2名）

本井 文和（高崎経済大学3年）UN1
椎葉雄太朗（熊本学園大学2年）UN4

●三塁手（1名）

久保川貴洋（神戸学院大学2年）UN6

●遊撃手（2名）

鈴木 健司（中京学院大学3年）UN22
槇田 直也（中京学院大学3年）UN8

●外野手（6名）

片岡 吾郎（中京学院大学3年）UN17
佐々木栄治（福岡大学3年）UN9
比嘉 峰孝（沖縄国際大学3年）UN23
古見 用太（神戸学院大学2年）UN13
土屋 徳太（高崎経済大学2年）UN24
安井 琢磨（国士舘大学1年）UN7

〈遠征の概要〉

遠征の一つの目的である「試合による技術向上」であるが、2人の素晴らしい投手と対戦できたことが選手にとって大きな財産になった。うち一人は、NZ代表に選ばれるだけあって、雨中にも関わらずいつもと変わらないであろう速球と変化球を投げ込んでいた。日本のソフトボールが世界と戦うために必要される「機敏さ・細かさ」はもちろんであるが、それとともに、速球（特に高めの力強いボール）にいかに対応していくかが、大きな課題であることを選手とともに再認識した。

また、もう一つの目的である「国際交流・異文化理解」であるが、これまでの遠征以上に有意義なものとなった。ホームステイに加えて、マオリ族の集会所（マラエ）での宿泊、クラブハウスでのマオリ料理（ハンギ）による歓迎など、彼らのアイデンティティを強く感じる事ができた。「スポーツが生活の中に根ざしている」という状態を身をもって体験することができた。さらに、様々なアクシデントも今回はあったが、振り返ってみると、それらも選手間のつながりを強くしてくれた出来事だったように思われる。

選手たちは、日本の大学生の代表としてプレイしたり、行動したりする中で、多くのことを学び取ったが、それを大きく支えてくれたのが、渉外を担当してくれた吉末氏であった。堪能な英語力に加え、自身のニュージーランドでのソフトボール経験が学生たちに大きな刺激となった。感謝をしたい。（文責：総務 森田）

〈全試合結果〉（6勝4敗）

2月9日（於：パーマストンノース）

日本大学選抜：0 4 0 2 4 : 10

マヌワツ選抜：0 0 1 0 0 : 1（5回コールド）

2月10日

日 本 大 学 選 抜：0 0 0 2 : 2

マヌワツ・インビテーション：0 0 5 × : 5（降雨コールド）

2月12日（於：ホークスベイ）

日本大学選抜：1 6 0 0 0 2 0 : 9

ホークス・ベイ：0 0 0 0 0 0 0 : 0

日 本 大 学 選 抜：0 1 3 0 1 0 5 : 10

ホークス・ベイU19：1 0 2 0 0 0 0 : 3

日 本 大 学 選 抜：1 1 0 4 0 0 2 : 8

ホークス・ベイマオリセレクション：0 0 0 0 0 4 0 : 4

2月13日（於：ロトルア）

ロトルア・マリスト：1 0 0 1 3 1 0 : 6

日 本 大 学 選 抜：0 0 0 0 0 0 0 : 0

2月14日（於：タウランガ）

日 本 大 学 選 抜：0 0 1 0 0 0 0 : 1

ウエスタン・ベイ：0 0 0 0 1 0 1 : 2

2月15日

日本大学選抜：36000 : 9

ウエスタン・ベイ：01000 : 1（5回コールド）

2月16日（於：ノースハーバー）

日本大学選抜：32021 : 8

ノースハーバー：00000 : 0（5回コールド）

日本大学選抜：0220000 : 4

ノースハーバー：023110× : 7

ニュージーランドのソフトボール

団長 大内敬哉（中京大学）

第3回全日本大学ソフトボール男子選抜チームのニュージーランド遠征が2006年2月に
 挙行され、海外交流の目的を果たし、無事帰国できました事に対し、関係各位に心より感
 謝申し上げます。

さて、私は前半の7日より12日迄は末井副団長に団長をお願いし、後半である13日の早
 朝、ロトルア空港に降り立ち、選手と合流するべく、ニュージーランドNo.1と言われる
 「ロトルア・ナショナルスタジアム」に直行いたしました。このスタジアムのメインは
 「ラグビー場」（約7,500人の観衆を収容することが可能）で、このフィールドに隣接する
 形で、ソフトボール専用グラウンドが作られていました（収容人数は約2,000人）。私がこれ
 までの2回にわたる遠征で見た競技場では最大のグラウンドでした。この機能的なスタジ
 アムの作られ方に大変関心したのが今回のスタートでした。

ニュージーランドのソフトボールチームは、すべてがクラブチームで構成され、5歳前
 後よりシニアに至るまでがクラブ員として所属しています。そのために、各地域のクラブ
 には本当に立派なクラブハウス、グラウンド等の施設が整備されております。ただ、グラ
 ウンドだけをとってみると、国際試合において使用する我が国のソフトボール場は本当に
 優れているとも思います。例えば、オークランドの近郊にあるノースハーバーでは国際大
 会や国内トーナメント大会が開催されるようですが（4面のグラウンドがあります）、1つ
 のグラウンドの収容人数は内野席だけで約300人ほどです。しかしながら、NZのソフトボール
 というスポーツは何かしら羨ましい姿を今回も私に見せてくれました。

例えば、ゲームを開始するまでの光景です。ウィークデーでは各チームともゲーム開始
 30分前位より、選手が職場より仕事を終えて集合します。各自で軽いアップだけであり、
 相手チームのシートノックが終了すると即ゲーム開始です（ただし、休日の試合では結構
 長い時間のシートノックを行っていましたが）。我々との試合を考えていないのではなく、
 それがソフトボールに対する彼らのスタンスなのかもしれません。

もう一つ感心させられることがありました。それはゲーム終了後、必ず懇親会やパーテ

ィーが開催されることです。もちろん私達のチームは国際交流で来ておりましたので当然とも思いますが、我が国のように「勝利」が最優先されるのではなく、ゲームが終了すれば相手チームとの交流が「自然になされる文化」がそこにはあり、子どもを含めて家族的な雰囲気の中でみんなが楽しんでいるのが印象的でありました。今回の遠征では、心温まる数々の歓迎を受けましたが、日本式の形式的なパーティーは一つもなく、さすが「生涯スポーツ」の先進国であると再認識いたしました。選手達も日本とニュージーランドのソフトボールの違いを肌で感じ取ってくれたと思います。

最後になりましたが、この遠征についてご尽力を賜りました大学連盟、ニュージーランドソフトボール協会、その他関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

実り多かったNZ遠征

副団長 末井健作（兵庫県立大学）

第3回男子選抜ニュージーランド（以下、NZ）遠征の目的は、個々の選手の技術レベルを高めること、今後の課題を明確にし、挑戦する意欲を高めること、およびホームステイを通じて交流を深めるとともに日本文化の情報を発信すること等であり、選抜された選手に課せられた使命は大きいものがある。全日本大学連盟は、若さと情熱に溢れる選手の皆さんが国際大会を通じて、異なる環境に適応し技術・精神力を高めることを願っている。この遠征は、そんな思いをもった多くの関係者のご協力によって実施されている。

さて、今回の遠征ではNZのビッグ大会であるディーンシック・トーナメント（オークランド）に日程の関係で出場できなかったが、新たな地を訪問することができた。初めての訪問地であるパーマストンノースにおいて、学生は当地の協会関係者のお世話でマオリ族の集会所に宿泊することができた。そこでは、食事の準備や買い出し等を関係者の力を借りながら生活し、試合に挑んだ。さらに大広間で雑魚寝をし、ネゴトやイビキも経験したとのこと。学生は到着直後から大変厳しい生活環境であったが、多くの人との出会いと力添えを得て生活することができた。私は学生のNZクラブチームとの親善試合における積極果敢なプレイを見て、国際試合における「環境への適応能力」の有無が大変重要であることを再認識した。

最後に、今回の遠征メンバーから一人でも多く将来の全日本代表が誕生してほしいと思うし、それも非現実的な願いではないと感じた素晴らしい選手たちであった。

ニュージーランドというスポーツのかたち

監督 高橋伸次（高崎経済大学）

私自身、今回で3回目のニュージーランド遠征となります。今回もまた貴重な機会を与

えていただいた大学連盟をはじめ関係諸団体に心から感謝申し上げます。

さて、今回の遠征には各大学の中心選手が参加してくれましたので、これまでになく力のあるチームになるであろうと思っていました。またそれだけに、いずれ内部分裂を起こしはしないかとの不安も他方でもっていました。ところが選手たちのチームづくりへの意識は高く、私心を捨てて素直な協調性を見せてくれました。とくに今回は、ホームステイではなくマオリ族の集会所であるマラエなどでの共同生活から始まりましたので、そういった導入が結果として功を奏したものと思われます。またそういった生活の全般を、より身近な立場でまとめてくれた渉外担当の吉末氏や宮原コーチの尽力が何よりも大きかったと感じています。お二人なくしてチームとしての仕上がりはなかったとも感じています。改めてお礼申し上げます。

今回も、ニュージーランドの空気はどこまでもリラックスしていました。試合会場には音楽が流れ、面白おかしく試合経過を伝えるDJがさらに会場を笑顔にしていきます。そこでのゲームは、選手よりも観衆を楽しませるためにあるかのごとく進んでいきます。そしてゲームが終わると、クラブハウスでお決まりのビアパーティーとなります。まさにこのためにゲームがあるのではないかと思えるほど自然な流れでそれは始まり、そして時間は忘れられていきます。

ここでは、スポーツが織りなすすべてのことが娯楽であり、人びとの顔はみんなホスピタリティに溢れています。改めて、生活に溶け込んでいるスポーツの文化性とその深さを感じることができました。ニュージーランドという、こういったスポーツのかたちが選手たちの目にどう映ったことでしょうか。次代を担う、日本を代表する彼らが、いずれその答えを出してくれるのではないかと感じています。

ENJOY! SOFTBALL!!

コーチ 宮原豊（国士舘大学）

言わずと知れた世界最強のソフトボール王国、ニュージーランド。私自身、勝手ではありますが、競技でソフトボールをする人間としてこのニュージーランドに憧れのようなものを抱いていました。そして、いつかこの国でソフトボールを！と思うようになっていました。

そこに自分がいる。最初は全く実感がありませんでしたが、試合前、対戦相手を見て思いました。「でかっ!!」「あっ！ニュージーでソフトしているんだっ!」と。そして、私を含め、監督、選手達はJAPANの文字が入った真新しいユニフォームを着てグラウンドにいる。感動と同時に初めてソフトボールに触れ、初めてユニフォームを着て、初めて試合に臨んだ幼き頃のドキドキ感、初心に戻った気持ちになりました。

2週間の様々な経験から、各選手たちのソフトボールに対しての考え方や行動、その他様々な価値観は確実に以前と変わったに違いありません。特に「ソフトボールを楽しむ」という考え方に関しては、日本にいるとき以上に実感し、日に日にその変化が「選手間の

言葉かけ」や「プレイスタイル」に表れていました。またそれは試合だけの影響ではなく、全員でマオリ族の方の集会場で雑魚寝したことや、地元の方々と満足のいかない英語で夜中までお酒を飲みながらソフトボールの話などをしたことや、試合後に地元の方々に素晴らしいもてなしをしていただいたことや、ホームステイなどの交流もあったからではないかと思っています。

この遠征を通じて、「素直にソフトボールっていいなあ」と思いました。私自身が一番楽しませてもらったかもしれません。また行けと言われたら必ず行きます！（笑）

最後になりましたが、このような機会を与えて下さった関係者の方々には一言では感謝の意を述べる事ができません。また、この遠征に参加した選手たちからも多くの刺激をもらいました。心から感謝しています。この貴重な経験を今後にも必ず活かしていきたいと強く思うと同時に、日々の努力を惜しむことなくこれからも頑張っていきたいと思っています。

ニュージーランド遠征

佐土原 剛（高崎経済大学3年）

僕のニュージーランド遠征は初日に終わってしまいました・・・なぜなら、初日の練習の時にバッティングピッチャーをしているときに足に違和感を感じ、試合のときに足を痛めてしまったからです。それ以降、試合のときはスコアを書くことが僕の主な仕事になってしまいました。チームメイトや特に同じピッチャーの人には大変迷惑を掛けてしまいました。なので次回この遠征に参加される後輩の皆さんは、テストや3年生の方は就職活動等あると思いますが、出来るだけの準備をして参加するように頑張ってください。この遠征ではソフトボールのことは勿論のこと英語や異文化交流などソフトボールのこと以外にも学ぶことが多く自分を成長させるチャンスだと思いますので積極的に参加してみてください。

ニュージーランド遠征を終えて

阿比留丈治（福岡大学2年）

2月7日から2月18日までの12日間のニュージーランド遠征で思った事は、まず暑かったという事が第一印象です。つぎにニュージーランドの先住民であるマオリ族の建物やマオリの人達の体にあるタトゥーが凄かったです。そして試合をして思った事は外国人の個々の身体能力の高さに驚きました。自分はベンチにいる事が多くいわゆるベンチウォーマーだったのでいろいろなピッチャーを近くでゆっくり観ることができました。このニュージーランド遠征に参加して感じた事、思った事を考えながら今まで自分がやっていた練習を見直して最近練習内容が変わり充実した練習ができてるような気がします。このニュージーランド遠征に参加してよかったと思っています。

New Zealand遠征に参加して

小田澤 正紀（国士舘大学2年）

今回、大学連盟主催のニュージーランドのクラブチーム等との交流試合の遠征に参加させていただき、とてもいい経験ができ自分自身の力のなさやパワーの違いを改めて感じました。世界のトップに立つニュージーランドのソフトボールを間近で感じ、またホームステイなどを通じて日本では経験できない事が多くあり、色々な面で勉強になりました。普段は対戦相手として戦っている他校の選手とも大学日本代表チームとしてコミュニケーションをとり、楽しくソフトボールや集団生活ができて、その仲間からも得るものがたくさんあり、今後の自分自身の向上のために活かしたいと思いました。今回このような素晴らしい経験をすることができたのも大学連盟をはじめとする方々やスタッフの皆様の協力があったのだと思います。今回の経験を無駄にせずこれから始まるシーズンで結果を残せるよう精進していきたいと思っています。

ソフトボールのシンプルな面白さ

諸見里 俊（国士舘大学1年）

今回の遠征では1年であったにもかかわらず、多くの登板機会を与えていただき、本当に有意義な経験をすることができた。監督、コーチ、先輩方に心から感謝したい。これまでも長年投手をやっているが、改めて「ピッチングの面白さ（思いっきりスイングするバッター／自分はそれに臆する事なくいかに力強いボールを投げ込むか）」を堪能することができた。今回得た自分の課題と少しの自信を胸に技術アップに取り組みたいと思う。また、今回は一番年下としての参加であったが、来年以降は様々な場面で1つ年齢を重ねたプレイや振る舞いをする事も忘れてはならないと思っている。そして、いつかまたニュージーランドに来て、プレイできれば最高！

NZ遠征を終えて感じた事

上石俊太（国士舘大学2年）

自分は初めて海外に行きました、最初は12日間ちゃんとやっていけるのか不安でした。試合の面でも色々な不安がありました。相手のピッチャーは120キロを確実に越えているファウルをするのもやっと。「そんなピッチャーから打てるのか？まさかノーヒットで日本へ帰るかもしれない。」もの凄いプレッシャーがありました。でもそこで助けになったのが色々アドバイスをくれたチームメイトでした。最高の仲間です。

あと自分は少し成長した気がします。それはホームステイを経験したからです。あれは自分にとって一生忘れない思い出です。自分が一番楽しんだのは現地の人と一緒に踊った「ハカ」です。あれは最高におもしろかったです。

NZ遠征は長いようでとても短く、日本に帰って来て少し寂しくなりました。この経験を日本で生かしもう一度NZに行けるように頑張ります。本当にお世話になりました、ありがとうございました。

ソフトボールの本場ニュージーランドに行って感じたこと

平山 靖（福岡大学2年）

今回私は大学選抜に選出され、ソフトボールの本場ニュージーランドに行くチャンスを頂きました。実際にむこうで約10日間生活し、ソフトボールをやっていく中で様々な事を感じることが出来ました。まず、むこうでは子どもから大人までのみんなが、何らかのスポーツを愛し、楽しんでいるということです。これは、「日本とは大きく違うなあ」と感じました。正直私は好きでやっているはずだったソフトボールを毎日やっていく中で義務のように感じていたので、もう一度楽しんでやりたいという気持ちになりました。試合をやった感想はむこうの選手は体の大きさや腕力を最大限に生かしたプレイをしていて、とても勉強になりました。最後になりますが今回お世話して下さいました先生方、チームメイトの皆さん本当にありがとうございました。この経験を生かしてこれからも上を目指して頑張りたいと思います。

NZ遠征で経験し学んだこと

松本敬介（日本体育大学1年）

私は初めてソフトボールを通じて海外遠征に行きました。しかし、ソフトボールだけのために行こうとも思っていませんでした。ホームステイを通して異文化に触れたりすることも目的の一つだったので応募しました。外国の人たちのスポーツに対する考え方や取り組み方など非常に参考になるものばかりでした。私は将来、教員になりたいと思っています。そしてスポーツに携わっていきたいと思っているので、この遠征での経験を是非とも生かしたいです。

一番印象に残っていることは、試合をした後にクラブハウスで試合をした相手のチームと食事をしたり騒いだりすることでした。日本では試合が終わったらそのようなことはありません。相手の人と話すことで勉強になることがたくさんありました。チームの中では見えない部分がたくさんありましたし、とにかく考え方が180度違うと感じました。また試合で勝とうが負けようが嫌な顔一つせずに最後の握手までしてくれました。気持ちよく試合ができました。初めての経験でした。もちろんソフトボールの技術的なことも勉強になりました。とにかくパワーがずば抜けていてバットにかするだけでホームランにする選手がたくさんいました。少しずつでもいいので外国の選手に近づけるように努力したいです。

最後に私自身これからスポーツと教育に携わっていくつもりですが、やっぱりスポーツを長く続けてくれる子供達を教育していけたらなと思っています。外国の人たちは40歳、50歳は当たり前のようにプレイされていました。日本もこれから高齢化社会になっていきます。健康維持などのためにもなると思うのでスポーツをしたらよいと思いました。この経験を生かしてこれからの大学生活を有意義に過ごしていきたいと思っています。またこの遠征の為にたくさんの人からの協力により最高の経験をさせていただきました。感謝しています。本当にありがとうございました。

ソフトボールを通して

波平正司（沖縄国際大学3年）

今回、ニュージーランド遠征に参加して、日本とニュージーランドのソフトボールの違いを肌で感じれたことは、この遠征に参加した者のみができる大変貴重な経験になった。ニュージーランドのチームは若い人から年配の方まで年齢層が厚く、体格もみんな大きくてパワーがありそうな体をしており、日本人が子供みたいに感じるくらい大きかった。また、ニュージーランドの審判は日本と違って外角をととても広く取るストライクゾーンには非常に苦労した。日本にはない雰囲気の中の球場で、全国から集まったすごい実績のある選手たちとジャパンのユニフォームを着てグラウンドに立てたことは今後ソフトボールをしていくうえで自信につながると思う。ソフトボール以外では、マオリ族の文化や鼻と鼻をつけてのあいさつ、住居などに実際宿泊して体験したり、食事なども自分たちで街を歩いて買いに行ったり、ホームステイではうまく会話はできなかったけれど、ジェスチャーをくわえてコミュニケーションを取ったり、普通の海外旅行では絶対できない貴重な体験ができた。

またNZへ！！

浦本大嗣（国士舘大学2年）

ニュージーランド遠征おつかれさまでした。この13日間で学んだことはたくさんありました。自分は英語もあまり話せなくて行く前はとても心配でした。でもチームの仲間達とも仲良くなり、とても充実していました。試合では相手の速いピッチャーとも体験できたし、国際試合ということで国内で試合をやるのと違ってまた違う雰囲気の中で試合をやれたことは今後のソフトボール人生を大きく変えてくれたように思います。またこの遠征では、ナショナルチームみたいに試合だけではなく、ホームステイやマオリ族の暮らしを体験できてとてもよかったです。ニュージーランドの人達はよくご飯食べるな？と关心しました。このような機会はあと4年後また訪れると思いますが、ソフトボールの経験や他国の人とのコミュニケーションのとり方などいろいろ勉強することができるので、ぜひ参加してほしいと思います。次はナショナルチームを目指したニュージーランドに行きたいです！

NZで感じたこと

本井文和（高崎経済大学3年）

私は今回の遠征でソフトボールの楽しさと難しさを改めて学ばせて頂きました。まず、楽しさという面では、海外の方と言葉は通じなくてもソフトボールを通じて相互交流が図れたという点です。また、難しさの面では短期決戦という点が挙げられます。これは今後のよい課題となりました。今回の遠征で学んだことを今後に生かしていければと感じております。最後にお世話になった先生方を始め共に過ごしたチームの仲間々に感謝しています。ありがとうございました。

選抜チームでの海外遠征で体験した事

椎葉雄太朗（熊本学園大学2年）

ニュージーランド遠征で、JAPAN代表や強豪大学からの選手で、その中にいることに気後れを感じましたが、いざ練習、試合となると自分のプレイスタイルが発揮でき自信につながりました。自分は海外のチームと初めて練習や試合をしましたが、予想以上にパワーやプレイスタイルの違いに驚きました。試合の後には必ず食事会がおこなわれるという向こうの習慣に、触れ合いの良さと自分達のチームを歓迎してもらい感動しました。試合の中では、イメージどおりのプレイが出来たんじゃないかなと思います。普段から自主的に考える、チーム力を考えることが、学園大学ソフトボール部のカラーとして自分に身についたものです。今まで培ったものが個人となって発揮できたと思います。

向こうのチームの選手のプレイも見ましたが、全日本の選手達の素晴らしいプレイにも感心したし、このチームと一緒にプレイ出来た事は自分にとって最高の経験になったんじゃないかなと思います。ホームステイでは心配だった英会話も、何とかジェスチャーで乗り切りました。これまで英語を中途半端にやっていたことを大変悔やみました。英会話勉強のきっかけになりました。このニュージーランド遠征では多くの方のご厚意に甘えさせてもらい、貴重な体験をさせてもらえたことに感謝しています。ニュージーランドで代表の一員として試合を積んだ経験をチームに還元できればと思っています。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

NZ遠征で学んだこと

久保川貴洋（神戸学院大学2年）

私は、ニュージーランド遠征に行って様々なことを学ぶことができました。まず、同じチームのメンバーとの交流がとても大切でした。違う大学でいきなり一緒のチームでプレイしていくうえでチームワークを良くすることは大事なことです。最初は気まずかったですが、日がたつにつれて仲良くなれました。次に、ニュージーランドという異国の地でソフトボールの技術を高め、ニュージーランドの人々との国際交流が出来たというのはとても貴重な体験だと思いました。これからもこの遠征に行く私たちの後輩にはとてもソフトボールの技術も人間性も成長できるととてもいい機会だと思います。だから、ぜひ次に行く後輩には頑張ってもらいたいと思っています。

NZ遠征にて

鈴木健司（中京学院大学3年）

大学生選抜NZ遠征に参加させていただき、私自身ニュージーランドは2度目となった。ソフトボールという一つのスポーツを通じて、ホームステイや人との交流・文化など色々な事を勉強させていただきました。前回の対戦で、ニュージーランドの選手のパワーや技術はある程度知っていましたが、今回の遠征で、その凄さに改めて驚かされました。また、勝つことへの執念を全面に出してプレイしているということを感じました。彼らの

技術だけではなく、精神面の強さ、試合に取り組む姿勢など我々も参考にしていかなければならないと思いました。

遠征を終えて

槇田直也（中京学院大学3年）

この度、ニュージーランド遠征に参加させていただき、数多くの貴重な体験をすることができました。

プレイ面では、ニュージーランドチームのパワーや独特な雰囲気には圧倒されながらも、日本の投手を含めた守備、細かい攻撃は十分通用することがわかりました。また、今回の遠征では、ホームステイや先住民との触れ合いなど、現地の人々と接する機会が多くありました。文化も言葉も違うなかで、いろいろとまどいもありましたが、この経験はきっとこれからの将来に役立つと思います。ありがとうございました。

NZでの学びを日本へ

片岡吾郎（中京学院大学3年）

2週間足らずの短い期間ではありましたがこの期間で貴重な体験をさせていただきました。ニュージーランド遠征を企画、運営、協力して下さった方々本当にありがとうございます。

この遠征を通じ各大学の選手と親睦を深めることができたこと、ソフトボールという競技で国境を越えプレイできたことは私にとって財産であり良い思い出となっています。

ニュージーランドの選手はその恵まれた体格から放たれるパワー、スピードは学生選抜チームを凌駕しており、それに伴いボールへの対応が日本とは違っていました。しかし、そういった相手に勝つ事ができたのも日本の安定した守備力と投手力があつたからだと思っています。

またニュージーランドの選手はソフトボールを何よりも楽しんでいるように見えました。良いプレーがでるたびに盛り上がり声をかける。一見、派手に見えるパフォーマンスも自己表現の場であるグラウンド上では必要なものだと感じました。

短い期間ではありましたがこの遠征での経験は自分をさらに高めてくれるものでした。得るものはたくさんありそのことを将来へつなげていければと考えています。ご尽力いただいた方々本当にありがとうございました。

ニュージーランド遠征を経験して

佐々木栄治（福岡大学3年）

私は、今回のニュージーランド遠征に参加させていただき、たくさんのことを経験し、学ぶことができました。海外という日本とはまったく異なった環境の中で、パワーやスピードの凄さを感じ、また全国から選抜された大学生と共に試合をして、皆ソフトボールに

対して意識が高く、とても刺激になりました。夜は、バッティングについて皆で語り合ったり、時にはクラブハウスで現地の人を交え話し合ったりして技術的にもたくさんのことを学びました。

規則で決められた高校生の時とは違い、自由であるけれど、自分自身の選択や責任をおっている大学生の時だからこそ今回のような各地でのホームステイや広大な自然や様々な文化に触れることで、ソフトボールの技術向上だけではなく人間的成長のきっかけになると思います。今回のような機会を与えて下さった全日本大学ソフトボール連盟の方や今回の遠征でお世話になった方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。

自 己 改 革

比嘉峰孝（沖縄国際大学3年）

NZ遠征では、自分自身を見つめ直す事や新たな仲間達との出会い、国際交流といった様々な経験を得る事ができ、刺激的で充実した遠征でした。対戦した各チームから感じた事は、攻守において一つ一つのプレイが積極的であったという事です。それは、スポーツをしている者にとって必要不可欠ですが、それを行う事が良い結果につながるという事を、各チームと対戦する事で改めてその大切さを痛感させられました。しかし、私達も負ける事なく先発メンバーとベンチが一丸となり本当に良い雰囲気の中、一人一人がソフトボールを楽しんでプレイする事が出来ました。

また今回の遠征において、私にとって一番の収穫となったのは、チームメイトとの情報の共有です。日本の代表として集まったメンバーには優れた技術を持つ者がおり、情報の交換をする事のコミュニケーションから新たな自分自身の発見が出来ました。これによって遠征のテーマであった“自己改革”を自分なりに達成する事が出来たと思います。NZで得た事を沖縄に持ち帰った今、これを大いに活用しソフトボールに対する今度の自分のプレイを一まわりも二まわりも伸ばして行きたいと思います。

N Zでの学びに感謝！

古見用太（神戸学院大学2年）

私は今回のNZ遠征に参加させてもらい、多くのことを学びました。今回の遠征はソフトボールはもちろん、海外の異文化交流を目的とし、今までの部活の遠征とは異なり、大変刺激的でありました。NZは自他ともに認める男子ソフトボール世界一であり、そのNZでプレーすることで多くのことを学びました。特に強く感じたのがパワーと集中力です。日本人にはないパワーは驚くばかりで、打球に圧倒された試合もありました。それと集中力。試合に入るとたん目つきがかわり気持ちの切り替わりが分かりました。この2つは見習うべき素晴らしいことだと感じました。しかし守備の意識が低く、小技などでかき回すと脆いと感じる場面もあり、つけいるスキはあるとも感じました。また、NZの文化を生で体験できるのがこの交流の大きな特徴で、マオリの文化センターやホームステイなど、普通のホテルに泊まるとは違って苦労や戸惑いはありましたが、そのことによって今回の遠征

に参加したメンバーたちと親密になれ打ち解けるのが早かったように思えます。自由行動が多く楽しいことや外国ならではの問題に多く直面しながらも、仲間と共に考えて行動することが、親密になった一番の理由だったと思います。

この遠征には金銭面も含めて多くの方々の支えによって実現しました。普段忘れてしまいそうな感謝の気持ちを強く持つようになれ、成長したなど実感できました。もし身近にこのような遠征などの話がありましたら、絶対に行ってこいと勧めていこうと思っています。

巡 り 合 い

土屋徳太（高崎経済大学2年）

NZ遠征を振り返ると何よりも「英語を一生懸命勉強しておけば良かった」という感想を一番に挙げる。何とか会話ぐらいはできるだろうという余裕を持っていたことに後悔している。知っている範囲で話すことができたが、これだけ違う言語で話すことが楽しいと思わなかった。もっと言葉を知っていたらもっと楽しい12日間を過ごせていたことだろう。英語を話せるということは10億人と話せるという。まず基本的な英語を勉強していくことが、この遠征に意義をさらに深いものにすると思う。

NZは速球を得意とするピッチャーが多く苦戦した。自分の経験の無さはもちろん、日本にいないタイプが多いと感じた。自分の力の無さに挫折してしまうことが多く、今までのソフトボール人生を振り返られてしまった。

各有名大学の優秀選手が多く参加した遠征だったが、見習おうとする意欲が芽生え、高崎経済のキャプテンである自分が部活にいかにか還元していくことができるか楽しみである。この遠征は自分にとって大変有意義であり、尚且つ、ソフトボールの楽しさをアップさせてくれた。この遠征は4年に1回であるそうだが機会を与えるため2年に1回もいいと思う。なぜなら最高の仲間と巡り合うことができるからである！

初 体 験

安井琢磨（国士舘大学1年）

自分はこの度2月7日～18日までの間大学選抜としてニュージーランド遠征に行きました。自分自身、海外に行くのは初めてでしかもソフトボールの最高峰でプレイできたのはすごくいい体験をでした。ニュージーランドでは8試合ほど交流戦をやらせていただきました。その試合で感じたことは、向こうの人たちは本当にソフトボールをやっているんだなあ?ということでした。しかも試合が終わった後にある試合のピッチャーの人の年齢を聞かされなんと40歳後半という年齢で自分と比べれば一回りも違うのにもっと頑張らなきゃいけないなあ?って思いました。

このニュージーランド遠征に来たことでもう一度来たいと思いました。次に行くときはナショナルチームとして世界一を目指したいです。最後にこの大学選抜で会った仲間達で、これからの大学のソフトボール界を盛り上げていきたいと思っています。

【報 告】 第2回世界大学女子選手権大会

会期：2006年7月15日（土）～7月23日（日）

会場：台湾・台南市

1. 予選リーグ戦

参 加 国	日 本	USA	台 湾	AUS	RSA	タ イ	勝	負	順位
日 本	—	● 2-4	● 5-6	○ 4-2	○ 16-0	○ 10-0	3	2	3
ア メ リ カ	○ 4-2	—	● 2-4	○ 9-1	○ 15-0	○ 7-0	4	1	2
台 湾	○ 6-5	○ 4-2	—	○ 3-0	○ 14-0	○ 15-0	5	0	1
オーストラリア	● 2-4	● 1-9	● 0-3	—	○ 19-0	○ 17-0	2	3	4
南 ア フ リ カ	● 0-16	● 0-15	● 0-14	● 0-19	—	● 3-10	0	5	6
タ イ	● 0-10	● 0-7	● 0-15	● 0-17	○ 10-3	—	1	4	5

大会第1日 7月17日（月）15：30～

日 本：2 3 8 3：16 ○藤原・上村・山口ー村中・鹿島
南アフリカ：0 0 0 0：0 ※大会規定により得点差コールドゲーム

〔本塁打〕小柳、内田 〔三塁打〕舟木 〔二塁打〕鈴木

大会第2日 7月18日（火）13：00～

日 本：3 1 0 0 0 0 1：5 藤原・上村・●藤原ー村中
台 湾：0 0 1 0 3 0 2x：6

〔二塁打〕舟木

大会第2日 7月18日（火）15：30～

ア メ リ カ：0 0 1 0 0 2 1：4
日 本：0 0 0 1 0 1 0：2 上村・●藤原・成田ー村中

大会第3日 7月19日（水）15：30～

タ イ：0 0 0 0 0：0 ※大会規定により得点差コールドゲーム
日 本：2 5 2 1 x：10 藤原・○成田・山口ー鹿島

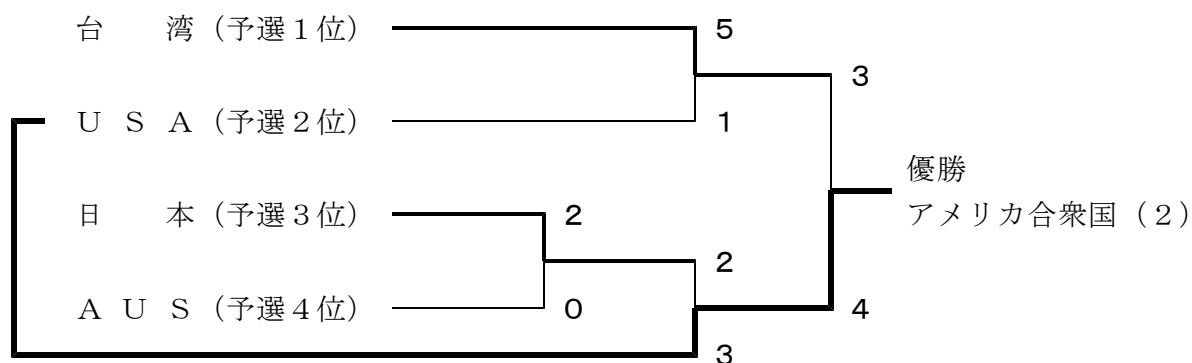
〔三塁打〕加藤 〔二塁打〕内田、小柳

大会第4日 7月20日（木）15：30～

オーストラリア：0 0 0 0 0 2 0：2
日 本：0 1 0 1 2 0 x：4 ○成田・山口ー村中

〔三塁打〕小柳 〔二塁打〕中野

2. 決勝トーナメント（プレイオフ）



大会第5日：7月21日（金） [決勝トーナメント：3位・4位戦]

日 本：0000011：2 ○藤原一村中
オーストラリア：0000000：0

大会第6日：7月22日（土） [決勝トーナメントブロンズメダルゲーム（3位決定戦）]

日 本：00020000：2 藤原・上村・●藤原一村中
アメリカ：00110001x：3

3. 最終成績

優 勝：アメリカ合衆国 4 位：オーストラリア

準優勝：台湾 5 位：タイ

3 位：日本 6 位：南アフリカ

個人表彰

●打撃部門 打 点 王／小柳 薫（東京女子体育大）

●投手部門 最多奪三振／藤原麻起子（東北福祉大）

4. 第3回世界大学女子選手権大会

2007年8月にタイにおいて、ユニバーシアードの一環として開催予定

本大会の詳細については、日本ソフトボール協会公式ホームページを参照してください。

URL http://www.softball.or.jp/2006/national/nf_college.html

第2回世界大学女子選手権大会選手レポート

副団長 末井 健作（兵庫県立大学）

監 督 舟山 健一（東北福祉大学）

コーチ 久保田豊司（大阪国際大学）

はじめに

まずもって、全日本大学ソフトボール連盟は、第1回に続き第2回世界女子大学ソフトボール選手権大会に派遣くださいました(財)日本ソフトボール協会の皆様に厚くお礼申し上げます。

大学チームは2回の国内強化合宿を行い、優勝を目指して7月11日に日本を出発しました。成田空港での壮行会では、甲佐団長を始め押野派遣審判員からの激励、選手強化本部星野女子委員長および横田事務局長が出席くださり激励の言葉をいただきました。

また、この記念すべき大会に副団長の任を務めることができましたことを、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。（末井健作）

大会報告

大会参加国は出場をキャンセルする国もあり、日本、アメリカ、オーストラリア、南アフリカ、タイ、台湾の6カ国となった。また、台風の直撃を受け、大会は2日間順延され、ダブルラウンドロビン（2回戦総当たりのリーグ戦）からシングルラウンドロビン（1回戦総当たりのリーグ戦）で予選リーグを行い、ページシステム（敗者復活戦を含むトーナメント）による決勝トーナメントで最終順位を決定する形となった。

日本は、予選リーグを3勝2敗3位の戦績で決勝トーナメントに進出し、オーストラリアチームに勝利はしたもののアメリカチームには負け、惜しくも前回に続き3位銅メダルの結果であった。優勝はアメリカチーム、2位は台湾チーム、3位は日本チームと上位3チームは前回の大会と同じ結果であり、4位はオーストラリアチームであった。また、個人賞として打点王に小柳選手、最多奪三振賞に藤原投手が選ばれた。（久保田豊司）

役員・スタッフ

団 長：甲 佐 清 久（日本ソフトボール協会）
副団長：末 井 健 作（兵庫県立大学）
監 督：舟 山 健 一（東北福祉大学）
コーチ：久保田 豊 司（大阪国際大学）
マネージャー：木 田 京 子（園田学園女子大学）
トレーナー：鈴 野 智 子（グローバルスポーツ医学研究所）
帯同審判員：押 野 稔（日本ソフトボール協会）
添乗員：志 水 博 行、肖 陽（西武トラベル）

日本代表選手

投 手：上 村 さつき（大阪大谷大学）	竹 川 裕 香（福岡大学）
成 田 春 菜（富士大学）	藤 原 麻起子（東北福祉大学）
山 口 憲 子（園田学園女子大学）	
捕 手：鹿 島 唯 （日本体育大学）	村 中 梢 （東北福祉大学）
内野手：池 原 恵 （園田学園女子大学）	内 田 千恵美（早稲田大学）
小 柳 薫 （東京女子体育大学）	加 藤 恵 理（東北福祉大学）
鈴 木 紅 美（日本体育大学）	高 橋 あゆみ（日本体育大学）
外野手：中 野 久 美（東京女子体育大学）	西 川 友 理（東京女子体育大学）
平 林 真由子（園田学園女子大学）	舟 木 千 恵（大阪国際大学）

（守備位置別五十音順）

選手レポート

ここで、選手が世界選手権で得た貴重な体験を、1. 国際試合に出場して、2. 日本のチーム・選手との違い、3. コンディショニング（体調管理）、4. 後輩達にアドバイス、5. その他（上記の内容以外で自分が伝えたいこと）のテーマで報告する。

大阪大谷大学 3回生 上村 さつき

1. 国際試合に出場して

私は、カナダカップに続いての国際大会出場でしたが、国際大会ならではの大変さを改めて実感しました。ストライクゾーンの違いが一番大きかったのですが、何より言葉の壁には苦しめられました。相手が何を仕掛けてくるのかが全く読めませんでした。日本人とは違う言葉を話すわけですから、守備や攻撃の時にもお互いに何を話し合っているのか分からず、不気味な感じがえました。また、審判の判定にも泣かされました。私なりに自信を持って投げたボールを「フォアボール」と言われても、「なぜボールなの？」と抗議したくても抗議することができませんでした。ただ黙って審判の判定に従う事しかできず、ここに、海外で試合をする時の大変さを感じました。

2. 日本チーム・選手との違い

ピッチャーの立場からの見解になりますが、私自身が投げている思ったことが2つあります。まず1つ目は、日本の選手と比べて運動能力を十分に備えた体格を持っているということです。たとえ細身であってもバッティングや走塁に必要な力をほとんどの選手が持っていました。そして2つ目は（こちらの方が大きいと思いますが）、チャンスになるとバッターは失敗を恐れず初球からどんどん打ちにきて、ベンチはバントや盗塁・エンドランを積極的に仕掛けてきたことです。特に得点圏にランナーを置いた状態でバッターボックスに立つと、「自分が必ず返す！」という気迫を感じさせるくらい力強いスイングをしてきました。此处という時の勝負強さを外国人選手の姿から感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

私は、正直に言いますと、この大会中のコンディションは良くありませんでした。カナダと台湾の気候の違いや7～8時間もある時差、台風接近での試合延期など、いつ試合が行われるか分からない状況が続いたからです。毎朝、試合の時と同じコンディション作りを求められたことは、私にとってはたいへんでした。中でも最も辛かったのは食事です。好きな物が食べられない、食べ物の味が口に合わないといったことが毎日のようにあり、時には臭いや衛生面で気になって食欲がわからないこともありました。食事面においても、私にとっては今までに体験したことのない事ばかりでした。短期間の海外遠征と思って安易に考えていた私には、大きな反省が残りました。

4. 後輩達にアドバイス

これから海外での試合を経験するにあたって私が一番に思うことは、いかに自分のペースやコンディションを保ち、国内での試合と同じような状態で試合に望めるかです。現地に着いて先ず心掛けることは、気候や雰囲気・食事に慣れて、国内と同じような生活環境を作ることです。これが、自分の持てる力を出して試合で勝ち進んでいくための第一の方法だと思います。次はピッチャーであれば、ストライクゾーンの違い・攻撃スタイルの違い・バッターの力の違いに目を向けることです。ゲーム中は、「今の何で？」と思うこと

がたくさんありますが、でもそこはひとつ冷静になり、「海外試合だから・・・」と割り切って考えることも大切かもしれません。

5. その他

約2週間という長い海外遠征・海外試合を経験させて頂いて、いま私が思う事は、国際大会で投げさせてもらったからこそ体験できたものがあったということです。楽しいことや嬉しいこともありました、逆に辛いことや苦しいことも多くありました。しかし、もしメンバーに選ばれていなければ、それらの思いは決して味わうことはできませんでしたから、全て私のためになったと思います。そして何より自分自身の力の無さ（体力・精神の両面に渡っての弱さ）を改めて感じる事が出来たことが、私にとっての一番の収穫でした。そして、この大会があったからこそ、監督・コーチ・トレーナーの方々、そして選手の仲間と一緒に「優勝」という同じ目標に向かってソフトボールを楽しむことができたことが何より素晴らしかったです。2週間という、終わってみればあつという間の日々でしたが、遠征を終えた今の私は大きな達成感でいっぱいです。私のソフトボール人生に大きな1ページを残してくれたことは確かですが、これからのソフトボールに対する取り組み方においても、必ず生きてくると確信しています。本当に貴重な経験をさせて頂いたことに感謝申し上げます。どうも有り難うございました。

福岡大学 4回生 竹川 裕香

1. 国際試合に出場して

日本代表として、国際大会に参加できたことは私にとって大変意義深い経験となりました。私はスタメンで試合に出ているよりベンチに居るほうが多かったのですが、ベンチにいて改めて控え選手の大切さやチームワークの大切さを再認識したように思います。この体験はこれから先、私の人生に大いに役に立つことだと思います。最後にJAPANのチームメイト、スタッフの皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

2. 日本チーム・選手との違い

今回の参加国は日本をいれて6カ国でしたが、私は台湾でアメリカチームの勝ちへの執着、精神力の強さと国への誇りを圧倒的に感じました。これは、最後の決勝戦アメリカ対台湾を観たときもそう感じました。ここが国際大会の強みであり、弱い部分ではないかと思います。プレッシャーのとらえ方の違いをグラウンド内で見ることができた気がします。

3. コンディショニング（体調管理）

私はまず現地の生活に慣れること、食事、気候などに対応して、日本での生活リズムを崩さないように毎日部屋の掃除をしました。部屋を掃除することで心にゆとりが生まれました。台湾は思っていた以上に湿度が高く、体力のことを考えて全体でのwarming-upは短時間でまとめられました。短い中でできる限りのことをするため朝部屋で軽く柔軟などを心がけました。

4. 後輩達にアドバイス

これから、大学生も国際大会に出場することが増えると思い、私は会話程度でいいので英語力を身につけるべきだと思います。ただ大会に出場するだけではなく、私たちは大学生なのでから国際交流などを積極的にやるべきだと思います。日ごろの何気ない情報がソフトボールをする上で役に立つことがあると思います。柔軟性をもち一つ一つを無駄に

しないで否定するのではなく、まずは受け止めてから行動してほしいです。

5. その他

私は今回の大会を通じて様々なことを学び、その中で勝つことよりも大事なことに気づきました。最終試合、3位が確定したアメリカ戦に私は出ていません。結果は全てですが、しかし台湾のあの暑い日、あの日にチームメイト、スタッフの皆様が確かに一つとなり全力で戦い、グラウンドで、ベンチで、泣いている姿を見たとき言葉にできない一体感、友情と信頼を感じることができました。このような体験ができたことに今感謝しています。ありがとうございました。

富士大学 2回生 成田 春菜

1. 国際試合に出場して

自分自身、国際大会に参加するのが初めてだったので緊張した部分と、外国のチームとの対戦が初めてだったので自分と日本の力がどこまで通用するのかがとても楽しみでした。日本はチームワークも良く、スタッフの方、選手も一丸となり戦うことができて第3位という結果が残せたと思います。全てが初めての事で戸惑う点もありましたがみなさんに支えられ充実した大会になりました。様々な国との試合を通して言葉は通じないけれど本当にソフトボールが好きでPlayしているというのを実感することが出来ました。

2. 日本チーム・選手との違い

やはり日本の選手と体型を比べると特にアメリカの選手は一回りくらい大きくパワーもあり、威圧感もありました。試合では思い切りのあるスイングが印象的でした。外国の選手は個々が自信に満ち溢れているように見えたし交流をしていく中でも「自分」というものをしっかり持ちアピールしていると思いました。

3. コンディショニング（体調管理）

台風の影響もあり肌寒い日が2～3日ありましたが試合が始まってからは暑い日が続き、水分補給をこまめにする・帽子をかぶる・試合中は頭や首を氷で冷やしたりと熱中症にならないように注意していました。又、試合後は入念にダウンを行いアイシングやトレーナーさんからマッサージをしてもらい体調を整えました。食事はバイキング方式で日本と違い口に合わない物もあったので日本から持参したレトルト食品を食べたり、食べられる物なるべく多く摂るといったように少し苦労した部分がありました。

4. 後輩達にアドバイス

国際大会に参加し、外国の選手との試合や交流で今までよりもソフトボールに対する考えや意識が変わった部分が大きい事と、外国で試合をすることによって日本でソフトボールをする上での環境の良さも改めて実感しました。日本とは違い外国では様々なアクシデントがあったりコンディショニングの面で大変な事もありますが、他の大学の選手と日本代表として一つのチームを作り世界一を目指して戦うというのはとても貴重な経験ができて良かったです。国際大会に出て更に自分の力がどこまで通用するのかを試す最高の機会になり自信になりました。

5. その他

この大会を通して、第一にコミュニケーションを取ることがとても大事だと思いました。コミュニケーションがうまく取れていたのでPlayにもスムーズに入れてやりやすかったし

試合でも一丸となれたというのは大きかったです。スタッフと選手も信頼し合い良い雰囲気の中で試合をしていました。メンバーは自チームに戻れば一人一人が中心メンバーとして活躍しているにも関わらず、スタメン・ベンチの役割を理解しチームが勝つ為に貢献していました。この大会で第3位でしたがアメリカとの試合は本当に紙一重の差だったので、次こそは必ず世界一になれると思います。自分自身も機会があればもう一度挑戦したいです。最後に応援してくださった方々、支えて下さった方のおかげで結果を残すことが出来ました。本当にありがとうございました。

東北福祉大学 4回生 藤原 麻起子

1. 国際試合に出場して

私にとって第2回大学世界選手権が、初めての公式な国際大会でした。即席のチームでしたが、周りのスタッフにも恵まれ、最高の絆が築けたチームでした。私はこの大会で、たくさんの経験を積ませてもらい、自分のこれからの課題もはっきり見えてきたので、すごく充実した大会になりました。こんな貴重な経験ができ、このような場を与えてくれ、支えてくださった周囲の方々には感謝の気持ちでいっぱいです。そして、これからはその恩返しの意味でもこの経験を活かし、上の国際大会に出場して、大学世界選手権で悔しい思いをさせられたアメリカに、借りを返したいです。

2. 日本チーム・選手との違い

やはりパワーの違いを一番感じました。どの打順でも長打やホームランを狙えるバッターが揃っているのも、簡単にストライクを取りにいくことができず、球数が多くなりました。スラップをやるような足の速い選手は、バントなのか打ってくるのかがわかりづらく、ポジショニングでも苦勞しました。また、日本チームよりも外国チームの強いところは、次に戦うチームの研究などを詳しくしているところだと思いました。

3. コンディショニング（体調管理）

国際大会では、まず日本との環境の違いや食事に戸惑いを感じ、苦勞しました。試合に入る前からの食事や睡眠などの準備の大切さを痛感させられた大会でした。また台湾では台風の影響が大きく、試合ができず毎日毎日試合の日程が変わり、調整が続き気持ちも試合から離れてしまいそうになりましたが、チームメイトとなるべく一緒にいるようにし、同じ時間を過ごすことによりモチベーションを保つことができました。目標が同じところにある仲間といえることは、大事な時間だと感じました。

4. 後輩達にアドバイス

ピッチャーの視点から言うと、国際大会では、審判のストライクゾーンも日本と違い、バッターのスイング・ヒッティングゾーンも違ってきます。個々のピッチングスタイルはあると思いますが、そのスタイルを、時にはいい意味で崩していかなければならないと思います。審判やバッターに合わせて柔軟に対応していくことが大事だと、私は感じました。

園田学園女子大学 2回生 山口 憲子

1. 国際試合に出場して

私は、初めて国際大会を経験させて頂きました。今までにこのような大きな大会を経験したことがなかったので、期待と不安で胸がいっぱいでした。やはり世界の舞台は、試合

の空気や雰囲気在国内の大会とは全く違い、とても緊張しました。今回は、大学生の選抜チームとしてそれぞれ違う大学の選手でしたが、「世界一になりたい！！」という気持ちがあれば、短期間でも一つになれるのだとすごく感じました。本当にいいチームでした。

2. 日本チーム・選手との違い

外国の選手は、日本の選手とは体格やパワーが全く違い本当に驚きました。しかし、日本は技術の面ではどこにも劣ってはいないと思いました。外国の選手は、プレイが荒っぽくバットのスイングやボールの投げ方なども、力づくで、決してキレイなフォームだとは思えませんでした。チームとしても、チームが一つになって戦っているというようにはあまり見えませんでした。外国のチームのいいところは、個人の強さをすごく感じたことです。

3. コンディショニング（体調管理）

コンディショニングでは、ウォーミングアップやクーリングダウンのこと、それから栄養のことまで詳しく説明をして頂き、もっと自分の体のことを知らなければいけないとすごく感じました。どれだけ、自分の体のことを知り、しっかりと管理ができるかで選手生命も決まってきます。練習後のアイシングや、食事の時にはサプリメントを摂取することなどちょっとしたことをどれだけきっちりできるかがとても大事なことで身にしみて感じました。

4. 後輩達にアドバイス

国際大会には、日本の大会にはない雰囲気や空気があります。その中で、日本の代表として試合に出ることはとても緊張したりしますが、本当に自分にとっていい経験になると思います。いろんなタイプの選手との出会いもあり、新しい経験もたくさんでき、色々と勉強になると思います。多くの日本の選手が、国際大会に出て活躍したいという高い目標を持って日頃の練習に取り組めば、日本のレベルももっとアップしもっと高いレベルでソフトボールができると思うので、常に高い目標を持って頑張っていって欲しいです。

5. その他

今回の国際大会を通じて感じたことは、このチームは非常に短期間に編成され試合に望んだのですが、監督・コーチ・スタッフのご協力の下、本当にまとまりのあるいいチームができたと思いました。これからもこの感謝の気持ちを忘れずに、高い目標を持ってソフトボールに取り組んでいきたいと思っています。本当にありがとうございました。

日本体育大学 2回生 鹿島 唯

1. 国際試合に出場して

国際大会に出場して、国際大会特有の試合を経験することが出来ました。一日の天候の影響で試合の方向が大きく変わってしまったり（チーム数が急に減ってしまい総当りに変更になった）審判が他国の審判ばかりでジャッジで試合の流れが変わってしまったり、しかしそんな中でも、自分たちが間違えていなくても、いろいろな事情を飲み込んで試合に勝っていかなければならない難しさを感じました。また国際大会は選手だけでなく開催される国の人々全体が立ち上がり朝から晩まで身の回りの事をしてくれたことに感動しました。

2. 日本チーム・選手との違い

日本チーム・選手と外国チーム・選手のの違いで一番に感じたことは身体の大きさです。アメリカチームを例にあげて比べて見ると、やはりスイングが早くなくてもボールをしつかりとらえられなくても、パワーで飛ばせます。しかし守備では大雑把な一面があり「取ればいい」ぐらいのフィールディングでした。日本チームはアメリカに対して身体の大きさやパワーは劣っていたかもしれませんが、打撃ではミートを徹底し相手の足元に強く叩きつけるなど日本の起動力はアメリカやオーストラリアに比べて大変優れていたように思えます。守備でも確実な位置取りで相手に付け入る隙を見せていなかったように思います。このことから考えて日本はどの国に対しても互角だったと考えられます。

3. コンディショニング（体調管理）

コンディションは一番大変だったと思います。台風の為全く思うように練習ができず、しかしその中で身体がなまらないように室内で場所を見つけて練習したり、試合時間が遅いために自分で調節して試合に気持ちを持っていくことが大変でした。また試合は連日にわたり炎天下の中で行われ翌日までに体力を回復させるのも環境の違いもあり苦戦していたと思います。一番のマイナスな所は日本食との違いでした。台湾入りした日これから何を主食にしていけばいいのかと思うほどでした。しかしみんな日本から持参したものを持ち合い日に日に台湾のご飯にも慣れていきました。外国に行ったときには環境の変化への適応力が必要になってくると思います。

4. 後輩達にアドバイス

後輩のみんなへ、外国の選手と試合ができるということは大変素晴らしいことで、チャンスがあれば思いっきり挑戦することだと思います。挑戦することで今まで見えなかった自分が発見できたり、沢山の財産になると思います。技術のこととかはよくわからないけど、今後ソフトボールを続ける上で常に高い目標を持って練習・プレイして欲しいと思います。

5. その他

今回このチームの一員になることができて本当に良かったと思います。やはり勝つためには技術はもちろんですが、今回チームのために何ができるかがすごく重要だと分かりました。チームワークがよくなることで試合に対しての気持ちもさらに強くなり異国の地でもお互いを支えあい乗り越えていけると思います。自分が今回のチームで得たものを無駄にしないように今後の糧としてさらなる向上を目指していきたいと思います。

東北福祉大学 3回生 村中 梢

1. 国際試合に出場して

今回、初めて国際大会に出場し、貴重な経験を積ませて頂けたことに、とても感謝しています。国際大会を通して、スタッフの方々も含んだチームとしてのまとまりは、日本チームが一番だったのではないかと感じています。また、試合や試合以外の場において、他国の選手と交流することができ、プレイヤーとしても、人としても成長することができた大会でした。

2. 日本チーム・選手との違い

アジアのチームは技術や体格・戦略など、比較的日本に近いものがあり、試合での対策の仕方もある程度予測がつけました。アメリカやオーストラリアなどのチームは、技術的

な粗さをカバーするだけのパワーとスピードがあると感じました。日本のチームがそれに対抗するパワーを求めても仕方がないので、どのように戦うのか…というチームとしての戦略を、一人ひとりが考えていくことが大切だと思います。

3. コンディショニング（体調管理）

台湾は、高温多湿だったので、まずは痩せないように食事をしっかりと取ることに気をつけました。また、部屋での生活では、クーラーの温度の調節などチームで気を配りました。しっかりとした食事と睡眠時間を取ることが大切だと思います。また、チームの中の一人として、体調は自己管理し、自分の体はチームのものだというくらいの自覚と責任が必要だと思います。

4. 後輩達にアドバイス

国際大会に出場するということは、プレイヤーとしても、人としても大きく成長できるまたとないチャンスだと思います。自分の価値観を広げられるように、積極的かつ柔軟な考えを持って行動することをお勧めします。

5. その他

今大会に参加させて頂いたことに本当に感謝しています。スタッフの方々をはじめ、チームのみんな、様々な人の協力があって貴重な体験をすることができました。この経験を様々な場面で生かしていけるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

園田学園女子大学 2回生 池原 恵

1. 国際試合に出場して

私は世界大会という舞台に立つことが初めてだったので、全てのことに驚いてばかりでした。日本と環境の全く違う中で生活したり、ソフトボールをしたりすることでたくさんのことを学びました。日本の中だけでは味わえない外国人選手のパワーの凄さや、スピードの速さなど、もっと上を目指していかなければ、世界では通用しないということを痛感しました。この経験を活かしてもっと色んな技術をつけていけるように頑張ろうと思いました。

2. 日本チーム・選手との違い

私がこの大会に出場して強く感じたことは、思っていた以上に外国人選手は体が大きくて、パワーも日本人とは比べものにならないくらいレベルが高かったことです。しかし、その反面、日本人選手は外国人選手に比べて、小技やエンドランなど、そういった技術は外国人選手に負けていなかったと感じました。日本チームも今以上にスピードをつけて、外国人選手のような大きい選手にはできないことをどんどんしていけば、もっと上にいけると感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

現地（台湾）はとても暑いと聞いていたので、日本にいるうちから暑さ対策として、上着を着たりして暑さに慣れるようにとチームでやっていました。しかし、現地は予想以上に暑さが厳しくて、常に水分を取っていないといけないような状況でした。台風のせいもあって、予定通りに日程が進みませんでした。宿舎が大学の寮だったので、大学の施設を利用して汗を流すことをしたり、バッティングの調整などができたので、雨で外に出られないときも気持ちを切らさずにいられました。

4. 後輩達にアドバイス

日本とは環境が違うということは思っている以上に大変でした。生活環境はもちろんですが、一番大変だったのが食事の面でした。海外での試合となると、長期間に及ぶと思うので、体調管理などのことを考えると、毎日同じものを食べるわけにもいきません。バランスのいい食事ができるように、日本から準備していかなければならないと思いました。ソフトボールのことでは、やはり、「走・攻・守」どれに関してもスピードをつけることが一番なのではないかと感じました。

5. その他

世界の大会に出場すると、今まででは知らなかったソフトボールのスタイルや、レベルの高いソフトボールを知ることができました。外国人選手とコミュニケーションを図ったりすることとても新鮮でした。日本の中だけで満足せず、もっと視野を広げれば、色々な選手がいて、色々なチームがいることを改めて実感することができました。来年のユニバーシアードに出場することができたら、次はもっと世界に通用するような選手になって世界一を獲りたいです。

早稲田大学 3回生 内田 千恵美

1. 国際試合に出場して

私は国際大会に出場して、すごく良い経験になりました。何より、海外で大会をするという経験が今までなかったので新鮮でした。高いレベルでソフトボールをすることができて嬉しく思います。自分に自信を持つことができたというのと同時に、まだまだ上を目指したいという気持ちが生まれました。

2. 日本チーム・選手との違い

アメリカやオーストラリアの選手達はすごく大きくて体格差に最初はすごく驚きました。足の速さや、打球を飛ばすパワーには圧倒されました。しかし、ひとつ、ひとつのプレイを見たときには、プレイが荒く、日本が一番基礎ができていて誠実な感じがしました。

3. コンディショニング（体調管理）

台湾に着いてすぐに「じと〜」とした嫌な汗が出てきました。日本と比べると湿度が高くて嫌な気候。さらに、台風の影響で雨が連日降り続き室内での調整が続きました。また、食事についても日本ほど潤ってなく苦労しました。衛生の面でも、気をつかうことが多かったです。

4. 後輩達にアドバイス

ソフトボールをやられるのではなくて、自分からやりたいと思うことが自分を伸ばすコツ。そういう思いの中でソフトボールを一生懸命やれば結果はついてくる。色々な経験の中で、自分が成長できる。色々な人の考えを聞いて自分に取り入れるようにする。そして、常に前向きに、笑顔でいることが大切だと思う。

5. その他

私は、今まで国際大会なんて自分に縁がないものであると思っていました。しかしこうして、今回この大会に参加することができて、すごくたくさんのことを学んで帰ってこれたと思っています。こうやって外の世界でソフトボールをすることで自信もついたり、一回りも、二回りも成長することができたと実感しています。関係者の皆様に感謝致します。

ありがとうございました。

東京女子体育大学 1回生 小柳 薫

1. 国際試合に出場して

私にとって3回目の国際試合になった第2回世界大学選手権大会に参加して、世界のレベルを知る事の喜びと、果たして自分の力がどの程度通用するかという不安な気持ちで臨みましたが、試合をしていくうちに、どんな相手でも自分達のソフトボールをする事が大切だという事を実感しました。

2. 日本チーム・選手との違い

6ヶ国の参加で行われた世界大会ということで、参加して特に印象深く感じたのは日本には無いアメリカのパワーでした。一振りで試合を決めてしまうそのパワーが、足を使いコツコツと繋ぐソフトボールをしている日本との大きな違いだと感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

天候の関係で大会日程が大幅に変更されたためコンディショニングが難しかったです。しかしそういう状況の中でも正確なプレイをする為に、しっかり体調管理をしていかなければならないという事を強く感じました。

4. 後輩達にアドバイス

単独チームと違い混成チームは、短期間の中でチーム作りをして試合に臨まなければなりません。そういう中でそれぞれが相手の気持ちを理解する事が必要だと感じました。最初は難しいと思いますが、積極的にコミュニケーションをとっていく事が大切だと思います。

5. その他

国内合宿も合わせ、約1ヶ月間大学選抜チームとして練習や試合をしましたが、良い仲間とプレイ出来て本当に幸せでした。短い期間でしたが、一致団結し全員が優勝を目指しプレイしました。また、監督をはじめ、スタッフやたくさんの方々のご指導・ご協力そして、この様な機会を与えて頂いたことに感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

東北福祉大学 2回生 加藤 恵理

1. 国際試合に出場して

初めての国際大会を経験させて頂き、最高の舞台でプレイすることができ、また、素晴らしい仲間・スタッフと出会えた事をととても嬉しく思います。この大会を通し、自分自身のレベルを知ると共に、世界と戦う貴重な体験ができた事は自分自身の成長につながり、とても良い経験になりました。

2. 日本チーム・選手との違い

日本は投手を中心にしっかりと守りのチームだと思います。力ではなく、技とチームワークが日本の武器だと思います。それに比べ、他国のチームは守備よりもバッティングを重視しており、どんな球にもフルスイングで積極的な選手が多かったように思います。また、個々の全てにおける力(精神面など)が強いという印象を受けました。

3. コンディショニング（体調管理）

現地に慣れる事が大事だと思います。食文化の違いに戸惑いましたが、日本からもっていった食料が非常に役に立ちました。また、温度と湿度が高く、体力を奪われないようにする事と、スタメンが万全で臨めるよう、お互いに支え合うことが大切だと思います。

4. 後輩達にアドバイス

世界の舞台でも、学生スポーツであることを忘れず、最後の最後まで諦めずに攻める気持ちを持ってほしいと思います。そして、日本チームらしく自分達のプレイをして、今度こそ金メダルを目指し頑張してほしいと思います。

5. その他

世界大会に出場させて頂くにあたり、たくさんの方々の応援や支えがあり、最高の仲間とプレイできたことに感謝したいと思います。3位という結果ではありましたが、チームワークは世界一だったと思います。この経験を今後の活動に活かしていきたいと思います。

日本体育大学 4回生 鈴木 紅美

1. 国際試合に出場して

私は、これまで13年間のソフトボール生活の中で、環境に恵まれ何度かの国際大会を経験することができました。今年で現役引退を決めた私にとって、最後の国際大会のチャンスを掴むことができ、大変嬉しかったです。また、前回大会を経験しているのは私だけだったので、チームでの役割に責任を感じました。自分がチームの為にできることを全てして、世界一になろうと思いました。

2. 日本チーム・選手との違い

ライバルのアメ리카チームは、パワー・スタミナといったオーソドックスなチームのような印象を持ちますが、私は計算高く相手をよく研究する頭脳的チームであると思いました。セーフティーやスラップも独特で足も速く、セカンドの私はとても神経を使いました。対戦相手に怖さを与えるという点で、やはり日本を上回っていると思いました。

3. コンディショニング (体調管理)

国際大会では黄色ボールになり、力のあるピッチャーとの対戦になるので、私は事前にリストと体幹強化を行い、打ち負けないようにします。また、長期遠征中は太らないように気を付けます。今回現地は大変暑く、湿気が多いという気候でした。台風の影響で練習が思うようにできませんでしたが、施設を利用しトレーニングを行って体調管理をしました。

4. 後輩達にアドバイス

大学生も国際大会の道が開けた今、星野昭先生が言われたように、日本も他国同様、大学生がソフトボール界を引っ張っていければいいと思います。学びながらソフトボールが極められる環境になってきているので、ソフトボールが発展していく為にも、視野を広げ多くの事を吸収してほしいと思います。また、次回大会は、是非金メダルを捕って下さい。

5. その他

今回の選抜チームは、堅いチームワークと勝利に執念のあるチームでした。そんなチームになれたのは、スタッフの方々のお陰だと大変感謝しています。良いチームだったからこそ負けた時は本当に悔しかったです。私は試合で重大なミスをしました。本当に申し訳

ないと思いました。しかし、そこから最終戦の後倒れるまで、自分の限界までチームの為にプレイしました。世界の舞台でチームの為に全力でプレイできたことは、私の誇りです。ソフトボールに13年間捧げて良かったと思える経験になりました。

日本体育大学 3回生 高橋 あゆみ

1. 国際試合に出場して

大会は台風の影響で予定どおり行うことが出来ず、試合日程が、日々変わっていく状況でした。そんな中、選手達は集中力を切らさないようにとお互い大会の目標を口に出し合いながら意識を高めていきました。大会の目標というのは、もちろん世界一になることです。「日の丸を背負っているんだ」という気持ちは選手全員が一時も忘れたことはありませんでした。結果は、準決勝で優勝したアメリカに敗退して三位でしたが、最後までチーム一丸となり、アメリカに食らいつくことができたのも「一人は皆の為に、皆は一人の為に」という気持ちが選手全員にあったからだと思います。今は、このチームでプレイできたことを心底誇りに思っています。最後に、こんなにも素晴らしい体験が出来たのも、ソフトボール協会の皆様、監督・コーチの御支援、御指導があったからです。この経験を生かし、これからも頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

2. 日本チーム・選手との違い

大会は、アメリカチームが優勝しましたが、日本チームは手も足も出なかったというわけではありませんでした。それは、選手全員感じたことだと思います。しかし、私が、試合中に肌で感じたことは、アメリカチーム全員が、「自分達が負けるはずが無い」という強い信念で試合に臨んでいたことです。言葉は分からなくても、その気持ちというのは嫌というくらい伝わってきました。国民性の違いと言ってしまうかもしれませんが、あそこまで自信を持って試合に臨むことができるのには、その過程に、厳しい練習・努力・そして何よりもチーム内での競争があったからだと思います。強いチームというのは強くなるための努力を沢山している筈です。私達日本チームも、アメリカ以上にまとまりのある強いチームでした。しかし、強いチームが勝てるチームとは限りません。勝てるチームには何が必要なのか、彼女達の勝負に対するこだわり、情熱というものを身近に感じる事ができ、多くの勉強をさせていただきました。この気持ちを、今後のプレイに生かしていきたいと思います。

3. コンディショニング（体調管理）

今回の大会は台湾で行われました。台湾の夏は、亜熱帯地方特有の高温、多湿の気候であり、日本の夏とはまったく違うと聞いていました。そのため、日本での合宿も厚着をしてアップをするなど、暑さ対策をしていきましたが、その暑さは想像以上でした。日本チームは、暑さによる体力の消耗を防ぐため、試合前のアップを最小限でしっかり動けるよう心がけました。水分もいつもより早めの補給に心がけ、熱中症の防止に努めました。どんな環境であっても、自分の体調を万全に整えるということは、スポーツ選手として当然行わなければならないことであり、トップアスリートとしての条件だと思います。今大会では、体調管理について多くの勉強をさせていただきました。

4. 後輩達にアドバイス

私が今回の大会に出場して一番得ることが出来たものは、「チームワークの大切さ」で

す。ソフトボールは、「チームプレイ」が一番大切であるということです。今回のチームには、選手一人一人が一つのプレイについてしっかり考えて、自分の仕事の役割を果たそうという気持ちがしっかり出ていました。高いレベルでソフトを行うためには、普段の練習から技術面でも、精神面でも、考えながらソフトを行っていくことです。レベルの高い選手とは、自己中心的な考えではなく、周りの状況をしっかり把握できる選手であると思います。私も今回のチームに入って、考えが甘いということを思い知らされました。ただ毎日の練習をこなすだけでは、成長は見られません。上には上がいて、自分はまだまだである！！という気持ちを常に持ち続けていくことが一番大事なことだと思います。

5. その他

今回の大会に出場して、私はたくさんの事を得ることができました。ソフトボールという競技に必要な精神力、技術力、何もかもが自分自身まだまだであるとはっきり感じることができました。今回大学選抜として、合宿を重ねて大会に臨んだわけですが、3位という結果で終わり、やはり一番大きく心に残っていることは「悔しい」という感情です。普段一緒にプレイすることのないメンバーで試合をして、中々まとまるのは難しい状況でしたが、やはりどんな状況であっても、本当に勝ちたかった。と、ただそれだけが強く残っています。それは、私だけでなく、チーム皆が思っていたと思います。最初で最後のチームで皆がそんな風に思いあえるチームに入れたことを本当に誇りに思います。2週間の大会で、ソフトボールを通して、沢山の人と出会って、沢山の知識を得ることが出来て、今後の私の人生にプラスになる体験ばかりでした。今回の大会で感じた事、得た事を、しっかりと伝えていきたいと思っています。

東京女子体育大学 4回生 中野 久美

1. 国際試合に出場して

私は、この大会に参加して、選手一人ひとりの意識の高さを感じました。全国9大学に所属する選手が大学の代表選手としての認識とプライドを持ち、頂点を目指そうとする気持ち。互いに異なったチームの選手が選考会を含む3回の強化合宿でチーム作りをしてきましたが、お互いに相手を知る努力をし、常にコミュニケーションを取りながら短期間のうちに素晴らしいチームになったと思います。大会の結果は3位に終わりましたがこのチームで世界一を目指して戦えたことを誇りに思います。

2. 日本チーム・選手との違い

日本と外国の選手の間で感じたのはパワーとスピードの違いでした。体格は同じ大学生とは思えない程大きく、迫力もあり、それは日本の学生には、見ることのできない驚きでした。しかし、日本の選手は、外国の選手と比べ体が小さくパワーも劣る分、技術と正確さでは勝っていた様に思います。そしてまた、何よりも外国の選手の、ここぞという時の集中力はすごいものだと感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

今大会は台風の影響で試合の日程が大幅に変わり、開幕までの調整に苦労しました。グラウンドでの練習は決して十分ではありませんでした。しかし、トレーニングセンターを利用して体を動かすことが出来たので、ほぼベストコンディションで臨むことが出来ました。どんな状況にあっても大会に向けてのコンディショニングの重要性を改めて考える事

ができました。

4. 後輩達にアドバイス

特に後輩たちに伝えたい事は、どんな状況にあってもそれに負けない強い精神力を持つてほしいということです。国際大会となると国内での大会とは違っていろいろな違いがあります。様々な状況の中で、プレッシャーもそれなりに背負うものはあると思いますが、そういう状況の中でも自分のプレイが出来る強い心と精神力を持って戦うことができれば良いと思います。そして、今大会で私たちが手にすることが出来なかった世界一を成し遂げてほしいと思います。

5. その他

今回この大会に参加するにあたって、多くの方々にご指導・ご協力、そして支えを頂きました。その事に対して心から感謝したいと思います。学生時代にこんな素晴らしい体験をさせていただいたことを心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

東京女子体育大学 1回生 西川 友理

1. 国際試合に出場して

私は初めて国際大会という貴重な体験をさせて頂きました。はじめは、外国の選手と試合をすることに戸惑いや不安がありましたが、試合を重ねていくうちにいつの間にかそんな事が頭になく、「負けたくない」という気持ちが自分を動かしてくれました。そして、相手がどんなチームであっても全力で自分達のプレイをすることがとても大切なことだということを実感しました。

2. 日本チーム・選手との違い

今大会は6カ国の参加で行われましたが、どの国もそれぞれ特徴が違いました。中でもアメリカのパワーには驚きました。日本チームにはないパワーを武器として、一つのチャンスに技や戦術よりもパワーを活かした攻撃をしていました。アメリカならではのソフトボールを間近で感じる事が出来ました。

3. コンディショニング（体調管理）

開催国である台湾に入り、台風で天候が荒れ練習が何日間も出来なかったり、試合が2日間もずれ込んだりというハプニングにみまわれましたが、そのような状況の中で一人ひとりが互いにコミュニケーションをはかり、チームとしてもより一つになれたのだと思います。外国に行けば、環境や文化・食べ物など違う点が沢山ありますが、その中で、どれだけ自分自身の気持ちを切らさずに試合に臨むかが大切だと思いました。

4. 後輩達にアドバイス

今大会は、異なった大学から集まり形成されたチームなので、短期間の間でチームを作り、世界を相手に戦わなければなりません。そこで一番大事なのは、チームは自分のために、自分はチームのためにあるという事を認識する事だと思います。

5. その他

今回私は、このような貴重な体験をさせて頂いて、「気持ち」の大切さを改めて実感する事が出来ました。そしてまた、この素晴らしい環境のもとで思い切りソフトボールが出来たことをコーチングスタッフをはじめ、関係者の方々に感謝したいと思います。今後はこの体験を無駄にすることなく日々努力していきたいと思います。本当にありがとうございました。

ました。

園田学園女子大学 4回生 平林 真由子

1. 国際試合に出場して

日本とは食物や飲み物がまったく違って、食べられないことがあり、体調も万全じゃないまま試合に入った部分もありましたが、外国に行って、食物や飲み物が違う中で、どれだけ自分でコンディションを整えられるか、で勝負が決まってくると思いました。

2. 日本チーム・選手との違い

パワーが違うと感じました。アメリカの選手は、力もあり足もすごく速かった。技術的には日本の選手は負けていなかったと思うし、勝っていたと思います。スピード感とか、パワーをもう少しつけたら負けなかったと思いました。ワンヒットで相手の隙をつき、セカンドまでいくことや、バッティングは、何も恐れず、思いっきり振っているのが、日本と違うと感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

食事が日本とは違うので、好き嫌いが激しくなりがちですが、できるだけなんでも食べるようにし、外国は気温も違うので、体力が衰えないようにしないといけない。私たちは、お昼からの試合だったので、朝に動いて試合前の全体のアップに入ったけど、やっぱり全体のアップまでに個人で動いていると体が動きやすかったと思ったので、試合前にできるだけ個人で動く時間を作ったらいいいと思いました。

4. 後輩達にアドバイス

パワーをつけることはもちろんだけど、パワーを外国人より強くするのは難しいので、それ以外で、技術面の向上や、常に隙を狙う走塁など、考えれば勝てる方法はいっぱいあると思うので、世界一をとれるように頑張ってください。

大阪国際大学 4回生 舟木 千恵

1. 国際試合に出場して

私にとって初めての海外、国際試合で不安な面もたくさんありました。しかし、大会期間中の試合や歓迎行事、宿舎などで温かく迎えられ、とても嬉しく心に残りました。参加国や台風のため試合数が減り、非常に残念な面もありましたが、外国選手と試合をすることで今、自分が持っているものや足りない部分をはっきり見つけることが出来、わたしにとってとてもよい経験になったと思います。

2. 日本チーム・選手との違い

外国選手は体格も日本人とは比べ物にならないほど良く、パワーでは勝てないということを感じました。しかし、日本人は違う部分で勝てると感じ、プレイの正確性や考えるソフトボールでは一流のものであると思いました。

3. コンディショニング（体調管理）

やはり、海外ということではいつもとは違う環境で戸惑う面が多々あり、体調は崩しやすいかと思います。しかし、スタッフの方々による細かな配慮のおかげでよい状態で試合に臨むことが出来ました。今回は台湾での大会で高温多湿の中、ウォーミングアップは「たくさん汗をかく」ということより「やり過ぎない」ということを心掛けました。

4. 後輩達にアドバイス

日本代表に選ばれたという自覚と誇りを持って、大会に臨んでください。そして、自チームに戻ったときには自分が経験したことを伝えられるように頑張ってください。

5. その他

多くの方々の協力があったからこそ、私たちはこの大会に出場することが出来たと思います。この大会だけに限らず、国内外の試合、全てにおいて多くの方々が関わって運営できているという感謝の気持ちを忘れずにこれからもソフトボールをしていきたいと思えます。

日 程

7月11日(火) 14:15 成田空港集合・結団式
18:10 台湾高雄へ出発 23:00 長榮大学到着 時差約1時間
7月12日(水) 国旗掲揚式・調整練習
7月13日(木) 台風のためトレーニング
7月14日(金) テクニカルミーティング・トレーニング・調整練習・歓迎夕食会
7月15日(土) 台風のため試合は中止・トレーニング・オープニングセレモニー
7月16日(日) 台風のため試合は中止・トレーニング
7月17日(月) 大会開催 日本16-0 南アフリカ
7月18日(火) 日本5-6 台湾 日本2-4 アメリカ
7月19日(水) 日本10-0 タイ
7月20日(木) 日本4-2 オーストラリア
予選戦績3勝2敗、決勝トーナメント(プレイオフ) 1~4位決定戦へ
7月21日(金) 日本2-0 オーストラリア
7月22日(土) 日本2-3 アメリカ、第3位銅メダル サヨナラパーティー
7月23日(日) 観光(孔子廟見学等)
7月24日(月) 8:05 台湾高雄出発 12:45 成田空港到着 解団式

後 記

大きな収穫として、大会中に南アフリカチームのヘッドコーチから、日本チームのようなソフトボールを目指したい(技術・マナー等)との手紙をいただき、交流を深めることができた。試合を通して国際大会で戦っていくには、①混成チームであることから、基本技術がいかなる場面においてもプレイできること。具体的には、捕球、送球、そしてプレイは継続されていること。②各選手は試合の状況を理解・把握して、役割を果たすために確実にプレイできること。③ソフトボールの特性であるagility(敏捷性)の能力を高めること。④パワーのスタミナの能力を高めること。具体的には無氣的・有氣的能力を高めるために、コンバインド・トレーニングが必要であること。⑤食事と栄養についての理解を高めること。⑥目的意識を高いレベルにおき(国内でのレベルで満足しない)、積極果敢に戦う姿勢を高めること。等が重要であると感じた。

最後に、日本チームは3位に終わりましたが、甲佐団長を中心としてスタッフと選手が一体となって戦いました。来年のユニバーシアード大会では優勝しなければなりません。

そのために、課題を克服しつつさらに選手強化に努めたいと考えています。（末井健作）

日本チームは選手選考・チーム編成の段階でバランスのいい人材が集まった。大会中も個々の役割がはっきりし、攻撃型から守備固めの布陣へという流れができた。大会全体を振り返ると投球・打撃のような出力系は体格・体力に勝るアメリカが抜きんでていたが、投手のコントロール、野手の連携、機動力を含めた攻撃という点では日本チームがトップクラスであった。特に攻撃の面で日本チームは、110キロは超えるスピードボールと上下の変化球を持つアメリカの投手から毎試合得点し、スコアリングポジションにも何度もランナーを進めアメリカを追い詰めた。戦略はあった。打力ではなく、チームで一つの技術を徹底することによって生まれた打線が攻撃力となり得点へと結びついた。今後の課題としては、サッカーW杯でも課題となったフィジカル面（体力・持久力）の強化が挙げられる。その象徴的な試合が決勝トーナメント2試合目のアメリカ戦で、タイブレーカーにまで持ち込みながら最後は暑さと疲労で力尽きてしまった感がある。2回行われた合宿でも、暑さ対策と称し様々な準備を行ったが、暑さと疲労は想像を遥かに超えた。日本の大学チームでは運営上、専門のトレーナーをつけるのが難しく、トレーニングからケアにいたるまで全て選手任せというのが各チームの実情である。大学ソフトボール界全体の課題として、国際大会でも浮き彫りとなった。（舟山健一）

今回は、大会前に2回の強化合宿が実施でき、日本代表・B日本代表と試合が行えたことで、大学日本代表チームの戦い方がある程度確認され大会に臨めた。また、強化合宿では星野強化委員長より技術指導・戦術指導を受け、チームで共通理解する守備・攻撃の内容が確認された。その結果、本番の試合では全試合で得点することができ、強化合宿、前回の大会での反省が活かされた形となった。調整については、台湾台南市は熱帯気候に位置し、選手が高温多湿の環境に慣れるのには時間を要した。曇りもしくは雨での環境は、日本より湿度が高いと感じるほどであったが、晴天時の環境は想像以上に選手の体力を消耗し、軽い熱中症にかかった選手もいた。前回のアメリカ大会でも感じたことであったが、現地での環境に慣れるには最低3日間が必要である。また、今後の強化を考えると、上位チームにおいて前回大会も出場した選手は、アメリカ2名、台湾8名、日本1名、オーストラリア6名であった。過去の実績だけで評価するのも問題ではあるが、世界大会で勝つには育成を考えた視点で選手選考する必要もあると思われる。（久保田豊司）



【研究紹介】 ウィンドミル投法における非利き腕のたたみこみ動作がボールスピードに及ぼす影響について

松下健二（兵庫教育大学）

ソフトボール、ウィンドミル投法、非利き腕、ボールスピード

1. 目 的

ウィンドミル投法でのボールスピードを高める要因はこれまでの種々の研究であきらかにされてきた。しかしながら、これらの全ては利き腕と躯幹の動きを対象としたものであり、非利き腕の動きには注目していない。

そこで、本研究ではソフトボールの投手に非利き腕のたたみ込みを意識したフォームで投球させ、このことがボールスピードを高めるための要因になるか否かを検討するとともに、高めた際の身体操作を分析することを目的とした。

2. 方 法

男子大学ソフトボール部投手7名を被検者とし、まずスピードを重視して通常のフォームで5球投球させ、最高速度と5球の平均速度を算出した。次に、非利き腕をたたみ込むフォームで5日間の練習をさせ、上記と同様の測定を行った。このうち最も効果の見られた被検者を対象にして通常のフォームと非利き腕たたみ込みフォームの動作分析を行った。

速度の測定はスピードガンを用いて行い、動作分析は3次元解析を行った。

3. 結果並びに考察

表1は通常時と非利き腕たたみ込み時の被験者A～Gの最高速度と平均速度を表した。

非利き腕たたみ込みフォームで速度が向上したものは3名みられ、低下したものは2名(時速1km減)であった。向上した者は時速2～3kmの伸びがみられた。また、平均速度でみると非利き腕たたみ込みフォームの方が7名中6名が高いものであった。

以上のことは、非利き腕を従来のほぼ伸ばした状態でなく、意識的に抱え込む投法の方がボール速度を高めることを示唆している。

表1 通常フォームと非利き腕使用時のフォームの比較

	①	②	③	④
A	96	95	92.4±2.5	93.6±0.9
B	94	97	90.2±2.2	93.4±2.5
C	92	95	89.6±1.8	92.0±2.1
D	85	87	83.2±1.5	85.2±1.3
E	85	85	82.8±2.2	81.4±2.6
F	91	90	88.2±4.2	88.8±0.8
G	93	93	90.8±2.3	91.0±2.0

[単位: km/h]

(①通常フォームの最高速度②非利き腕使用フォームの最高速度③通常フォームの平均速度④非利き腕使用時フォームの平均速度)

次に非利き腕かかえ込みフォームで最も速度の高かった被験者Bを対象にして両投法時の動作分析を行い、速度を増す要因を明らかにした。

フォワードスウィング(利き腕が上部の位置からリリースまでの所要時間は通常時0.183秒であり、かかえ込み時0.164秒であった。また利き腕が水平位からリリースまでの所要時間も、通常時0.083秒、かかえ込み時0.064秒であり、かかえ込み時の方が短かった。このことはスウィング時の時間の差は利き腕が水平位からリリースまでの速度の違いで表されていることを示している。

この間の両腕の動きについてみると、左腕の利き腕水平位からリリースまでの速度低減は通常時の方が大きかった。このことは通常時では急激に左腕の動きを止めているのに比して、かかえ込み時ではかなり高い速度を左腕がリリースまで保っていたことを示し、左腕のたたみ込み動作と後方への引き動作が行われていたものと考えられる。

右腕の動きについてみると、通常時では水平位前左右の肩を結ぶ線よりも前方にあるのに比して、かかえ込み時ではすでに後方へ引かれていた。リリース時には同値であったことからかかえ込み時のこの間の右腕のフォワードスウィングは早期に投球方向に向き直線運動を行っており、このことが時間短縮に働いたと考えられる。

※編集部註：スポーツ教育学研究 ー第26回大会号ー より転載

文部科学大臣杯第41回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成18年 8 月25日(金)～8 月28日(月)

会場：愛知県豊橋市豊橋市営球場他

大会概要

今年で41回目を迎えた文部大臣杯全日本大学男子選手権大会は、市制施行100周年記念事業の一環として、南に太平洋、西に三河湾、東に山々をひかえた豊かな自然と温暖な気候に恵まれた人口38万人の中核都市愛知県豊橋市で、全国の大学の精鋭36チームが出場、絶好の天候のもと若々しい熱気あふれる試合が3日間にわたり繰り広げられた。

試合は豊橋市営球場を中心に、東田球場、石巻広場の4球場で開催されたが、どの試合も大学生らしく、敗れても自分達は一生懸命プレイしたというさわやかな風をグラウンドに残し、観客に感動を与えてくれた。

特に本大会はすばらしい投手戦が多く見られ、実に無安打無得点試合を3人の投手が樹立したほか、最多奪三振記録が20年振りに、最多連続三振記録が12年振りに塗り替えられたのに加え、両チーム合計最高奪三振記録の新記録が生まれるなど、投手力が深く印象付けられた大会でもあった。

また以前は名門校と言われる常連大学が必ず上位をしめていたが、地方大学も着々と実力を付けてきている手ごたえも感じた大会であった。

印象に残った選手

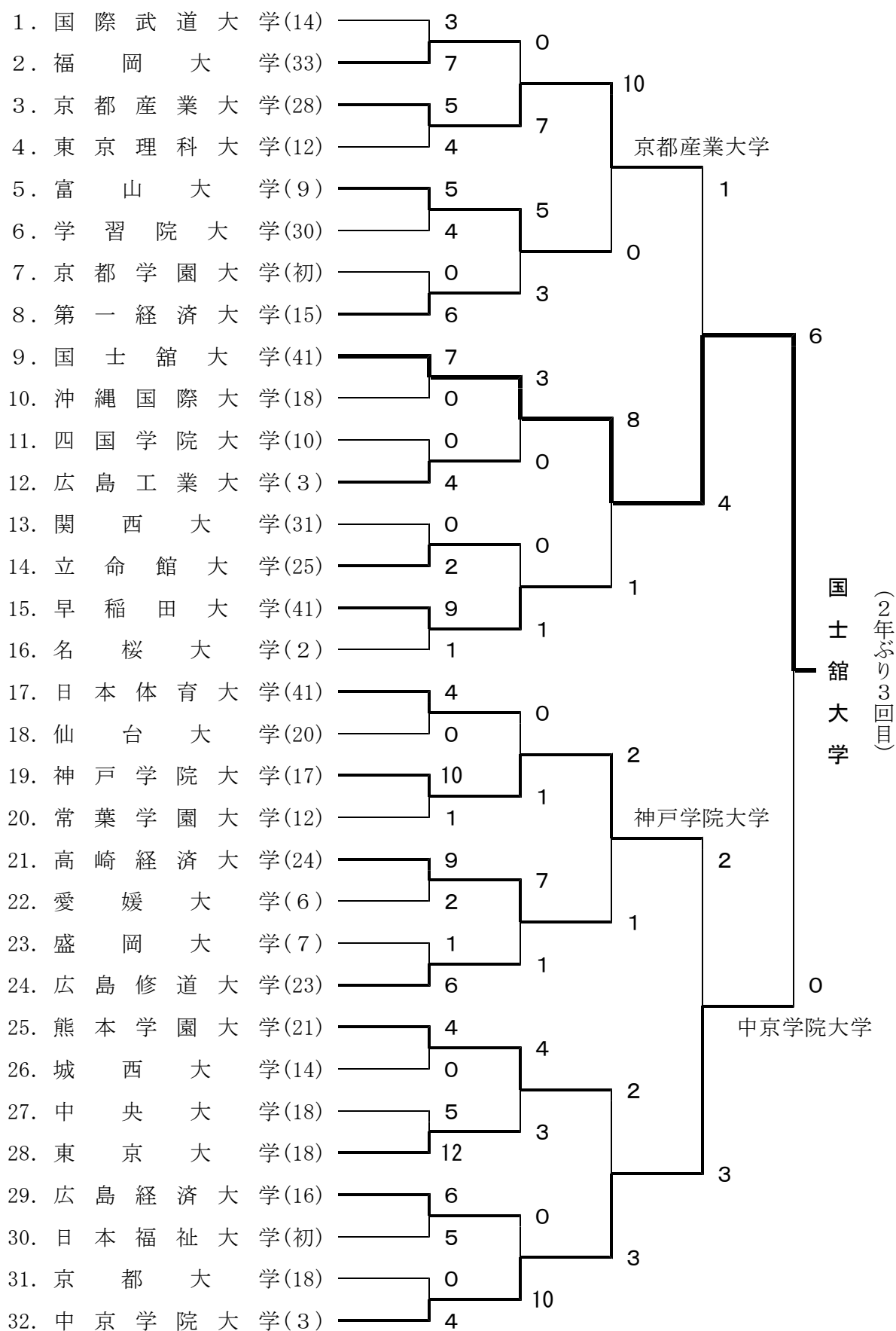
無安打無得点試合を達成した 第一経済大学【山本慎也投手】・早稲田大学【吉形太祐投手】・神戸学院大学【小藤透投手】。

一試合最多奪三振記録の新記録を20年ぶりに塗り替え、さらに連続三振記録を12年振りに塗り替える快挙を成し遂げた、日本体育大学【高橋速水投手】、また優勝の原動力となり一人で5勝をあげ大会随一の57の三振を奪うなど活躍した国士舘大学【諸見里俊投手】。投打にわたり大活躍、準決勝進出の原動力となった京都産業大学【松田光投手】等が深く印象に残った選手である。(大会記録長 山崎 修)

講評

これまでのインカレは、どちらかといえば打撃戦が多く、壮絶な打ち合いという印象が強かった。しかし、本大会は大会概要にあるように、投手が目立った大会になった。その象徴となったのが名門日本体育大学であった。初戦、仙台大学から20奪三振を奪ってあわや完全試合かという1安打完封で勝ち上がったものの、続く2回戦では、神戸学院大学に無安打無得点で敗れることとなってしまった。投手戦での一球とミスの怖さを思い知らされる試合となった。最終結果では好投手を要する国士舘大学が2年ぶり3回目の優勝に輝いたが、準優勝の中京学院大学は、世界ジュニア選手権大会準優勝に貢献した好投手を有し、失礼ながら、山奥の歴史もない小さな大学でもやれば出来るという希望と勇気を我々に与えてくれた。最後に、38万都市の3会場4球場という大会で、案内が徹底せず、観戦者にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。(東海地区常任理事 水谷 博)

大会結果



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

★第1日目（8月26日）1回戦

国際武道大学：0000201：3 ●平山－高嶋

福岡大学：106000x：7 ○坪内－平山

（二）杉山、高嶋（国）、（三）黒木、栗尾（福）、（本）松尾（国）

福岡大学2回戦進出

3回には打者一巡の長打攻撃で圧倒していたが、後半に反撃を受け辛くも逃げきった。一方、国際武道大学は、相手平山投手を打ち崩せなかったが、松尾の本塁打と相手の失策で追加点したものの再三の好機に適時打が出ず惜敗した。

東京理科大学：010003000：4 ●高木－土肥

京都産業大学：001002101x：5 ○松田－半田

（二）今井（東）、松田（京）

京都産業大学、9回タイブレーカ、6番井関大地、ライト前サヨナラ打!!

両チーム、前半は1対1とタイスコアで進み、6回東京理科大学は相手投手の乱れに乗り2死球と2本の単打で3点をリード、京都産業大学は6回、4連続安打で2点、7回にも4安打して1点を取り同点、試合は8回からタイブレーカに入り8回は共にあと一本が出ず、9回へ、京都産業大学は1死満塁のチャンスに井関がベンチの期待にこたえライト前に適時打し、2回戦進出を決めた。東京理科大学は6回に高木投手がペースを乱したのが痛かった。

富山大学：0100220：5 ○雨宮－後藤

学習院大学：0000022：4 ●馬場－安田

（二）平井（富）

富山大学は2回表、4番平井の死球から2つの犠打等で2死2、3塁し、8番大田の投手強襲安打で先制した。5回には1失策、2内野安打で2点、6回は4番平井の2点二塁打で加点し、計5点を取り優位に進めた。一方、学習院大学は6回裏、3安打等で2点を返し、続く7回二死満塁から1番澤田の右前安打で一点差としたが後が続かず惜敗した。

京都学園大学：00000000：0 ●島畑－前原

第一経済大学：100230x：6 ○山本－勝瀬

（二）勝瀬（第）、（本）本田（第）

第一経済大学、山本慎也投手がノーヒットノーランで、京都学園大学を下す!

第一経済大学は初回本田勝が先頭打者本塁打にて1点を先制、4回には下位打線の長短打で2点、6回にも7人攻撃で3点と着々と加点。投げては山本投手が京都産業大学をノーヒットノーランで2回戦へ駒を進めた。内訳は、四死球2、失策2、三振18、内野ゴロ2、内野飛球1であった。

国士舘大学 041110 : 7 ○諸見里、鈴木一坪松

沖縄国際大学 000000 : 0 ●西平、富山－漢那

(二) 加藤(国)、(三) 益田、澤田、加藤(国)

国士舘大学、沖縄国際大学を投打に圧倒コールドで下す。

国士舘大学は2回打者一巡の攻撃で安打4本2四球を集め一挙4点を挙げ試合の主導権を握った。その後も攻撃の手を緩めず長打を有効に生かし5回まで各1点を追加。諸見里、鈴木の後継投で沖縄打線を完封5回コールドで勝利した。一方沖縄国際大学は初回から6連続三振を喫し、唯一の好機3回無死1、2塁を生かせず初戦突破はならなかった。

四国学院大学 0000000 : 0 ●畠中、日本－吉尾

広島工業大学 013000x : 4 ○野田－篠原

(二) 岩尾(広)、(三) 野田、水田(広)

広島工業大学 2回裏 野田の三塁打を足掛りに先制し、3回裏岩尾の二塁打と四国学院のミスに乗じて3点を追加し、投げては野田祐介無得点に抑え投打に活躍勝利する。四国学院はチーム9人で臨み2番手投手日本が登板してからは完全に抑えるも敗退する。

関西大学 0000000 : 0 ●北村、谷川－田代

立命館大学 001100x : 2 ○森脇－根上

(二) 長岡(立)

立命館大学が、息詰まる投手戦に勝利した。

立命館大学は、3回、安達が四球で出塁後、犠打などで一死3塁とし、長岡の犠飛で1点を先制。4回には、一死満塁から根上の犠飛で1点を加えた。投げては、森脇投手が散発の4安打に抑え、完封勝ちを収めた。関西大学は、再三犠打で走者を進めたが、あと1本が出なかった。

名桜大学 10000 : 1 ●奥間－仲嶺

早稲田大学 3024x : 9 ○高原－北澤

(二) 木原、青山(早)、(三) 青山(早)、(本) 八木(早)

V2目指す早稲田1回戦を圧勝！

初回の守りは失策で1点を取られたが、攻めの時は的確に走者をため、4番青山の走者一掃右中間三塁打、木原の左翼越え二塁打等で3点をあげ3回にも5番八木の右越え2点本塁打、更に4回には、打者一巡の攻撃で4点を追加し、勝利を決定づけた。名桜も足を使った攻撃を試みたが打線がつながらず初戦敗退した。

仙台大学 0000000 : 0 ●三浦－真壁

日本体育大学 000301x : 4 ○高橋－松本

(二) 南條(日)、(本) 川崎②(日)

日本体育大学 2本の本塁打で快勝！

4回裏、二死後四球の走者をおいて、6番南條の二塁打と7番川崎の中堅手越え、2点

本塁打で3点を先制する。続く6回にも7番川崎の2本目の本塁打で1点を挙げ試合の主導権を握り、仙台大学にスキを与えず快勝。一方仙台大学は日本体育大学の高橋投手に20三振奪われ、最終回に1安打で完全試合をまぬがれるのがやっとであった。

神戸学院大学 5 3 1 1 0 : 10 ○小藤、西川(勝)ー北村、西川(豪)

常葉学園大学 1 0 0 0 0 : 1 ●米田、伊奈、米田ー山田

(二)大田(常)、(本)久保川(神)

神戸学院大学コールドで圧勝2回戦へ進出

神戸学院大学は初回四球と相手内野手の失策、4番西川の安打で得点、6番久保川の2点本塁打、その後四球、安打、死球、内野手の失策、打者11人の猛攻で一挙5点をあげ試合の主導権を握る。続く2回相手投手の乱れに乗り3点をあげ試合を決定づけた。常葉学園も1回裏2番太田の二塁打、3番長田の安打で1点を入れたが、後続を抑えられ敗退した。

愛媛大学 1 0 1 0 0 : 2 ●大西、仲田ー寺本

高崎経済大学 0 3 1 4 1x : 9 ○佐土原ー降矢

(二)土屋(高)、(三)桑原(愛)、(本)恒川(愛)土屋(高)

高崎経済大学が佐土原剛投手の好投と、好機を生かした攻撃でコールド勝ちした。

高崎経済大学は、2回に足を絡めた攻撃で逆転し、4回には、四球に相手の失策から得た一死満塁の好機に3番土屋選手の満塁本塁打で4点を挙げ試合を決めた。

愛媛大学は、初回に相手のミスに乗じて先制し、3回には1番恒川選手のランニング本塁打で1点差まで追い上げ、粘りを見せたが4回以降は無安打に抑えられ敗れた。

盛岡大学 0 0 0 0 0 1 0 : 1 ●吉田ー菊池

広島修道大学 1 1 1 0 0 3 x : 6 ○井原ー越智

(二)迫川、安藤(広)、

(三)三上(広)

広島修道大学2回戦へ。広島修道大学は毎回先頭打者が出塁して小刻みに得点をして勝ち上がった。1回1番迫川の二塁打を3番安藤の犠飛で帰し、2回、3回と小刻みに追加して、6回にも9番三上の三塁打を3番安藤の二塁打と4番田中の犠飛で返し勝ち上がった。一方盛岡大学は6回の1点に抑えられ敗退した。

城西大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0 ●柴田ー伊藤

熊本学園大学 3 0 1 0 0 0 x : 4 ○米良ー中島

(本)鶴山(熊)

熊本学園大学は初回2死1、3塁で鶴山が中堅越えの本塁打で3点を先制する。3回にも先頭打者の敵失出塁を足がかりとし、後藤の中前安打で加点し優位に試合を進めた。一方、城西大学は時折走者を出す、安打を米良投手に抑えられて散発2安打に終わり惜敗した。

中央大学 02012 : 5 ●堀口、西川ー古谷

東京大学 15033x : 12 ○姜ー門馬

(二) 安藤、原、谷口 (中) 藤井、門馬 (東)、(三) 門馬 (東)、(本) 西川 (中)

東京大学 相手投手の乱調に乗り大量得点で勝利！

東京大学は相手の2人の投手の制球難に乗り、1回に先取点を取り、2回には相手守備のミスもあり5点を追加、4回には再び門馬の長打等で3点を追加し5回にも四死球走者を3番藤井の長打で返し、6安打ながら大量12点を取り大勝。一方中央大学は、2回表に谷口の二塁打を含む3安打で2点を取り一度は逆転したが、その後、投手の乱調と守備の乱れが重なり失点し5回に4番西川の本塁打で追いすがったが敗れた。

広島経済大学 0100203 : 6 ○溝脇ー山田

日本福祉大学 0100031 : 5 飯野、●吉田、飯野ー森崎、田代

(二) 松岡、小林 (日)、(三) 信藤、立永 (広)

2回に両チームが1点を取り合って以降、投手戦の様相を呈してきて迎えた5回、広島経済大学は二死1塁から1番立永の適時三塁打で勝ち越すと、次の西山の二球目投じ後に立永が相手バッテリーのスキを突きもう一点を追加。一方の日本福祉大学は6回一死1、2塁から相手守備の乱れに乗じて3点を取り逆転。しかし、7回表、広島経済大学は二死から2本の安打と四球で二死満塁にすると、4番山田の2点適時打と右翼手小林の失策で3点を取り再逆転すると、その裏の相手の反撃を1点で切り抜けて6ー5で勝利を収めた。

京 都 大 学 00000000 : 0 ●木村、北ー上総

中京学院大学 000310x : 4 ○坂本ー前田

(二) (二) 片岡、鈴木 (中)、(三) 中西 (中)、(本) 鈴木 (中)

坂本投手が10奪三振で完封し、中京学院大学が2回戦へ進んだ。0対0で迎えた4回裏中京学院は鈴木の中間本塁打で先制。続く中西も右翼線の三塁打を放ち、平山の右飛で生還、更に片岡の二塁打等この回5本の長短打で一挙に3点をあげて相手を突き放した。京都大学は坂本の球速にタイミングが合わず1安打のみ、二塁も踏めなかった。

★第2日目 (8月27日) 2回戦

福 岡 大 学 0000000 : 0 ●坪内ー平山

京都産業大学 004111x : 7 ○松田、清水ー半田

(二) 清水 (京)、(三) 半田 (京)、(本) 松田②、井口 (京)

京都産業大学、長打5本で快勝する！！京都産業大学は3回1番清水の二塁打を足場に連打と5番松田の本塁打で4点を取り試合を有利に進め、4回には井口の本塁打で1点を5回には松田のこの試合2本目の本塁打が飛び出し、さらに6回に8番半田の三塁打を清水がサヨナラ安打で返し投手松田の投打の活躍でコールド勝ちした。福岡大学は相手投手松田を打てず5安打するも、8三振と得点出来ず敗れた。

第一経済大学 0000300 : 3 ●香月、山本一勝瀬

富山大学 005000x : 5 ○雨宮一後藤

(二) 大田(富)、(本) 蘇鉄(第) 後藤(富)

富山大学が接戦を制し、準々決勝に進出。富山大学は3回、大田の二塁打と犠打、野選で先制、続いて相手守備陣の乱れと後藤の右翼線本塁打等で、この回一挙に5点をあげて試合を優位に進めた。これに対し第一経済大学は5回に蘇鉄3点本塁打で2点差とし、6回にも二死満塁と攻めたが後続を断たれて涙をのんだ。

国土舘大学 2001000 : 3 ○諸見里、鈴木一坪松

広島工業大学 0000000 : 0 ●松下一小林

(三) 安井(国)

国土舘大学 少ない得点機を生かし準々決勝へ進出。国土舘大学は初回相手野手の失策、3番安井の三塁打で先制、5番加藤の内野ゴロの間に加点する。4回5番加藤の安打、6番坪松の犠打で得点機を作り、7番佐方のバント安打、相手投手の送球エラーで得点。守っては投手諸見里が4回を11三振と抑え勝利する。広島工業大学は相手投手が交替した5回一死3塁と攻めたが後続が抑えられ得点する事が出来ず敗退した。

立命舘大学 0000000 : 0 ●森脇一根上

早稲田大学 010000x : 1 ○吉形一北澤

早稲田大学接戦を制する。早稲田大学は2回裏に四球と失策の走者をおいて、一死1・3塁から7番藤沢の犠飛、無安打で先制点を挙げる。その最少得点を、かたい守備で守りきり、準々決勝へ進出する。一方、立命舘大学は失策絡みの1点に泣いた試合であった。早稲田大学の好投手吉方にノーヒットノーラン、2四球に押えられ完敗する。

神戸学院大学 1000000 : 1 ○小藤一北村

日本体育大学 0000000 : 0 ●高橋一松本

(三) 丸尾(神)

神戸学院大学小藤、初回の1点をノーヒットノーランで死守。ベスト8へ!!神戸学院大学は初回、日本体育大学高橋の立ち上がりをとらえ、2番丸尾が左翼越えの三塁打を放った。二死後西川時、暴投・・・貴重な1点を挙げた。この1点を神戸学院大学小藤が巧みな投球で日本体育大学打線をノーヒットノーランに抑えベスト8に進出した。投球内容は、三振7内野ゴロ7内野飛球3外野飛球4四死球は5であった。一方、日本体育大学高橋投手は評判とおりの投球を見せたが味方打線の援護がなく惜しまれる敗退となった。

広島修道大学 0000010 : 1 ●井原、原一越智、高月

高崎経済大学 303001x : 7 ○佐土原一降矢

(三) 本井(高)、(本) 田中(広)

高崎経済大学が準々決勝へ進出した。広島修道大学井原投手の制球の乱れから攻撃をし、3点を先取した。更に3回に4安打を集中し3点を加点した。一方、広島修道大学は毎回

走者を塁に出すも後続が無く、6回田中選手の本塁打で1点を入れたものの好機をつぶしたのが惜まれる。

東 京 大 学 0030000 : 3 ●姜一門馬

熊本学園大学 1000003x : 4 ○米良一中島

(二) 椎葉(熊)、(本) 藤井(東)

“熊本学園大学7回に大逆転サヨナラで東京大学に勝利”3対1で迎えた最終回裏、熊本学園大学は死球と敵失3ケで2点を取り満塁で5番鶴山がレフトにサヨナラヒットで勝利。投げては米良が3点を取られながらも東京大学打線を3安打3失点で勝利投手となった。東京大学5失策で痛い黒星となった。

広島経済大学 00000 : 0 ●増澤、溝脇一山田

中京学院大学 2611x : 10 ○川井一前田、川崎

(二) 鈴木(中)、(本) 鈴木(中)

“中京学院大学、広島経済大学をコールドでください”1回裏中京学院大学は、二死2塁で4番鈴木の中堅二塁打で先制する。2回裏には6安打を集中し6点を加点し主導する。投げては中京川井投手は広島経済打線に7安打されるも0点に完封し勝利する。

★第2日目(8月27日) 準々決勝戦

富 山 大 学 00000 : 0 ●雨宮一後藤

京都産業大学 4033x : 10 ○松田、清水一半田

(二) 松田(京)、(本) 井関(京)

京都産業大学は初回、相手富山大学の守備の失策に乗じて4点を先制。3回には制球に苦しむ、富山大学雨宮から7番井関の中堅越えの本塁打で3点を追加。4回には相手の守備のミスから、バッテリーエラーも絡んでもう3点を追加。相手に反撃のスキを与えずに10-0の得点差コールド勝ちして準決勝に進んだ。富山大学は攻守共に精彩を欠き、制球難に苦しみながら投球していた雨宮を援護できないまま敗れた。

早稲田大学 000100 : 1 ●吉形一北澤

国土舘大学 101501x : 8 ○諸見里一佐方

(二) 八木②(早)、(三) 加藤(国)

国土舘大学が、諸見里投手の好投と、毎回安打で8点を挙げコールド勝ちした。国土舘大学は、初回から積極的な打撃で得点を挙げ、4回には4安打を集中し5点を挙げ試合を決めた。早稲田大学は、初回の一死満塁のチャンスを逃すと、3回以後毎回安打も、国土舘大学諸見里投手の力投に11三振を喫し敗れた。

高崎経済大学 00000100 : 1 ●佐土原一降矢

神戸学院大学 00001001x : 2 西川、○小藤一北村

(二) 西川(神)、(三) 久保川、丸尾(神)、(本) 久保川(神)

神戸学院大学がタイブレーカーで高崎経済大学を下し、ベスト4に進んだ。タイブレーカーに入った8回表無死2、3塁を切り抜けた神戸学院大学は、その裏タイブレーカーの走者を二塁におき、瀬尾がバント安打を決め1、3塁とした後、橋本が三遊間適時安打を放ち、粘る高崎経済大学を振り切り、サヨナラでベスト4に進出した。高崎経済大学は互角に試合を進めたが、8回の好機を逸したのが敗因だった。

熊本学園大学 0100001 : 2 ●米良－中島

中京学院大学 1100001x : 3 ○坂本－前田

(二) 槇田 (中)

“中京学院大学、7回二死サヨナラで勝利” 7回表、同点に追いつかれた裏二死2、3塁で7番片岡が1、2塁間を抜くヒットでサヨナラ勝ち。投げては坂本が2点を取られはしたが、7回裏味方打線の粘りで辛くも勝利投手となった。

★第3日目 (8月28日) 準決勝戦

国土舘大学 10000000003 : 4 ○諸見里－坪松

京都産業大学 0001000000 : 1 ●松田－半田

(二) 浦本 (国) 井口 (京)

両好投手タイブレーカーで決着する。両投手力投で相譲らず迎えた10回表、国土舘大学は、赤坂の死球を足掛りに、3本の安打を集中し一挙に3点をあげ、粘る京都産業大学を突きはなし勝利した。一方の京都産業大学は4回裏に1点をあげなお二死1、3塁の好機に追加点を奪う事が出来なかったことが敗因となった。

中京学院大学 00001002 : 3 ○坂本－前田

神戸学院大学 10000001 : 2 ●小藤－西川

中京学院大学、8回タイブレーカーの攻防を制し決勝へ！1対1でタイブレーカーに入った8回、中京学院大学は槇田のバント安打と敵失で勝ち越し点を挙げ、更に福重が左中間に適時安打を放ち、2点を挙げた。その裏、神戸学院大学の反撃は、1点を返し、二死2塁と迫ったが後続が凡退、緊迫した一戦は、中京学院大学が勝利した。

★第3日目 (8月28日) 決勝戦

国土舘大学 0004002 : 6 ○諸見里、鈴木－坪松

中京学院大学 00000000 : 0 ●井川、坂本－前田

(三) 小田澤 (国)

国土舘大学2年ぶりの3回目の優勝を飾る。0対0でむかえた4回の表、国土舘大学は、一死満塁の時6番打者坪平が四球を選び先制点を挙げる。更に二死後8番小田澤の三塁手の横を鋭く抜く三塁打で3点を追加して試合の主導権を握る。7回にも2点を挙げ勝利を決定づけた。一方中京学院大学は国土舘の好投手諸見里投手の前に1安打に抑えられ、12三振を奪われ完敗した。

男子大会打撃ベスト20（規定打席数12以上）

左 打	位 置	選 手 名	大 学 名	打 打 安 得 打 犠 四 死 三 盗 残 本 席 数 打 点 点 打 球 球 振 塁 塁 打	打撃率	試 合
○	6	槇田 直也	中京学院	17 17 10 3 3 ・ ・ ・ 3 2 6 ・	0.588	5
	1	松田 光	京都産業	14 12 7 4 8 1 1 ・ 4 ・ 3 2	0.583	4
	97	片岡 吾郎	中京学院	14 12 6 4 2 ・ 1 1 ・ 1 4 2	0.500	5
○	7	丸尾 啓太	神戸学院	13 13 6 2 ・ ・ ・ ・ 3 ・ 1 ・	0.462	4
○	35	鈴木 健司	中京学院	17 16 7 3 3 ・ 1 ・ 5 ・ 2 2	0.438	5
	8	加藤 博孝	国 士 館	18 17 7 6 3 1 ・ ・ 6 ・ ・ ・	0.412	5
○	7	中西 健太	中京学院	16 15 6 3 4 ・ ・ 1 5 ・ 4 ・	0.400	5
○	4	井口 裕太	京都産業	15 15 6 5 2 ・ ・ ・ 2 ・ 2 1	0.400	4
	5	久保川貴洋	神戸学院	12 10 4 3 3 ・ 1 1 ・ ・ 3 2	0.400	4
○	53	栗岡 紀之	京都産業	13 11 4 3 ・ 2 ・ ・ 3 1 3 ・	0.364	4
○	5	安井 琢磨	国 士 館	20 17 6 2 7 2 1 ・ 3 3 6 ・	0.353	5
○	4	澤田 優生	国 士 館	19 15 5 3 1 2 2 ・ 1 ・ 5 ・	0.333	5
○	3	浦本 大嗣	国 士 館	18 13 4 2 2 ・ 4 1 2 1 6 ・	0.308	5
○	8	福重 遥	中京学院	17 13 4 3 3 ・ 4 ・ 5 2 5 ・	0.308	5
○	31	清水 大輔	京都産業	16 13 4 3 2 ・ 3 ・ 1 ・ 4 ・	0.308	4
	2	坪松 悠輔	国 士 館	16 13 4 3 2 1 2 ・ 3 ・ 1 ・	0.308	5
	DP	赤坂 学	国 士 館	13 10 3 2 2 ・ 2 1 5 1 3 ・	0.300	5
	2	半田 知義	京都産業	13 10 3 1 ・ 2 1 ・ 2 ・ 3 ・	0.300	4
○	3	橋本 直幸	神戸学院	12 10 3 1 1 2 ・ ・ 1 ・ 2 ・	0.300	3
	7	小田澤正紀	国 士 館	15 14 4 2 4 ・ 1 ・ 2 1 4 ・	0.286	5

男子大会投手成績ベスト10 規定投球イニング11以上)

左 投	選 手 名	大 学 名	回	打 打 被 失 自 被 与 奪 被 投 者 者 安 点 責 犠 四 三 本 数 数 打 点 点 打 死 振 打 数 数 数 数 数 数 数 数 数 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数
	森脇 亮太	立 命 館	13	51 39 6 1 0 5 7 10 0 194	0.00	1	1	2
	諸見里 俊	国 士 館	29.2/31	07 99 13 2 1 3 5 57 0 426	0.24	5	0	5
	高橋 速水	日本体育	14	48 45 4 1 1 ・ 3 31 0 193	0.50	1	1	2
	坂本 俊行	中京学院	25.2/3	92 88 13 6 2 2 2 32 0 331	0.55	3	0	4
	佐土原 剛	高崎経済	19	76 72 16 5 3 2 2 7 3 256	1.11	2	1	3
	坪内 剛	福 岡	12.1/3	58 51 16 10 2 2 5 7 4 194	1.14	1	1	2
○	小藤 透	神戸学院	22	88 79 16 5 4 2 7 27 0 337	1.27	3	1	4
	松田 光	京都産業	27	106 98 17 8 6 3 5 38 0 351	1.56	3	1	4
	米良 英起	熊本学園	20.2/3	89 77 15 6 5 1 11 24 1 367	1.69	2	1	3
	吉形 太佑	早 稲 田	12.2/3	53 46 11 8 6 3 4 10 0 191	3.32	1	1	2

文部科学大臣杯第41回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成18年 8 月25日(金)～8 月28日(月)

会場：愛知県豊橋市豊橋市民球場他

大会概要

豊橋市制施行100周年記念大会として開催された今大会は、天候に恵まれ24チームの大学が熱い戦いを繰り広げた。

初戦はコールドゲームもあったが、1：0の緊迫した試合や逆転サヨナラゲームもあり、好試合が展開された。また、日体大の重藤投手と早稲田大の山下投手は、昨年のインターハイで活躍した投手で、1年生ながらチームの要となって、大いに活躍した。

準決勝では日体大は、1回戦から接戦を勝ち上がってきた福岡大と、早稲田大は昨年優勝の東北福祉大を破って勝ち上がった淑徳大との対戦となり、決勝戦は2年ぶりの優勝を狙う日体大と、初優勝をかけた早稲田大の戦いになった。早稲田大は応援団が太鼓やチアガールの応援で盛り上がり、選手もはりきり初回から3点を先制。打線も乗って4回には4点を加えて悲願の初優勝を手にした。

印象に残った選手

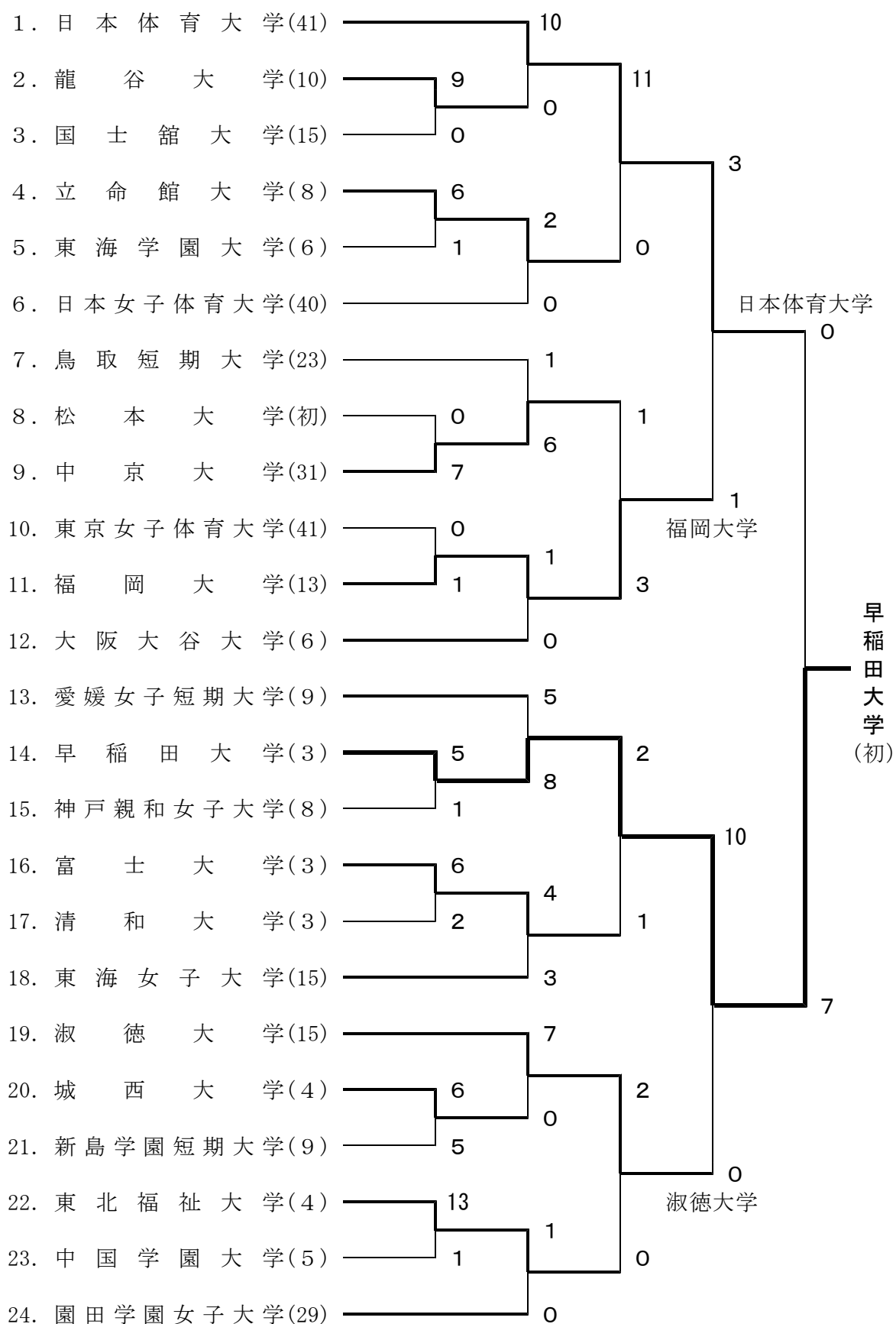
5試合を一人で投げ切り優勝投手となった早稲田大の山下友香投手がまずあげられる。記録は、奪三振23、防御率1.48であった。決勝戦で投げ合った日体大の重藤恵里佳投手も同じく奪三振23を記録した。また、打者では連続安打新記録を6とし、長打2本を含む9安打で、打撃率0.643の首位打者となったに日体大の古宇田佳愛選手が注目された。（記録長 本間恵美子）

講評

前回、豊橋市で開催されたときの女子出場チームは、わずか5チームであった。今大会の初出場は松本大学の1チーム、41回連続出場も日本体育大学と東京女子体育大学の2チームのみ、まずは、30数年間の時の流れを感じさせる大会であった。それらの古豪・新鋭24チームが暑い大会会場で熱い戦いを3日間にわたって繰り広げた。結果、昨年の東北福祉大学と同じように、3回目の出場にして早稲田大学が見事に初の優勝を勝ち取った。第38回大会の淑徳大学の初優勝以来、大学女子ソフトボール界には新しい大きなうねりが巻き起こっているのは確かなように思われる。ベスト8に勝ち上がったチームは、北海道東北2、関東1、東京2、東海1、近畿1、九州1、出場校の少ない中四国と北信越を除く全ての地区の顔がそろった。入試方法の変更が競技力の均質化をもたらした一つの要因になっていると考えられる。その典型例が優勝した早稲田大学スポーツ科学部の「スポーツ自己推薦入試」であろう。今後もこのような傾向は続くと考えられ、陸上競技の福島大学のように、国公立大学の初優勝もあり得ないことではないと思われる。

試合内容については、男子とは逆に打撃力が目立った大会であった。女子はとにかく打力のなさが指摘されるが、打たなければインカレに勝てないことが明白であることを証明してくれた大会でもあった。また、下級生の活躍が目立ったが、高校の遺産ではなく、大学で蓄えた力を発揮する3・4年生の奮起を促したい。（東海地区常任理事 水谷 博）

大会結果



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

★第1日目（8月26日）1回戦

国士舘大学 00000 : 0 ●平野、間場－藤原

龍谷大学 3222x : 9 ○馬場、真辺、宮原－福本

（二）亀本（龍）

龍谷大学 快勝

龍谷大学は、初回安打4本と盗塁3個で3点を挙げる。その後も毎回の追加得点で勝利を収める。

国士舘大学は、龍谷大学の投手に1安打におさえられ涙をのんだ。

東海学園大学 0001000 : 1 ●田中、吉田－岩崎、福島

立命館大学 110022x : 6 ○岡田－深町

（二）船越（立）、（三）斎藤・千田（東）、北岡・青木・佐古・田村（立）

立命館大学が5本の長打などで小刻みに得点、東海学園大学を破り、2回戦に進出。立命館大学は1回、北岡と青木の三塁打で1点先制。2回には船越の中越二塁打で2点目を奪った。1点差に追い上げられて迎えた5回には、佐古井の2点三塁打で突き放すと、6回には田村の2点三塁打でダメを押した。

東海学園大学は4回、千田の右中間三塁打で1点差に詰め寄った直後の一死三塁の好機を併殺でつぶしたのがひびき、最後まで立命館岡田を打ち崩すことができなかった。

松本大学 00000 : 0 ●伊東－小山

中京大学 00106x : 7 ○須賀－瀬ノ口

中京大学一回戦突破！

中京大学は3回、三番佐藤の三遊間安打を左翼手が後逸する間に、一気に本塁をかけ抜け先制点を挙げ、5回には3本の安打と相手野手の2つの失策と野選で一気に6点を入れ、コールド勝ちした。

松本大学は須賀投手の前に、1安打と抑えられ完敗した。

福岡大学 0000100 : 1 ○竹川－牧野

東京女子体育大学 0000000 : 0 ●小澤－中辻

（二）日田（福）、小柳（東）、（本）牧野（福）

福岡大学 完封で勝利する。

福岡大学は6回二死から4番牧野が右翼線にランニング本塁打して緊迫した試合に得点が入り、竹川投手が最後まで守り抜き1回戦を勝利した。一方の東京女子体育大学は3回から毎回の好機にあと1本が出ずに敗退した。

早稲田大学 0210020 : 5 ○山下一内田

神戸親和女子大学 0000010 : 1 ●井茂、山田－金川

（二）大胡・後藤（早）、森下・岩崎・高橋（神）、（三）内田（早）

早稲田大学11安打を放ち神戸親和女子大学に圧勝!!

早稲田大学は2回に2本の二塁打と短打で2点を先制、3回には相手のミスをかため1点を加点、更に6回には二死後から三・四・五番で2点加え、試合の主導権を握った。一方、神戸親和女子大学も6回に1点を早稲田大学の山下投手から返すも逆転することなく敗退した。

清和大学 0000020 : 2 ●忠田、井上－柴田、根本

富士大学 230001x : 6 ○成田、伊藤、成田－後藤

(三) 林(富)、(本) 木沢(富)

富士大学 序盤で試合を決める。

1回裏富士大学は先頭の及川が1・2塁間安打、林が野選後佐々木、木沢の連続安打で2点先制。続く2回は、木沢の中越二塁打と佐々木の安打失、2四球で3点。更に6回も林の三塁打でダメ押しの1点を加えた。

一方、清和大学は6回伊東・成田投手から4連打を放ち2点を返したが反撃遅く敗戦となった。

新島学園短期大学 0500000 : 5 ●浦野－石川、木村

城西大学 0012111x : 6 ○岡田－川口

(二) 舟山(新)、川口・井上・小野(城)

城西大学 2回5点差を3回から6回までに同点として7回先頭打者の井上センター前安打と3番大谷の四球の1・2塁からダブルスチールで1死2・3塁として佐藤のショート内野安打で得点しサヨナラ勝ち

新島学園短大は2回に6安打で5点を先行するもその後得点出来ず敗れる。

東北福祉大学 51016 : 13 ○佐藤、長南、下川－加藤、石田

中国学園大学 00010 : 1 ●伊藤、岸本、木下－岸本

(三) 加藤・本田(東)、(本) 渡辺(東)

東北福祉大学、大差で2回戦へ!

東北福祉大学は初回、無死満塁から、4番5番の連打で3点を先取、さらに押出しの四球で2点を加え、その後も着実に加点し、コールドで勝利した。一方、中国学園大学は、4回に内野ゴロの間の1点と完敗であった。

★第1日目(8月26日) 2回戦

日本体育大学 31501 : 10 ○重藤－鹿島

龍谷大学 00000 : 0 ●馬場、真辺、宮原－福島

(二) 古宇田・藤原・滝澤(日)、(三) 鈴木(日)

日本体育大学 大差で準々決勝へ

日本体育大学は1・2回と龍谷大学の馬場投手を攻め二塁打を含む6本の安打で4点をとり試合を優位にし、替わった真辺・宮原両投手からも得点を重ねコールド勝ちを収めた。

龍谷大学は重藤投手を打ち崩すことが出来ず安打1本に終わった。

日本女子体育大学 0000000 : 0 ●時田－藤川

立命館大学 000101x : 2 ○駒宮、岡田－深町

(二) 佐藤・藤川(日)、(三) 青木・船越(立)

立命館大学3回戦進出!

立命館大学は4回の裏一死、4番青木の右後方への三塁打を5番深町が返し1点先制。6回にも好機を生かし1点追加で逃げきった。

一方、日本女子体育大学は3回以外、毎回出塁したものの後続がなく無得点に終わり涙をのんだ。

鳥取短期大学 0010000 : 1 ●眞下－神保

中京大学 310002x : 6 ○須賀、佐藤－瀬ノ口

(二) 河内・高橋(中)

中京大学が初回失策をからめ、3点を先制し、2回内野安打2本と犠打で1点を加点、6回には野選と犠打の二死2・3塁に代打駒野のダメ押しとなる左翼左前の2点タイムリーで追加点を挙げ3回戦に駒を進めた。一方、鳥取は3回に四球の走者をおいて4番神保が三遊間をぬける安打で得点をしたが後続を断たれ敗退した。

大阪大谷大学 0000000 : 0 ●上村－橘

福岡大学 000100x : 1 ○竹川－牧野

(二) 牧野・竹川(福)

福岡大学が接戦をものにして、準々決勝に駒を進める。両チーム共に相手投手の制球力が良く、前半はチャンスらしいチャンスをつかめなかったが、4回裏福岡大学が二死から4番・5番の連続二塁打で1点を先制した。これを追う大阪大谷大学は、5回以降毎回安打で、1打同点機を作るがあと1本が出ず、涙を飲む。中堅方向からの強い風にも助けられたが、両投手の力強い投球が強く印象に残った試合である。

★第2日目(8月27日)2回戦

早稲田大学 0040220 : 8 ○山下一内田

愛媛女子短期大学 0500000 : 5 渡部、山口、●石田、中島－富永、千原

(二) 内田(早)、赤間(愛)

早稲田大学があざやかに逆転勝ち! 5点をリードされた早稲田は、その直後の3回表に突然乱れた相手投手の制球難につけ込み4四球と4番内田(千)の満塁走者一掃の二塁打でまず4点を返し、5回には代わった二番手投手に4本の集中打で2点を挙げて逆転。6回にも敵失を利して更に2点を加えて愛媛女子短期大学を突き放した。愛媛女子短期大学は2回に内野安打など長短5安打で5点を先行するも、その後は完全に立ち直った早稲田山下投手に抑えられ、3回以降は1安打に終わり追撃出来なかった。

東海女子大学 2010000 : 3 ●浦上－亀山

富士大学 0011101x : 4 遠藤、○成田－後藤

(二) 佐々木(富)、(三) 岡村(東)、佐藤(富)

富士大学がサヨナラゲームで準々決勝へ進出。3回迄に3点を先行されたが3回から徐々に加点し追い上げ最終回、一死後、死球で出塁した走者が捕手の失策をさそい二進相手チームの満塁策に9番寺田が右中間を抜く安打のサヨナラで勝利した。東海女子大学は初回、3回と先行したが5回迄に同点とされ最終回にサヨナラ安打をあび惜敗した。

淑徳大学 13021 : 7 ○小林、小泉、多田－澤岡

城西大学 00000 : 0 ●黒木、岡田－川口

(二) 坂上・渡辺(淑)、(三) 山口(淑)

淑徳大学準々決勝進出！淑徳大学、初回一死から連続安打で1点先制、2回に3点、4回に2点、5回に1点追加で、5回得点差コールドゲームで次に駒を進めた。一方、城西大学、3回迄無得点に押えられていたが4回に相手投手交替で満塁とし得点の機会があった但凡打に終わり、5回にも塁を踏むことなく無得点に終わった。ワンチャンスを生かせず敗退した。

東北福祉大学 10000000 : 1 ○藤原－村中

園田学園女子大学 00000000 : 0 ●山口－渡邊

(二) 加藤(東)

昨年の決勝戦の再現となったこの試合、東北福祉大学に再び軍配が上がりベスト8に駒を進めた。東北福祉大学は1回、内野安打で出塁の渡辺を1塁に置き、加藤の右越三塁打で、1点を先制。その後は走者を出すものの拙攻もあり、7回の二死1・2塁の好機にも得点があげられず、苦しんだが、初回の1点を守りきった。

園田学園女子大学は、2回無死1塁、3回一死2・3塁の好機に後続が断たれたのが痛く、4回以降は2塁すら踏むことも出来ず、昨年の雪辱はならなかった。

★第2日目(8月27日) 準々決勝戦

日本体育大学 0110306 : 11 ○重藤、金尾－鹿島

立命館大学 00000000 : 0 ●岡田、駒宮－深町

(二) 滝澤・武藤・鹿島・鈴木(日)、船越(立)、(三) 滝澤(日)、(本) 鈴木(日)

日体大、大差で準決勝進出。日体大は2回徳村安打後滝澤の右中間三塁打で先制。3回にも1点を加え5回敵失で2者出塁後、鈴木 of 左越本塁打で3点を加えた更に7回武藤の左越え二塁打を含む3二塁打、打者12名の攻撃で一挙6点を加え圧勝した。一方立命館大学は2回一死2・3塁の好機を生かせず10三振を奪われ完封負けを喫した。

福岡大学 2001000 : 3 ○竹川－牧野

中京大学 0100000 : 1 ●須賀、佐藤－瀬ノ口

(二) 竹川・真鍋(福)、佐藤(中)

福岡大学3対1にて勝利。福岡大は初回、一死満塁から5番竹川の二塁打で2点を入れ試合を有利に進め、4回に目田、高牟、真鍋で追加点を入れ勝つ。中京大学は2回先頭打者瀬ノ口の安打出塁し二死から鈴木 of 安打で1点返すもその後に得点が出来ず敗れる。

早稲田大学 1 1 0 0 0 0 0 : 2 ○山下ー内田

富士大学 0 0 1 0 0 0 0 : 1 ●遠藤、成田ー後藤

(二) 内田(早)、金森(富)、(三) 寺田・木沢(富)

早稲田大学 接戦を制し勝利する。早稲田大学は1回二死から3番朝倉が右翼線に安打の後4番内田の左翼越え二塁打で朝倉が生還し1点先制。2回には一死3塁のとき1番馬淵が左翼犠飛で大胡が生還し加点、3回には富士大学に1点差に攻められたが山下投手が最後まで投げきり勝利した。一方の富士大学は好機にあと1本が出ずに敗退した。

東北福祉大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0 ●藤原ー村中

淑徳大学 2 0 0 0 0 0 x : 2 ○多田ー金子

(二) 渡辺(東)、坂上(淑)、(本) 山口(淑)

淑徳大学 4番の本塁打で快勝！淑徳大学は初回二死後4番山口の先制本塁打で2点を取り、投手多田の力投で相手チームを完封した。東北福祉大学は初回の満塁のチャンスに先制点が取れず完敗した。

★第3日目(8月28日)準決勝戦

日本体育大学 0 0 0 0 2 0 1 : 3 ○重藤ー鹿島

福岡大学 0 1 0 0 0 0 0 : 0 ●竹川ー牧野

(二) 鈴木(日)、高牟禮(福)、(三) 古宇田(日)

日本体育大学は1点を追う5回一死1・2塁で4番古宇田の三塁打で2点を入れ逆転し、7回先頭打者緒方が安打で出塁し、これを返して勝ちを決定づける。福岡大学は2回日田、山根、真鍋の安打で1点を先行するもその後の得点が出来ず敗れる。

早稲田大学 0 3 2 2 3 : 10 ○山下ー内田

淑徳大学 0 0 0 0 0 : 0 ●多田、小林ー金子

(二) 内田(千)(早)、(三) 内田(は)・馬淵(早)、本田(淑)

早稲田大学大差で決勝進出!! 早稲田大学は2回に一拳3点を先制し、淑徳大学の多田投手から小林投手への交代もものともせず、攻撃の手をゆるめることなく三塁打1本、二塁打2本を含む13安打で2回以降毎回得点で快勝した。淑徳大学は毎回走者を出すものの山下投手に抑えられ敗れた。

★第3日目(8月28日)決勝戦

早稲田大学 3 0 0 4 0 0 0 : 7 ○山下ー内田

日本体育大学 0 0 0 0 0 0 0 : 0 ●重藤、金尾ー鹿島

(二) 内田・清水(千) (早)、 (三) 若月 (早)

早稲田大学 悲願の初優勝!!初優勝に輝いた早稲田大学は1回表2番若月の三塁打、4番内山(千)の二塁打の2本の長打に犠打を絡め3点を先制した。4回には9番からの5連打など打者9人の猛攻で4点を入れ歓喜の初優勝に輝いた。一方、日本体育大学は、相手投手の前に3安打完封に終り準優勝に終わった。

女子大会打撃ベスト10 (規定打席数9以上)

左 打	位 置	選 手 名	大 学 名	打 席	打 数	安 打	得 点	打 点	犠 打	四 球	死 球	三 振	盗 塁	残 塁	本 塁 打	打撃率	試 合
○	3	古宇田佳愛	日本体育	16	14	9	2	5	・	1	1	・	・	6	・	0.643	4
◎	8	坂上 久美	淑 徳	9	8	5	2	3	・	1	・	1	・	5	・	0.625	3
◎	7	渡辺いつき	東北福祉	10	10	6	3	1	・	・	・	1	1	1	1	0.600	3
	4	朝倉 悠子	早 稲 田	19	16	9	7	1	・	2	1	3	1	4	・	0.563	5
	9	船越 里奈	立 命 館	9	9	5	・	2	・	・	・	2	・	5	・	0.556	4
○	4	真鍋 彩加	福 岡	11	11	6	・	2	・	・	・	1	・	5	・	0.545	4
○	9	大胡 朋恵	早 稲 田	18	12	6	5	2	・	3	3	2	・	7	・	0.500	5
	5	山根 晴香	福 岡	11	9	4	・	・	2	・	・	3	・	2	・	0.444	4
○	6	田村佳奈江	立 命 館	10	9	4	1	2	1	・	・	1	・	4	・	0.444	3
○	3	木沢 加奈	富 士	10	9	4	・	2	・	・	1	2	1	1	・	0.444	3
	2	鹿島 唯	日本体育	9	7	3	1	4	・	2	・	2	・	1	・	0.444	4

女子大会投手成績ベスト7 (規定投球イニング9以上)

左 投	選 手 名	大 学 名	回	打 者 数	打 数	被 安 打	失 点	自 責 点	被 犠 打	与 四 死	奪 三 振	被 本 打	投 球 数	防 御 率	勝 試 合	負 試 合	試 合 数
○	成田 春菜	富 士	16.3/2	63	54	9	・	・	4	5	10	0	219	0.00	2	0	3
	多田 裕美	淑 徳	10.2/3	44	38	8	3	1	2	4	4	0	138	0.66	1	1	3
	佐藤 香織	中 京	9	34	33	9	1	1	1	・	3	0	108	0.78	0	0	2
	竹川 裕香	福 岡	28	112	105	26	4	4	4	3	8	0	354	1.00	3	1	4
	藤原麻起子	東北福祉	13	49	46	9	2	2	1	2	8	1	153	1.08	1	1	2
	山下 友香	早 稲 田	33	128	123	26	7	7	2	3	23	0	441	1.48	5	0	5
	岡田 結花	立 命 館	13.1/3	56	49	12	6	3	4	3	7	1	185	1.58	1	1	3

早 稲 田 の チ カ ラ

早稲田大学ソフトボール部

高柳暁子

まさか早稲田の女子部がインカレ優勝するとは。
春の東京都予選でも5位の最終通過であり、インカレには過去2回しか出場しておらず、その2回とも一回戦で大差のコールド負けを喫している。

そんなチームがなぜ優勝できたのか。私は、二つの大きな力が優勝を成しえたものだと考える。一つは早稲田大学ソフトボール部の創設者であり、現総監督の吉村正先生の「指導力」である。吉村先生にはソフトボールの技術的なご指導だけではなく、チーム運営や選手を育てるとはなど、様々なことを通してご指導頂いた。その指導力の大きさはとてもこの紙面に書ききれないものではない。そしてもう一つの力はチームの一体感であるとは私は考える。しかし、その力を説明するには少し早稲田というチームを説明しなければならない。

『インカレで勝とう、そしてインカレが終わったときには誰もがこのチームでソフトボールが出来てよかったと思えるようないいチームを作ろう。』

これが去年の9月にインカレが終わった直後に、幹部学年全員で決めた新チームの目標である。何とあいまいで甘い目標を立てているのだと思われるかも知れない。しかし、私たちが何より大切にしたいもの、それは試合に勝つことであると同時に部員達であった。

早稲田大学ソフトボール部女子部の部員は34名いるが、その競技歴・競技レベルは実に様々である。9名が大学から初めてソフトボールを始め、その中にはこれまで運動部に所属したことのない部員もいる。また、経験者の中でもレベルは様々であり、インターハイ・国体優勝経験者もいれば、中学校でのソフトボール経験はあるが高校では違う競技をしていた者もいる。このように様々なバックグラウンドを持った人たちが、毎年多くの未経験者が無数にあるサークルではなく、なぜこの部を選んでくれたのか。その理由として間違いなく挙げられるのが、部の雰囲気の良さだろう。その雰囲気こそが早稲田大学ソフト部の伝統であり、チームカラーであり、最大の魅力である。だからこそ、ただ勝つだけを目指した、ただ強いだけのチームを私たちは目指したくなかった。

だが、多くの人が知っているように、勝負に勝つということはそれほど甘いものでもない。私たちのインカレ優勝への軌跡への第一歩は、意識改革であった。吉村正先生に新チームの方針を報告したところ「インカレ優勝を目指さなくてどうする。」と一喝されたのだ。それから私たちは今の部の雰囲気、部員を大切にしながらインカレ優勝を達成する為には何をすべきなのか、試行錯誤のチーム運営が始まった。何度ミーティングを重ねても答えの見えない問題ばかりだった。インカレ直前まで、勝つためにどうすればいいかと同時に、最高のチームを作るために出来ることとは何かを模索し続けていた。

そして臨んだインカレであったが、大会中もインカレ優勝というタイトルを目指していたのではなく、このチームで一試合でも一イニングでも多くプレーしたい、その一心で全員が戦っていた。チームの想いが一つになっていることを全員が感じることで、それがまた大きな力になり、早稲田は一試合一試合成長していった。その結果初勝利を得て、初のベスト16、ベスト8、ベスト4、そして初優勝である。

このような信じられない結果を得られたことは、私たちを指導してくださった吉村先生を始めとして、いつも応援して下さるOGの方々、そして早稲田大学ソフトボール部を支えて下さったすべての人々のお陰である。最後になってしまったが、このようにソフトボールが出来る最高の環境を整えて下さった方々と、私たち幹部学年を支えて、時には引っ張ってくれた最高の仲間たちに最大級の感謝の気持ちを述べることで終わりにしたい。最高のソフトボール生活をありがとうございました。



会場：富山県富山市岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場他

チーム名	対戦相手	スコア	順位
高知パシフィックウェーブ (高知)	12	12	1
駿河クラブ (静岡)	3	12	2
嶋田クラブ (静岡)	5	15	3
中央機工 (神奈川)	4	2	4
レッツ大阪 (大阪)	16	4	5
石狩新星クラブ (北海道)	1	12	6
沖縄工芸村 (沖縄)	9	5	7
埼玉県庁クラブ (埼玉)	2	0	8
平林金属男子ソフトボール部 (岡山)	1	8	9
国士舘大学 (東京)	8	2	10
八幡浜ソフトボールクラブ (愛媛)	15	1	11
福島ソフトボールクラブ (福島)	3	2	12
大分クラブ (大分)	10	5	13
原電事業株式会社 (福井)	8	1	14
三菱自動車水島 (岡山)	1	8	15
豊田自動織機 (愛知)	9	12	16
大阪ツヅキグローバル (大阪)	15	6	17
山梨クラブ (山梨)	2	9	18
ツルギソフトボールクラブ (徳島)	0	0	19
トヨタ自動車株式会社 (愛知)	9	5	20
下関長州ソフトボールクラブ (山口)	6	6	21
大森クラブ (富山)	4	12	22
大阪桃次郎 (大阪)	2	3	23
西日本シロアリ (鹿児島)	3	5	24
株式会社デンソー (愛知)	9	1	25
秋田新電元 (秋田)	0	1	26
日新製鋼 (広島)	8	0	27
鳥建クラブ (静岡)	1	4	28
山崎クラブ (兵庫)	9	2	29
高崎市役所 (群馬)	15	0	30
ダイワアウト (佐賀)	2	4	31
ホンダエンジニアリング(株) (栃木)	3	2	32

第58回全日本総合女子選手権大会

会期：平成18年9月22日（金）～24日（日）

会場：秋田県由利本荘市由利本荘市ソフトボール場他

[illegible]

第21回東日本大学ソフトボール選手権大会

会期：平成18年8月10日（金）～13日（月）

会場：岩手県花巻市ふれあい運動広場

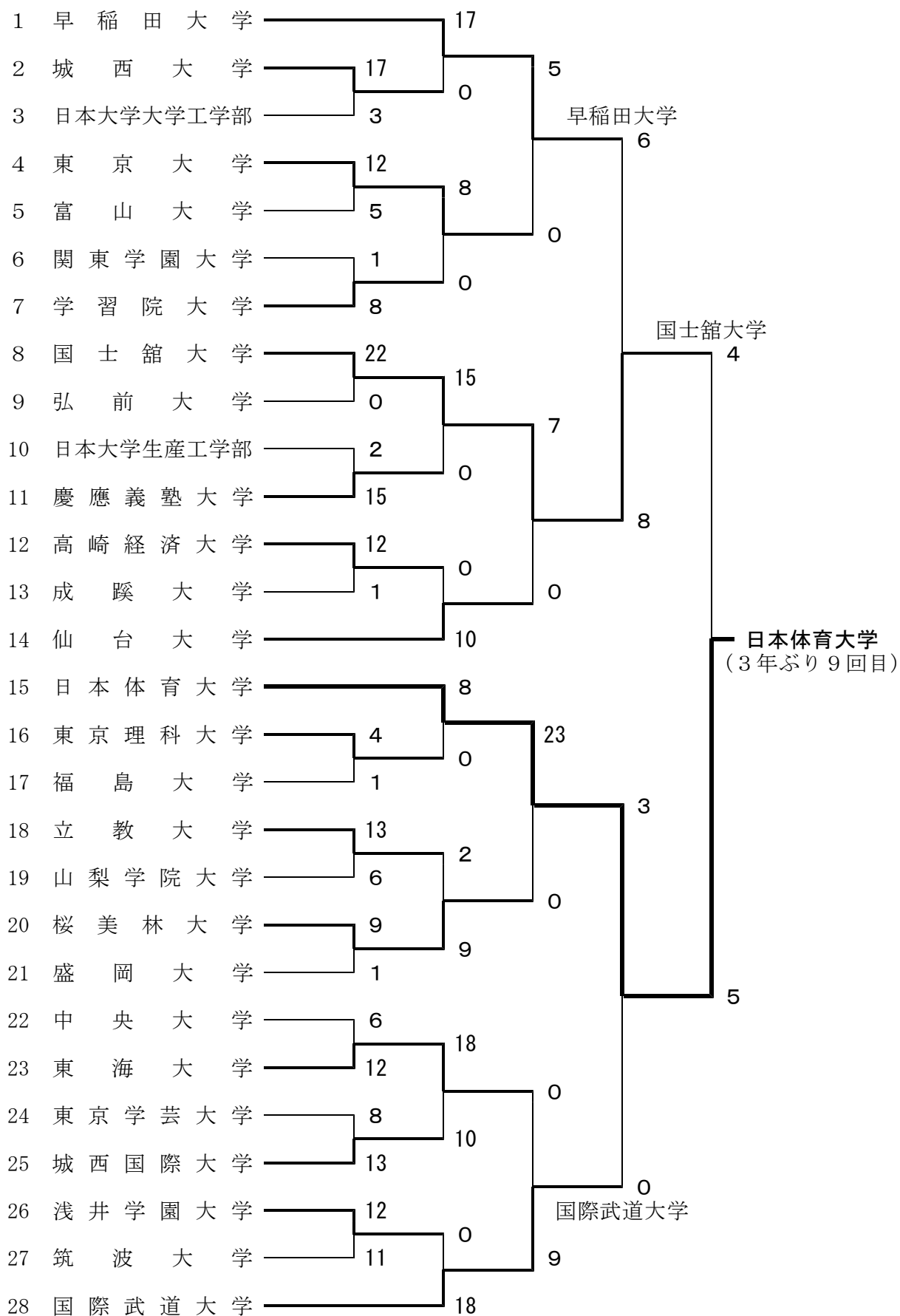
女子試合結果

順位	大学名	得点
1	東北福祉大学	8
2	埼玉大学	0
3	日本大学	1
4	早稲田大学	12
5	弘前大学	2
6	順天堂大学	0
7	東京女子体育大学	16
8	国際武道大学	4
9	盛岡大学	4
10	東京学芸大学	11
11	相模女子大学	1
12	日本女子体育大学	8
13	城西大学	1
14	文教大学	0
15	富士大学	13
16	筑波大学	0
17	国士舘大学	2
18	東海大学	3
19	学習院大学	6
20	浅井学園大学	4
21	淑徳大学	16
22	中央大学	0
23	仙台大学	6
24	城西国際大学	1
25	関東学園大学	0
26	松本大学	11
27	日本体育大学	6

トーナメント表の注記:

- 東北福祉大学 (2年連続2回目)
- 日本女子体育大
- 富士大学
- 淑徳大学

男子試合結果



会期：平成18年8月3日（木）～8月5日（土）

順位	大学名	得点
1	立命館大学	9
2	九州大学	2
3	崇城大学	6
4	岡山大学	10
5	愛媛大学	1
6	大阪府立大学	2
7	愛知教育大学	5
8	広島経済大学	6
9	京都産業大学	6
10	佐賀大学	0
11	四天王寺国際仏教大学	2
12	常葉学園大学	1
13	同志社大学	2
14	九州東海大学	3
15	福岡大学	2
16	広島修道大学	1
17	熊本学園大学	14
18	佛教大学	2
19	広島工業大学	0
20	関西大学	7
21	第一経済大学	8
22	京都学園大学	1
23	第一工業大学	2
24	中京学院大学	12
25	四国学院大学	4
26	広島大学	7
27	南山大学	0
28	松山大学	7
29	岐阜聖徳学院大学	10
30	京都大学	3
31	日本福祉大学	1
32	神戸学院大学	7

第38回西日本大学（女子）ソフトボール選手権大会

会期：平成18年8月3日（木）～8月5日（土）

会場：愛知県安城市総合運動公園

順位	大学名	対戦回数	勝利回数	敗戦回数	引き分け回数	勝率
1	大阪大谷大学	1	1	0	0	1.000
2	東海女子大学	10	0	10	0	0.000
3	大阪体育大学	1	1	0	0	1.000
4	龍谷大学	8	7	1	0	0.875
5	中京学院大学	0	1	0	0	1.000
6	鳥取短期大学	1	1	0	0	1.000
7	中国学園大学	0	0	0	0	0.000
8	武庫川女子大学	1	8	0	0	0.800
9	愛知教育大学	2	3	0	0	0.600
10	立命館大学	7	3	4	0	0.429
11	常葉学園大学	0	4	0	0	1.000
12	中京大学	10	3	7	0	0.300
13	愛媛女子短期大学	1	10	0	0	0.100
14	桜花学園大学	7	6	1	0	0.857
15	関西外国語大学	0	3	0	0	1.000
16	神戸親和女子大学	2	0	2	0	0.000
17	東海学園大学	1	2	0	0	0.667
18	福岡大学	2	2	0	0	1.000
19	日本文理大学	0	0	0	0	0.000
20	広島大学	0	2	0	0	1.000
21	大阪国際大学	7	1	6	0	0.143
22	天理大学	5	0	5	0	0.000
23	香川大学	2	0	2	0	0.000
24	園田学園女子大学	10	0	10	0	0.000

トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯 第5回大学ソフトボール東海オープン男子大会結果

会期：平成18年3月22日（水）・3月24日（金）

会場：愛知県安城市総合運動公園

男子予選リーグ戦（3月22日）

Aグループ	関 西	南 山	静 岡	順位
関 西		○ 7-0	○ 10-0	1
南 山	● 0-7		● 0-10	3
静 岡	● 0-10	○ 10-0		2

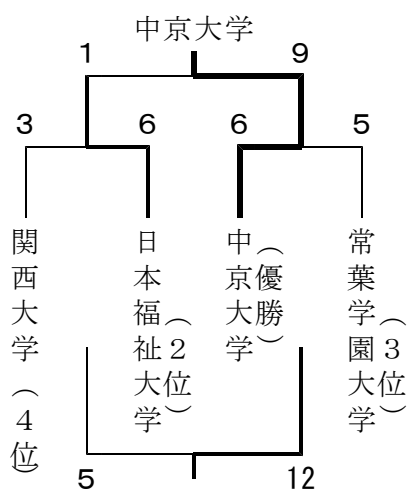
Cグループ	名古屋	佐 賀	中 京	順位
名 古 屋		● 6-14	● 6-7	3
佐 賀	○ 14-6		● 2-4	2
中 京	○ 7-6	○ 4-2		1

Bグループ	日 福	信 州	愛 学	順位
日本福祉		○ 8-0	○ 8-1	1
信 州	● 0-8		○ 18-10	2
愛知学院	● 1-8	● 10-18		3

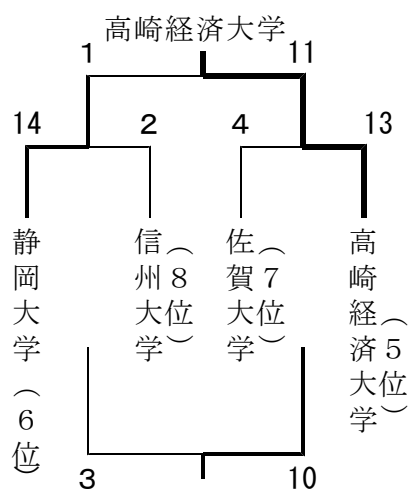
Dグループ	高 経	常 葉	愛 知	順位
高崎経済		● 1-3	○ 7-6	2
常葉学園	○ 3-1		○ 6-1	1
愛 知	● 6-7	● 1-6		3

男子順位決定戦（3月24日）

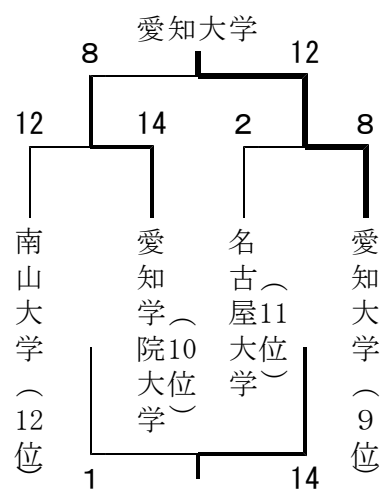
1～4位決定戦



5～8位決定戦



9～12位決定戦



男子個人表彰

- ・最優秀選手賞：深谷祐樹（中京大学）
- ・敢闘選手賞：加藤智志（日本福祉大学）

トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯 第5回大学ソフトボール東海オープン女子大会結果

会期：平成18年3月22日（水）・3月24日（金）

会場：愛知県安城市総合運動公園

女子予選リーグ戦（3月22日）

Eグループ	東 福	立命館	中 学	順位
東北福祉		○ 2-1	○ 5-4	1
立 命 館	● 1-2		○ 8-5	2
中京学院	● 4-5	● 5-8		3

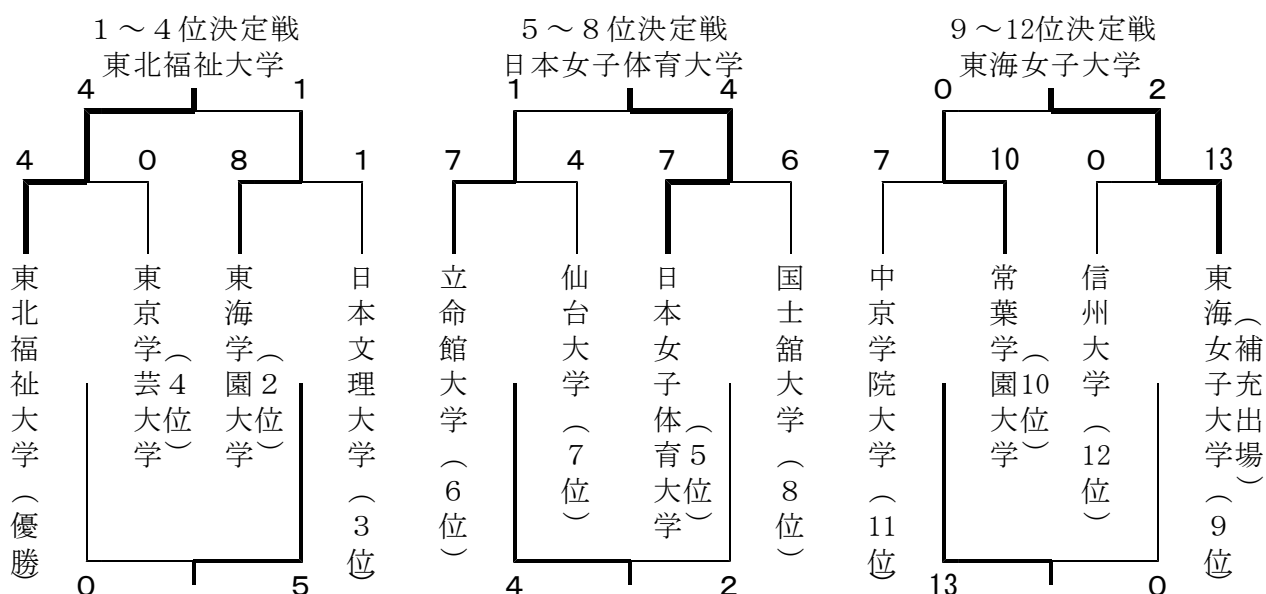
Gグループ	東 学	日女体	信 州	順位
東海学園		○ 6-1	○ 10-0	1
日 女 体	● 1-6		○ 14-4	2
信 州	● 0-10	● 4-14		3

Fグループ	学 芸	常 葉	仙 台	順位
東京学芸		○ 3-0	△ 2-2	1
常葉学園	● 0-3		● 3-4	3
仙 台	△ 2-2	○ 4-3		2

Hグループ	日 文	中 京	国士館	順位
日本文理		△ 6-6	○ 1-0	2
中 京	△ 6-6		○ 2-0	1
国 士 館	● 0-1	● 0-2		3

※中京大学は決勝トーナメントを棄権

女子順位決定戦（3月24日）



女子個人表彰

- ・最優秀選手賞：加藤恵理（東北福祉大学）
- ・敢闘選手賞：峯田 梢（東海学園大学）

第3回全国国公立大学ソフトボールオープン大会

会期：平成18年3月25日（土）・26日（日）

会場：兵庫教育大学ソフトボール場・社町グラウンド他3面

〈参加大学〉

●男子（13大学）

東京大学，富山大学，愛知教育大学，京都大学，大阪府立大学，大阪大学，神戸大学
兵庫県立大学，岡山大学，広島大学，徳島大学，香川大学，兵庫教育大学，

●女子（7大学，別枠参加2大学）

愛知教育大学，大阪府立大学，兵庫教育大学，兵庫県立大学，岡山大学，広島大学
香川大学，天理大学（特別参加），大阪国際大学（招待），兵庫教育大学

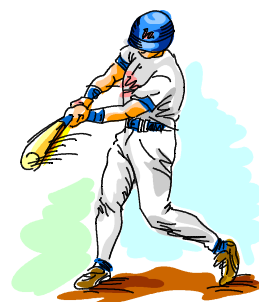
〈大会概要報告〉

今回で3回目を迎えたこの大会。第1回から連続して遠路はるばる参加してくれる「東京大学(男子)」、そして初参加の「富山大学(男子)」など、年々「国公立の輪」が広がっている。本格的シーズン前に、できるだけ練習試合的なゲームを多く！という趣旨でスタートさせたが、参加チーム数が減るどころか少しずつ増えていることは大変うれしい。

運営的には、昨年から本学ソフトボール部員に準備をほとんど任せ、参加チームとの書類（ファイル）のやり取りや、送迎、審判、弁当の手配など、すべて学生による手作りの大会である。また、グラウンドも大学内では2面しか用意できないため会場は分散するが、関西リーグ所属チームが現場で臨機応変に対応して運営してくれている。

ただ今後は、ある程度レベル別に分けて試合を実施する方向も検討しなければならないとも考えている。記録に残るような大会ではないが、「交流」とともに「研修」という意味を持っていることからして、各チームの現状レベルを少しでもアップさせるような仕掛けができればとも考えている。

（文責：兵庫教育大学 森田啓之：関西学連理事長・全日本学連近畿地区常任理事）



第8回 千葉オープン チャレンジカップ・ソフトボールフェスティバル

会 期：平成18年 3月27日（月）・28日（日）

会 場：東京理科大学 野田グラウンド

Aブロック

	千 葉 大 学	16	
2	東京学芸大学	3	0
9	東京理科大学	0	8
	国際武道大学	3	

- 1位 国際武道大学（第Ⅰブロックへ）
- 2位 千 葉 大 学（第Ⅱブロックへ）
- 3位 東京理科大学（第Ⅱブロックへ）
- 4位 東京学芸大学（第Ⅲブロックへ）

Bブロック

10	文 教 大 学	2	
	東 京 大 学	4	1
0	日大生産工学	0	9
	国 士 舘 大 学	29	

- 1位 国 士 舘 大 学（第Ⅰブロックへ）
- 2位 東 京 大 学（第Ⅱブロックへ）
- 3位 文 教 大 学（第Ⅱブロックへ）
- 4位 日大生産工学（第Ⅲブロックへ）

Cブロック

	高崎経済大学	8	
6	都留文科大学	0	1
	学 習 院 大 学	14	3
12	城西国際大学	0	

- 1位 学 習 院 大 学（第Ⅰブロックへ）
- 2位 高崎経済大学（第Ⅰブロックへ）
- 3位 城西国際大学（第Ⅲブロックへ）
- 4位 都留文科大学（第Ⅲブロックへ）

第Ⅰブロック

	学 習 院 大 学	1	
	高崎経済大学	3	2
	国 士 舘 大 学	0	5
	国際武道大学	6	

- 1位 国際武道大学
- 2位 高崎経済大学
- 3位 国 士 舘 大 学 4
- 4位 学 習 院 大 学 0

第Ⅱブロック

	千 葉 大 学	6	
	文 教 大 学	2	4
	東京理科大学	13	2
	東 京 大 学	2	

- 1位 千 葉 大 学
- 2位 東京理科大学
- 3位 文 教 大 学 6
- 4位 東 京 大 学 4

第Ⅲブロック

	東京学芸大学	7	
	日大生産工学	0	14
	城西国際大学	8	6
	都留文科大学	14	

- 1位 東京学芸大学
- 2位 都留文科大学
- 3位 城西国際大学 21
- 4位 日大生産工学 3

第7回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会 期：平成18年4月22日（土）～23日（日）

会 場：群馬県碓氷郡松井田町

横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場

西横野多目的広場野球場・小日向農村広場

【男子】

（横川リーグ）

チーム名	高崎経済	長 野	関東学園	千 葉	勝点	順位
高崎経済大学	*	○25－2	●2－3	●3－6	2	③
長 野 大 学	●2－25	*	●7－18	●0－31	0	④
関東学園大学	○3－2	○18－7	*	●3－5	4	②
千 葉 大 学	○6－3	○31－0	○5－3	*	6	①

（碓氷リーグ）

チーム名	都留文科	信 州	城 西	山梨学院	勝点	順位
都留文科大学	*	○11－4	●0－12	○7－5	4	②
信 州 大 学	●4－11	*	●0－10	○9－7	2	③
城 西 大 学	○12－0	○10－0	*	○21－3	6	①
山梨学院大学	●5－7	●7－9	●3－21	*	0	④

（順位決定戦）◇1－2位決定戦：千 葉 大 学 0－3 城 西 大 学

◇3－4位決定戦：関東学園大学 10－1 都留文科大学

◆5－6位決定戦：高崎経済大学 14－1 信 州 大 学

◆7－8位決定戦：長 野 大 学 12－19 山梨学院大学

（最 終 順 位）1位：城 西 大 学

5位：高崎経済大学

2位：千 葉 大 学

6位：信 州 大 学

3位：関東学園大学

7位：山梨学院大学

4位：都留文科大学

8位：長 野 大 学

【女子】

チーム名	関東学園	東 海	城西信州	東北福祉	新島短大	相模女子	勝点	順位
関東学園大学	*	●1－4	●1－19	●0－14	●2－6	○4－1	2	④
東 海 大 学	○4－1	*	●2－3	●0－5	○5－4	○9－6	6	③
城西・信州	○19－1	○3－2	*	●0－18	●1－7	●0－10	－	－
東北福祉大学	○14－0	○5－0	○18－0	*	△0－0	○4－0	9	①
新島短期大学	○6－2	●4－5	○7－1	△0－0	*	○14－4	7	②
相模女子大学	●1－4	●6－9	○10－0	●0－4	●4－14	*	2	⑤

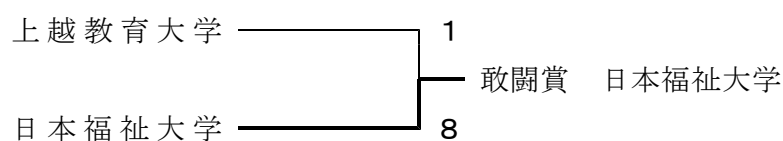
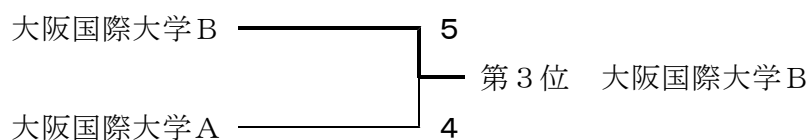
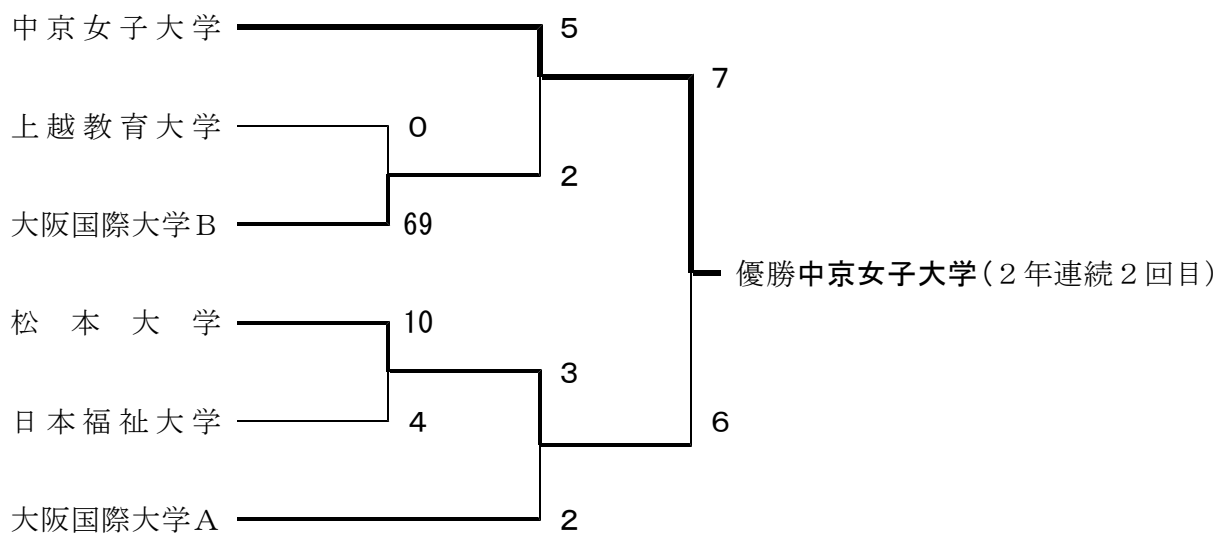
※4位－5位は直接対決による。城西大学・信州大学はオープン参加により順位なし。

第3回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成18年7月29日(土)・30日(日)

会場：長野県宮田村総合公園宮田球場

女子大会結果 (男子は開催せず)



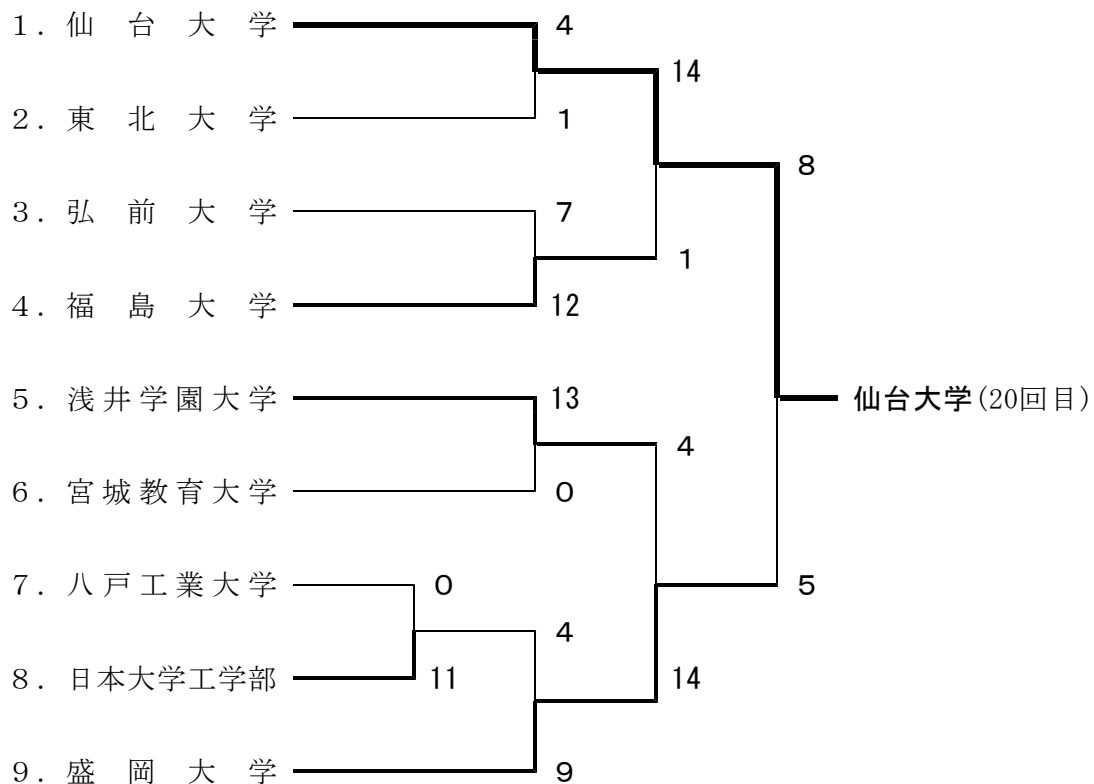
【北海道・東北地区】

第27回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会 兼、第41回全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北地区予選会

会期：平成18年5月20日(土)～21日(日)

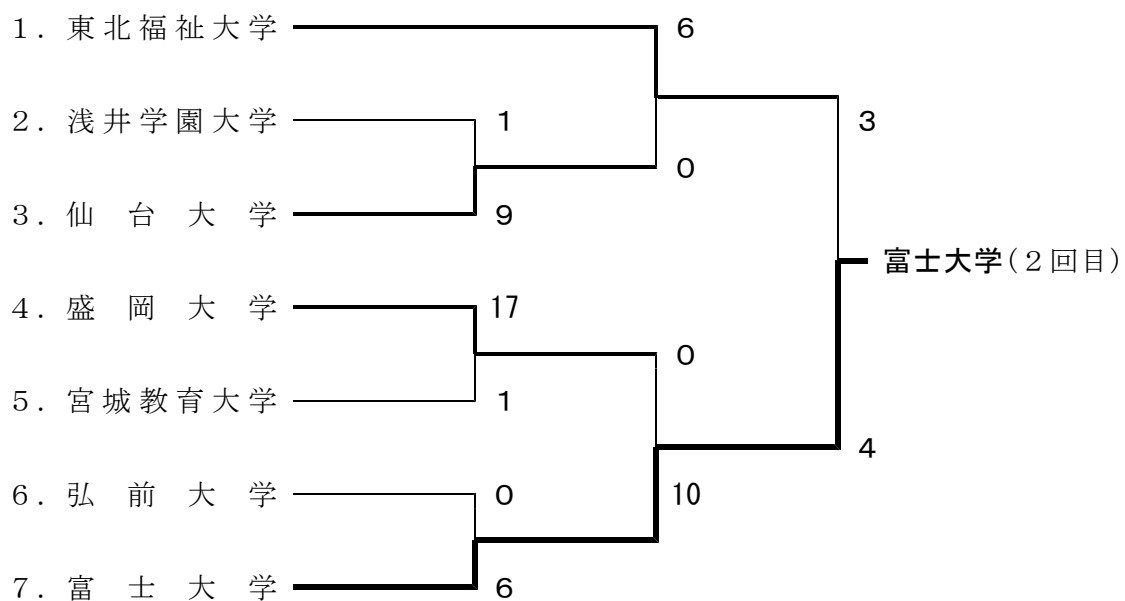
会場：秋田県由利本庄市矢島多目的運動広場ほか

男子選手権



インカレ出場は、仙台大学と盛岡大学

女子選手権



インカレ出場は、富士大学と東北福祉大学

平成18年度 東北地区大学ソフトボール秋季大会

会期：平成18年10月14日(土)～15日(日)

会場：柴田町阿武隈川河川敷公園・角田市並松グラウンド

〔男子〕

・予選リーグ戦

A	東 北	仙 台	福 島	日大工
東 北		● 2-16	● 0-12	● 8-11
仙 台	○ 16-2		○ 11-4	△ 8-8
福 島	○ 12-0	● 4-11		○ 6-2
日大工学	○ 11-8	△ 8-8	● 2-6	

B	宮城教	盛 岡	八戸工
宮城教育		● 8-9	● 8-11
盛 岡	○ 9-8		○ 20-2
八戸工業	○ 11-8	● 2-20	

・1～2位決定戦

仙台大学	12
盛岡大学	7
仙台大学	

・3～4位決定戦

福島大学	23
八戸工大	2
福島大学	

・5～7位決定戦

日大工学	12
東北大学	11
宮教大	10
日大工学	

〔女子〕

・予選リーグ戦

A	仙 台	宮城教	富 士
仙 台		○ 23-2	△ 0-0
宮城教育	● 2-23		● 0-23
富 士	△ 0-0	○ 23-0	

B	東北福	盛 岡	弘 前
東北福祉		○ 6-0	○ 17-0
盛 岡	● 0-6		○ 2-0
弘 前	● 0-17	● 0-2	

・1～2位決定戦

東北福祉大	2
富士大	1
東北福祉大	

・3～4位決定戦

仙台大	9
盛岡大	3
仙台大	

・5～6位決定戦

弘前大	5
宮城教育大	4
弘前大	

【関東地区】

第14回関東学生ソフトボール選手権大会

兼 第41回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：平成18年5月27日（土）・28日（日）

会場：桜川市真壁運動場ほか

【女子の部】

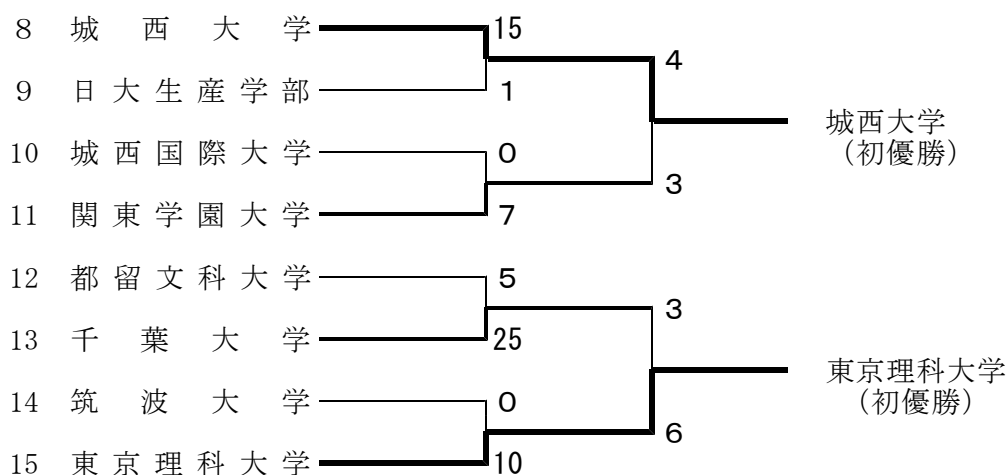
1	淑徳大学	7			
2	国際武道大学	3			
3	東海大学	5			
4	文教大学	0			
5	関東学園大学	6		1	
6	埼玉大学	0			
7	新島学園短期大学	6		4	新島学園女子短期大学 (初優勝)
8	清和大学	19		8	
9	千葉大学	0			
10	城西国際大学	2		1	清和大学 (3年連続3回目)
11	筑波大学	3			
12	順天堂大学	8		1	
13	相模女子大学	7			
14	城西大学	10			城西大学 (初優勝)

【男子の部】

1	国際武道大学	7			
2	文教大学	2			
3	埼玉大学	9		0	国際武道大学 (5年連続5回目)
4	山梨学院大学	0			
5	茨城大学	7		1	
6	東海大学	2			
7	高崎経済大学	6		15	高崎経済大学 (初優勝)

【概要】

今大会は、5月に入ってからというもの週末の度に雨が降るといった全国的な天候不順の煽りを受けて、準決勝・決勝が行われない初めてのケースとなった。そのため、男子は5年連続の国際武道大学をはじめとして高崎経済大学、城西大学、東京理科大学の4大学が同時優勝となった。また女子においても、淑徳大学、新島学園短期大学、清和大学、城



西大学の4大学が同時優勝となり、これら8大学が第41回全日本大学選手権大会への出場権を獲得した。結局は、男女ともに、今季からスタートした春季リーグ戦の結果がそのまま反映されたかたちとなった。

そういった中で、男子では、Ⅲ部リーグで圧倒的な強さを見せた関東学園大学がⅠ部3位の城西大学を最後の最後まで苦しめた。関東学園大学は、昨年的高校ソフト界を代表するバッテリーをはじめとした1年生中心のチーム。今後上位に進出してくることは必至であり、関東を席巻する台風の目となるだろう。いっぽう女子では、淑徳大学と東海大学のゲームが熾烈を極めた。リーグ戦上位の淑徳は先制するも固さがとれず、中盤に逆転を許してしまう。2点差をつけられこのまま勢いのある東海に押し切られるかと思われたが、6回裏2アウトから主将・坂上が値千金の3ランを放って辛くも勝利した。名門淑徳は、昨年初めてインカレ出場を落とすという苦汁をなめた。主将の意地の1発に観衆の誰もが身震いしたことだろう。(文責：高橋伸次)

第6回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

【Ⅰ部リーグ】

大学名	国際	文教	東理	千葉	城西	高崎	東海	勝敗	順位
国際武道	—	○ 7-0	○ 6-0	○ 16-1	○ 8-2	○ 11-2	○ 7-1	6-0	優勝
文教	● 0-7	—	● 1-6	○ 10-6	● 1-15	● 1-9	○ 4-2	2-4	5位
東京理科	● 0-6	○ 6-1	—	○ 9-4	○ 6-3	○ 19-2	○ 8-7	5-1	準優勝
千葉	● 1-16	● 6-10	● 4-9	—	● 10-15	○ 9-7	● 6-8	1-5	7位
城西	● 2-8	○ 15-1	● 3-6	○ 15-10	—	● 1-9	○ 7-0	3-3	3位
高崎経済	● 2-11	○ 9-1	● 2-19	● 7-9	○ 9-1	—	○ 10-7	3-3	4位
東海	● 1-7	● 2-4	● 7-8	○ 8-6	● 0-7	● 7-10	—	1-5	6位

※3位と4位、6位と7位は得失点差による

【2部リーグ】

大 学 名	筑 波	都留文科	関東学園	埼 玉	山梨学院	勝 敗	順 位
筑 波		● 9-20	● 1-13	● 3-15	● 5-12	0-4	5 位
都留文科	○ 20-9		● 0-14	● 1-8	○ 16-15	2-2	3 位
関東学園	○ 13-1	○ 14-0		○ 15-5	○ 9-2	4-0	優 勝
埼 玉	○ 15-3	○ 8-1	● 5-15		○ 14-7	3-1	準優勝
山梨学院	○ 12-5	● 15-16	● 2-9	● 7-14		1-3	4 位

【3部リーグ】

チー ム	城西国	芝浦工	茨 城	東京国	日大生	中央学	勝 敗	順 位
城西国際		○ 12-3	● 3-15	● 16-17	● 2-9	○ 15-13	2-3	4 位
芝浦工業	● 3-12		● 5-12	● 7-14	● 2-17	● 5-19	0-5	6 位
茨 城	○ 15-3	○ 12-5		○ 36-0	○ 17-1	○ 14-3	5-0	優 勝
東京国際	○ 17-16	○ 14-7	● 0-36		● 5-12	○ 14-13	3-2	3 位
日大生物	○ 9-2	○ 17-2	● 1-17	○ 12-5		○ 10-7	4-1	準優勝
中央学院	● 13-15	○ 19-5	● 3-14	● 13-14	● 7-10		1-4	5 位

※茨城大学は2部自動昇格

【1部2部入替戦】千葉大学(1部7位)4-12関東学園大学(2部1位) 関東1部昇格

【2部3部入替戦】筑波大学(2部5位)8-6日大生物資源(3部2位) 筑波2部残留

第6回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

【1部リーグ】

チー ム	国際武	城 西	新 島	淑 徳	清 和	東 海	勝	分	敗	順 位
国際武道		● 0-7	● 1-8	● 0-9	● 3-12	○ 8-7	1	0	4	6 位
城 西	○ 7-0		○ 9-4	● 0-5	○ 1-0	● 6-7	3	0	2	3 位
新島学園	○ 8-1	● 4-9		● 2-9	○ 8-2	○ 8-1	3	0	2	準優勝
淑 徳	○ 9-0	○ 5-0	○ 9-2		○ 5-0	○ 2-1	5	0	0	優 勝
清 和	○ 12-3	● 0-1	● 2-8	● 0-5		○ 2-0	2	0	3	4 位
東 海	● 7-8	○ 7-6	● 1-8	● 1-2	● 0-2		1	0	4	5 位

※2位と3位、5位と6位は得失点差による

【2部Aブロック】

チーム	順天堂	筑波	城西国	日大生	勝	分	敗	順位
順天堂		● 5-10	○ 9-3	○ 17-2	2	0	1	1位
筑波	○ 10-5		● 0-9	○ 10-3	2	0	1	3位
城西国際	● 3-9	○ 9-0		○ 7-0	2	0	1	2位
日大生物	● 2-17	● 3-10	● 0-7		0	0	3	4位

※1位～3位は得失点差による。

【2部Bブロック】

チーム	埼玉	相模女	関東学	文教	勝	分	敗	順位
埼玉		○ 8-0	○ 2-1	○ 5-1	3	0	0	1位
相模女子	● 0-8		○ 3-0	○ 11-6	2	0	1	2位
関東学園	● 1-2	● 0-3		● 3-7	0	0	3	4位
文教	● 1-5	● 6-11	○ 7-3		1	0	2	3位

【2部順位決定戦】

1位決定戦：順天堂大学 7-5 埼玉大学

3位決定戦：城西国際大学 12-1 相模女子大学

5位決定戦：筑波大学 2-0 文教大学

7位決定戦：関東学園大学 19-1 日大生物資源学部

【2部最終順位】

1位：順天堂大学

5位：筑波大学

2位：埼玉大学

6位：文教大学

3位：城西国際大学

7位：関東学園大学

4位相模女子大学

8位：日大生物資源学部

【1部2部入替戦】国際武道大学(1部6位) 5-4 順天堂大学(2部1位) 国武1部残留



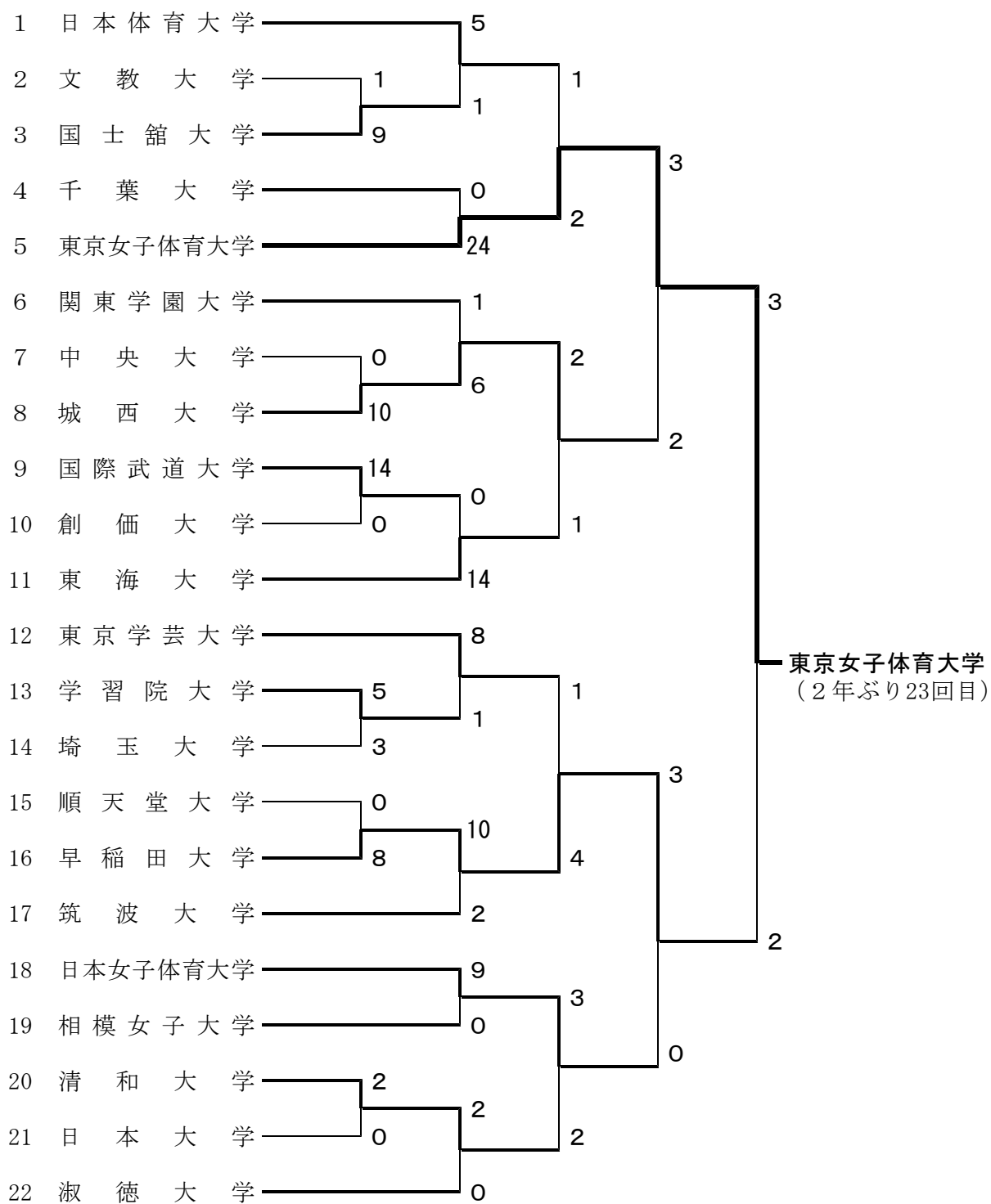
第37回関東大学ソフトボール選手権大会

会期：平成18年11月3日（金）～5日（日）

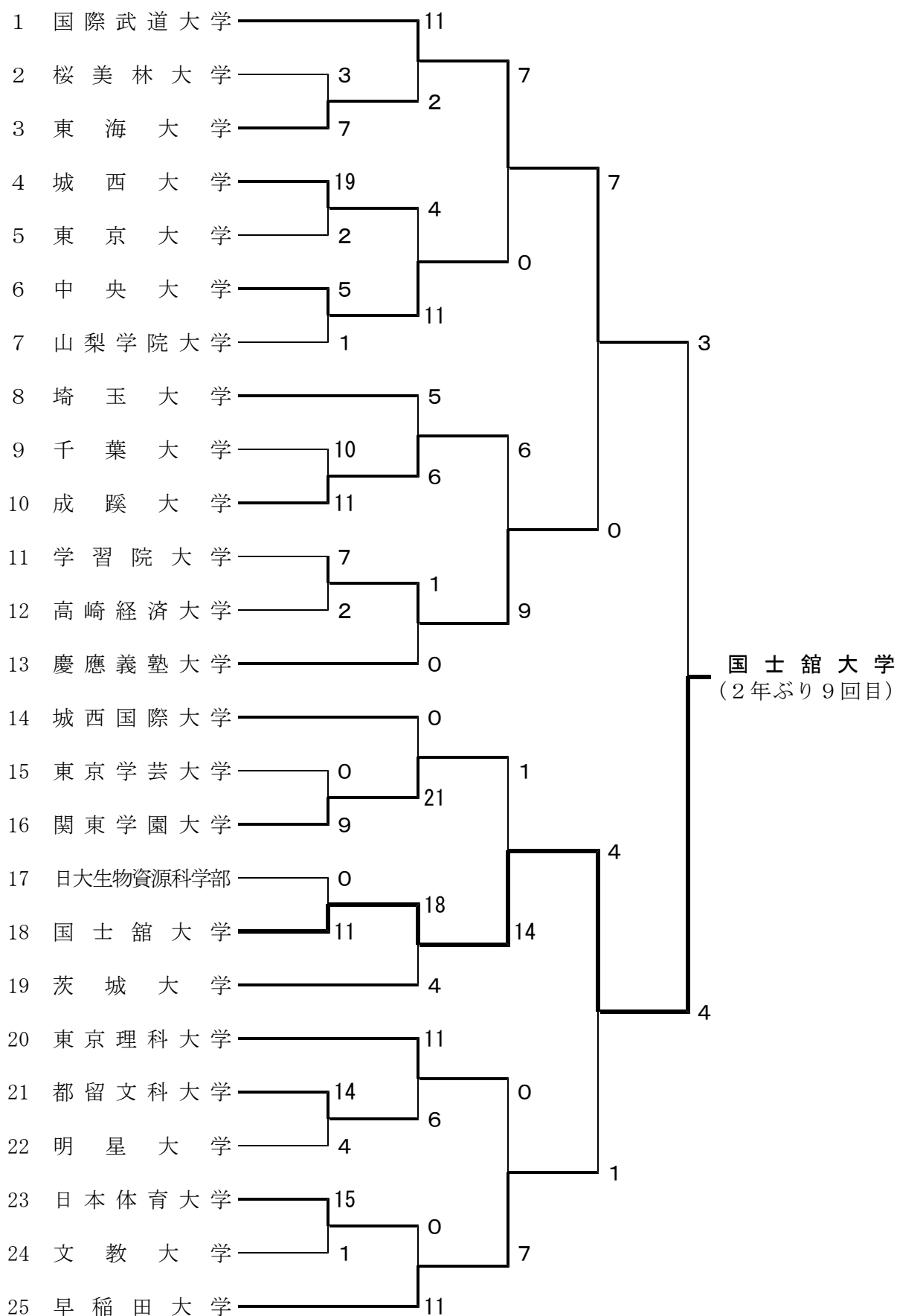
会場：千葉県市川市養老川臨海第1球場他（男子）

千葉県千葉市稲毛海浜公園野球場他（女子）

【女子】



【男子】



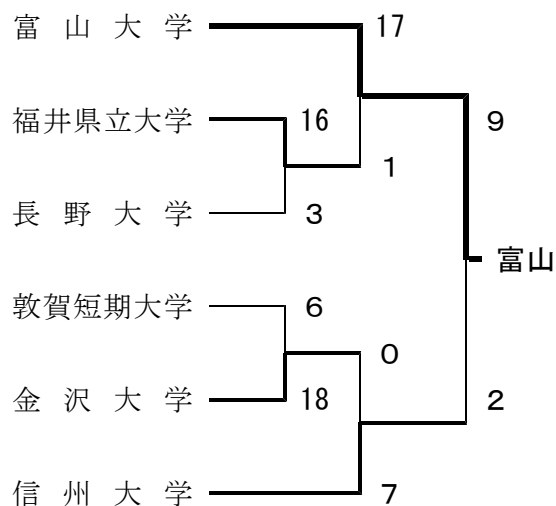
【北信越地区】

第12回北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会 (兼、文部科学大臣杯第41回全日本大学ソフトボール選手権大会予選会)

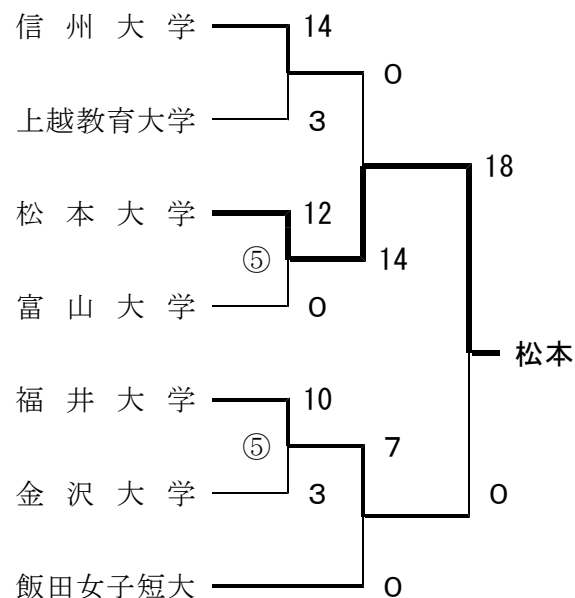
会期：平成18年5月21日(日)

会場：福井県あわら市ドリームパークかなづ・国影グラウンド

<男子>



<女子>



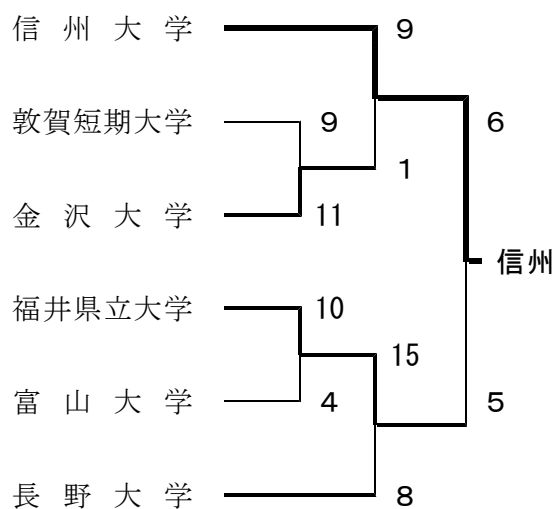
※富山大学（男子）、松本大学（女子）がインカレ出場権を獲得

第13回北信越大学男子・女子新人ソフトボール大会

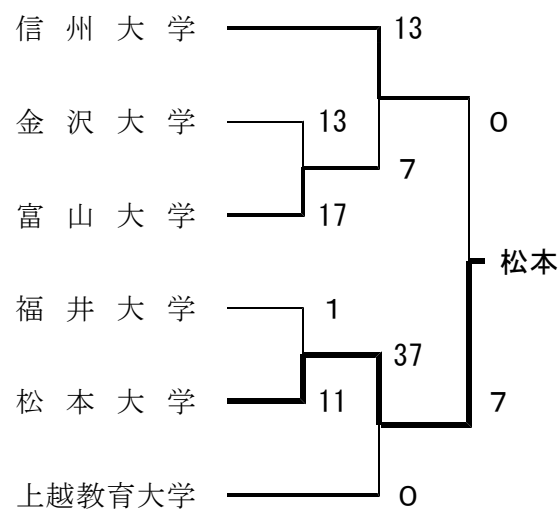
会期：平成18年9月16日(土)・17日(日)

会場：福井県永平寺町

<男子>



<女子>



敗者戦：富山大学22－5敦賀短大
3位決定戦：金沢大学23－16長野大学

敗者戦：福井大学7－4金沢大学
3位決定戦：富山大学11－2上越教育大

【東京地区】

平成18年度第38回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	国士舘	日体	早稲田	中央	学習院	桜美林	勝敗分
優勝	国士舘大		○ 8-1	○ 9-2	○ 13-0	○ 19-0	○ 15-2	5・0・0
第2位	日本体育大	● 1-8		○ 6-2	○ 7-0	○ 26-5	○ 19-1	4・1・0
第3位	早稲田大	● 2-9	● 2-6		○ 11-2	○ 12-1	○ 12-0	3・2・0
第4位	中央大	● 0-13	● 0-7	● 2-11		● 2-9	○ 14-5	1・4・0
第5位	学習院大	● 0-19	● 5-26	● 1-12	○ 9-2		● 4-7	1・4・0
第6位	桜美林大	● 2-15	● 1-19	● 0-12	● 5-14	○ 7-4		1・4・0

※4位～6位は失点率による

男子2部

順位	大学名	東京	明治	慶応	学芸	東農	明星	勝敗分
優勝	東京大		△ 3-3	○ 4-0	○ 9-0	○ 10-3	○ 21-2	4・0・1
第2位	明治大	△ 3-3		○ 11-2	● 5-6	○ 12-3	○ 26-13	3・1・1
第3位	慶應義塾大	● 0-4	● 2-11		○ 9-2	○ 6-5	○ 13-2	3・2・0
第4位	東京学芸大	● 0-9	○ 6-5	● 2-9		○ 8-4	○ 12-8	3・2・0
第5位	東京農業大	● 3-10	● 3-12	● 5-6	● 4-8		○ 17-2	1・4・0
第6位	明星大	● 2-21	● 13-16	● 2-13	● 8-12	● 2-17		0・5・0

※3位、4位は直接対決による

男子3部

順位	大学名	立教	成蹊	専修	日本	杏林	国際	勝敗分
優勝	立教大		○ 2-1	● 3-8	○ 10-1	○ 7-0	○ 21-2	4・1・0
第2位	成蹊大	● 1-2		○ 12-6	○ 5-3	○ 7-0	○ 23-2	4・1・0
第3位	専修大	○ 8-3	● 6-12		○ 16-7	○ 10-9	○ 16-1	4・1・0
第4位	日本大	● 1-10	● 3-5	● 7-16		○ 7-0	○ 20-2	2・3・0
第5位	杏林大	● 0-7	● 0-7	● 9-10	● 0-7		○ 22-10	1・4・0
第6位	国際基督教	● 2-21	● 2-23	● 1-16	● 2-20	● 10-22		0・5・0

※1位～3位は失点率による

男子4部

順位	大学名	東洋	文教	日歯	一橋	帝京	勝敗分
優勝	東洋大		○ 13-1	○ 23-7	○ 23-2	○ 12-11	4・0・0
第2位	文教大湘南	● 1-13		○ 22-7	○ 10-6	○ 15-14	3・1・0
第3位	日本歯科大	● 7-23	● 7-22		○ 22-14	○ 29-28	2・2・0
第4位	一橋大	● 2-23	● 6-10	● 14-22		○ 23-19	1・3・0
第5位	帝京大	● 11-12	● 14-15	● 28-29	● 19-23		0・4・0

※東京経済大と武蔵工業大は棄権

女子1部

順位	大学名	日女体	東女体	日体	国士舘	早稲田	学芸	勝敗分
優勝	日女体大		○ 3-2	● 0-7	○ 4-2	○ 3-1	○ 10-2	4・1・0
第2位	東女体大	● 2-3		○ 8-1	● 5-6	○ 5-0	○ 10-0	3・2・0
第3位	日本体育大	○ 7-0	● 1-8		○ 7-0	● 0-7	○ 7-1	3・2・0
第4位	国士舘大	● 2-4	○ 6-5	● 0-7		○ 6-2	○ 5-3	3・2・0
第5位	早稲田大	● 1-3	● 0-5	○ 7-0	● 2-6		○ 5-0	2・3・0
第6位	東京学芸大	● 2-10	● 0-10	● 1-7	● 3-5	● 0-5		0・5・0

※2位～4位は失点率による

女子2部

順位	大学名	日本	学習院	中央	明治	創価	桜美林	勝敗分
優勝	日本大		○ 2-1	○ 10-9	○ 7-6	○ 10-2	○ 26-0	5・0・0
第2位	学習院大	● 1-2		○ 14-5	○ 6-5	○ 8-1	○ 16-2	4・1・0
第3位	中央大	● 9-10	● 5-14		○ 11-3	○ 8-5	○ 13-6	3・2・0
第4位	明治大	● 6-7	● 5-6	● 3-11		○ 10-9	○ 12-3	2・3・0
第5位	創価大	● 2-10	● 1-8	● 5-8	● 9-10		○ 12-0	1・4・0
第6位	桜美林大	● 0-26	● 2-16	● 6-13	● 3-12	● 0-12		0・5・0

女子 3 部

順 位	大 学 名	成 蹊	慶 応	国 際	専 修	勝 敗 分
優 勝	成 蹊 大		○	○	○	3・0・0
第2位	慶應義塾大	●		●	○	1・2・0
第3位	国際基督教	●	○		●	1・2・0
第4位	専 修 大	●	●	○		1・2・0

※2位～4位は失点率による

第38回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦入れ替え戦

☆男子1部・2部

男子 1 部 2 部
桜 美 林 大 (1 部 6 位) 4 - 1 東 京 大 (2 部 1 位) = 桜美林大は 1 部残留

☆男子2部・3部

明星大（2部6位）4-38 立教大（3部1位）＝立教大は2部昇格

☆男子3部・4部

国際基督教大（3部6位）2－9 東洋大（4部1位）＝東洋大は3部昇格

☆女子1部・2部

東京学芸大（1部6位）4－3 日本大（2部1位）＝東京学芸大は1部残留

☆女子2部・3部

桜美林大(2部6位) 3-21 成蹊大(3部1位) = 成蹊大は2部昇格

文部科学大臣杯第41回全日本大学選手権東京都予選

【男子】

学習院大学 11

慶應義塾大学 7

杏林大学 0

立教大学 7

明星大学 0

明治大学 19

東京大学 9

東京農業大学 0

成蹊大学 7

東京学芸大学 9

日本大学 8

桜美林大学 15

第4代表 学習院大学

第5代表 東京大学

なお、東京地区の第41回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で、国士舘大学・日本体育大学・早稲田大学である。

【女子】

国士舘大学	8	第4代表	国士舘大学
日本大学	9		
学習院大学	3		
東京学芸大学	3	第5代表	早稲田大学
早稲田大学	8		

なお、東京地区の第41回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で、日本女子体育大学・東京女子体育大学・日本体育大学である。

平成18年度第38回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	日体	国士舘	早稲田	桜美林	学習院	中央	勝敗分
優勝	日本体育大		○ 5-4	○ 7-1	○ 7-0	○ 13-3	○ 11-5	5・0・0
第2位	国士舘大	● 4-5		○ 1-0	○ 10-1	○ 6-4	○ 13-3	4・1・0
第3位	早稲田大	● 1-7	● 0-1		○ 7-0	○ 3-1	○ 11-0	3・2・0
第4位	桜美林大	● 0-7	● 1-10	● 0-7		○ 8-6	○ 8-1	2・3・0
第5位	学習院大	● 3-13	● 4-6	● 1-3	● 6-8		○ 8-2	1・4・0
第6位	中央大	● 5-11	● 3-13	● 0-11	● 1-8	● 2-8		0・5・0

男子2部

順位	大学名	明治	東京	慶応	東農	学芸	立教	勝敗分
優勝	明治大		○ 2-0	○ 6-1	○ 10-3	○ 9-1	○ 9-8	5・0・0
第2位	東京大	● 0-2		○ 7-1	○ 6-1	○ 8-1	○ 7-0	4・1・0
第3位	慶應義塾大	● 1-6	● 1-7		○ 3-0	○ 7-6	○ 12-5	3・2・0
第4位	東京農業大	● 3-10	● 1-6	● 0-3		○ 10-8	○ 20-7	2・3・0
第5位	東京学芸大	● 1-9	● 1-8	● 6-7	● 8-10		○ 15-8	1・4・0
第6位	立教大	● 8-9	● 0-7	● 5-12	● 7-20	● 8-15		0・5・0

男子3部

順位	大学名	成蹊	東洋	専修	明星	日本	杏林	勝敗分
優勝	成蹊大		○ 9-0	○ 11-1	○ 25-4	○ 9-0	○ 21-0	5・0・0
第2位	東洋大	● 0-9		○ 8-3	○ 15-14	○ 13-8	○ 13-4	4・1・0
第3位	専修大	● 1-11	● 3-8		○ 15-1	○ 22-0	○ 22-2	3・2・0
第4位	明星大	● 4-25	● 14-15	● 1-15		○ 13-6	○ 7-0	2・3・0
第5位	日本大	● 0-9	● 8-13	● 0-22	● 6-13		○ 10-3	1・4・0
第6位	杏林大	● 0-21	● 4-13	● 2-22	● 0-7	● 3-10		0・5・0

男子4部

順位	大学名	国際	文教	帝京	武蔵	一橋	日歯	勝敗分
優勝	国際基督教		○ 10-9	○ 11-8	○ 9-6	○ 25-10	○ 40-4	5・0・0
第2位	文教大湘南	● 9-10		○ 16-3	○ 32-3	● 9-10	○ 14-10	3・2・0
第3位	帝京大	● 8-11	● 3-16		○ 27-21	○ 27-15	○ 22-9	3・2・0
第4位	武蔵工業大	● 6-9	● 3-32	● 21-27		○ 7-0	○ 10-6	2・3・0
第5位	一橋大	● 10-25	○ 10-9	● 15-27	● 0-7		○ 28-4	2・3・0
第6位	日本歯科大	● 4-40	● 10-14	● 9-22	● 6-10	● 4-28		0・5・0

※2位と3位、4位と5位は直接対決の勝敗による

女子1部

順位	大学名	早稲田	日体	日女体	東女体	学芸	国士舘	勝敗分
優勝	早稲田大		○ 4-2	○ 4-2	○ 10-2	○ 6-2	○ 4-0	5・0・0
第2位	日本体育大	● 2-4		○ 2-0	○ 3-0	○ 3-0	○ 2-0	4・1・0
第3位	日女体大	● 2-4	● 0-2		○ 6-1	○ 6-2	○ 9-5	3・2・0
第4位	東女体大	● 2-10	● 0-3	● 1-6		○ 8-1	○ 12-0	2・3・0
第5位	東京学芸大	● 2-6	● 0-3	● 2-6	● 1-8		○ 7-1	1・4・0
第6位	国士舘大	● 0-4	● 0-2	● 5-9	● 0-12	● 1-7		0・5・0

女子2部

順位	大学名	日本	学習院	中央	創価	成蹊	明治	勝敗分
優勝	日本大	—	○ 10-0	○ 10-1	○ 15-0	○ 7-0	○ 9-0	5・0・0
第2位	学習院大	● 0-10	—	○ 9-3	○ 5-1	○ 7-4	○ 9-8	4・1・0
第3位	中央大	● 1-10	● 3-9	—	○ 16-11	○ 3-2	○ 6-2	3・2・0
第4位	創価大	● 0-15	● 1-5	● 11-16	—	○ 7-1	○ 3-2	2・3・0
第5位	成蹊大	● 0-7	● 4-7	● 2-3	● 1-7	—	○ 6-3	1・4・0
第6位	明治大	● 0-9	● 8-9	● 2-6	● 2-3	● 3-6	—	0・5・0

女子3部

順位	大学名	専修	桜美林	慶応	国際	勝敗分
優勝	専修大	—	○ 11-10	○ 14-4	○ 13-0	3・0・0
第2位	桜美林大	● 10-11	—	○ 16-1	○ 20-4	2・1・0
第3位	慶應義塾大	● 4-14	● 1-16	—	○ 11-3	1・2・0
第4位	国際基督教	● 0-13	● 4-20	● 3-11	—	0・3・0

第38回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦入れ替え戦

☆男子1部・2部

中央大(1部6位) 11-7 明治大(2部1位)=中央大は1部残留

☆男子2部・3部

立教大(2部6位) 4-12 成蹊大(3部1位)=成蹊大は2部昇格

☆男子3部・4部

杏林大(3部6位) 8-11 国際基督(4部1位)=国際基督は3部昇格

☆女子1部・2部

国士舘大(1部6位) 9-5 日本大(2部1位)=国士舘大は1部残留

☆女子2部・3部

明治大(2部6位) 13-0 専修大(3部1位)=明治大は2部残留

【東海地区】

東海テレビ杯平成18年度春季第58回

東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第41回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第38回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成18年5月3日・4日・5日・6日

会場：愛知県豊田市運動公園ソフトボール場

1. 一部リーグ戦対戦成績表

チーム	日 福	中 学	名古屋	常 葉	聖 徳	南 山	勝	分	敗	失	順
日本福祉		● 0－4	○ 10－0	● 0－5	● 3－7	○ 8－0	2	0	3	16	4 位
中京学院	○ 4－0		○ 16－0	○ 7－0	○ 11－0	○ 12－2	5	0	0	2	優 勝
名 古 屋	● 0－10	● 0－16		● 0－12	● 1－7	● 0－14	0	0	5	59	6 位
常葉学園	○ 5－0	● 0－7	○ 12－0		○ 2－1	○ 9－2	4	0	1	10	2 位
岐阜聖徳	○ 7－3	● 0－11	○ 7－1	● 1－2		○ 9－5	3	0	2	22	3 位
南 山	● 0－8	● 2－12	○ 14－0	● 2－9	● 5－9		1	0	4	38	5 位

2. 二部リーグ戦対戦成績

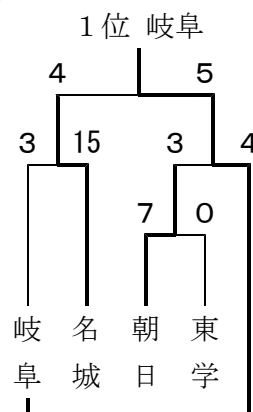
チーム	中 京	愛 学	静 岡	愛 知	愛 教	みずほ	勝	分	敗	失	順
中 京		○ 14－4	○ 7－0	○ 7－2	● 3－6	○ 6－0	4	0	1	12	2位
愛知学院	● 4－14		● 3－4	● 1－8	● 2－5	● 4－12	0	0	5	43	6位
静 岡	● 0－7	○ 4－3		● 0－7	● 1－11	● 0－7	1	0	4	35	5位
愛 知	● 2－7	○ 8－1	○ 7－0		● 2－6	● 3－5	2	0	3	19	4位
愛知教育	○ 6－3	○ 5－2	○ 11－1	○ 6－2		○ 7－6	5	0	0	14	1位
み ず ほ	● 0－6	○ 12－4	○ 7－0	○ 5－3	● 6－7		3	0	2	20	3位

3. 三部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

・順位決定戦

チーム	名城	東学	朝日	岐阜	勝	分	敗	失	順
名城		○ 7-0	○ 5-2	● 5-6	2	0	1	8	2位
東海学園	● 0-7		● 4-25	● 0-7	0	0	4	39	4位
朝日	● 2-5	○ 25-4		● 0-3	1	0	2	12	3位
岐阜	○ 6-5	○ 7-0	○ 3-0		2	0	3	5	1位



4. 一部・二部入れ替え戦

名古屋大学(一部6位) 1-6 愛知教育大学(二部1位) 愛知教育大学は1部昇格

5. 二部・三部入れ替え戦

愛知学院大学(二部6位) 2-5 岐阜大学(三部1位) 岐阜大学は2部昇格

6. 東海地域大学選手権大会(兼、インカレ最終予選)出場権獲得校

中京学院大・常葉学園大・岐阜聖徳学園大・日本福祉大・南山大・愛知教育大・名古屋大・中京大

7. 第38回西日本大学選手権大会出場権獲得校

中京学院大・常葉学園大・岐阜聖徳学園大・日本福祉大・南山大・愛知教育大

8. 1部個人表彰

最優秀選手賞: 榎田直也(中京学院大)

首位打者: 鈴木健司(中京学院大)・池田直(南山大) 5割8分3厘

打点賞: 中田征彦(中京学院大) 打点12

本塁打賞: 中田征彦(中京学院大) 本塁打3

盗塁賞: 加藤辰弥(日本福祉大)・佐藤彰(常葉学園大) 盗塁6

最優秀防御率賞: 坂本俊行(中京学院大) 防御率0.00

ベストナイン

投手: 川井勇輝(中京学院大)、捕手: 前田貴則(中京学院大)

一塁手: 松原史耶(中京学院大)、二塁手: 濱本光洋(日本福祉大)

三塁手: 松浦昂平(南山大)、遊撃手: 森裕樹(岐阜聖徳学園大)

外野手: 鈴木崇道(常葉大)・山崎優(聖徳学園大)・片岡吾郎(中京学院大)

DPDEF0: 加藤智志(日本福祉大)

9. 2部個人表彰

優秀選手賞: 稲津邦彦(愛知教育大)

首位打者賞: 長谷川和磨(愛知教育大) 6割9分2厘

最優秀防御率賞: 服部創(中京大) 防御率1.56

10. 3部個人表彰

優秀選手賞: 鈴木謙祐(岐阜大)

東海テレビ杯平成18年度春季第47回

東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

ー兼、第41回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選ー

ー兼、第38回西日本大学ソフトボール選手権大会予選ー

会期：平成18年4月29日・30日、5月4日・6日

会場：愛知県岡崎市中央総合公園球技場

1. 一部リーグ戦対戦成績表

チーム	東 学	常 葉	中 京	桜 花	中 学	東 女	勝	分	敗	失	順
東海学園	○	●	○	○	○	○	4	0	1	5	2位
	3-0	3-4	3-0	2-1	7-0						
常葉学園	●	○	●	●	○	○	2	0	3	11	4位
	0-3	0-2	0-2	8-0	7-4						
中 京	○	○	○	○	○	●	4	0	1	10	優勝
	4-3	2-0	4-1	5-4	1-2						
桜花学園	●	○	●	○	●	○	2	0	3	11	3位
	0-3	2-0	1-4	1-2	9-2						
中京学院	●	●	●	○	○	●	1	0	4	26	6位
	1-2	0-8	4-5	2-1	0-10						
東海女子	●	●	○	●	○	○	2	0	3	24	5位
	0-7	4-7	2-1	2-9	10-0						

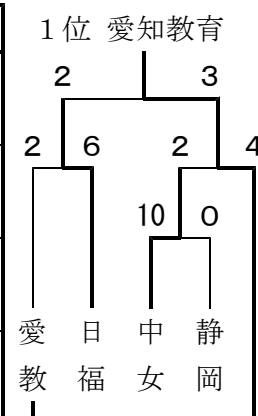
※優勝と2位、3位～5位は、直接対戦の結果による。

2. 二部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

チーム	中 女	愛 教	日 福	静 岡	勝	分	敗	失	順
中京女子	○	●	○	○	1	0	2	12	3位
	2-1	1-2	6-10	15-0					
愛知教育	○	○	○	○	3	0	0	5	1位
	2-1	5-4	15-0						
日本福祉	○	●	○	○	2	0	1	11	2位
	10-6	4-5	10-0						
静 岡	●	●	●	○	2	0	3	40	4位
	0-15	0-15	0-10						

・順位決定戦



3. 入れ替え戦

中京学院大学(1部6位)0-7愛知教育大学(2部1位) 愛知教育大学は1部昇格

4. 東海地域大学選手権大会(兼、インカレ最終予選)出場権獲得校

中京大・東海学園大・桜花学園大・常葉学園大・東海女子大・愛知教育大・
中京学院大・日本福祉大

5. 第38回西日本大学選手権大会出場権獲得校

中京大・東海学園大・桜花学園大・常葉学園大・東海女子大・愛知教育大・中京学院大

6. 1部個人表彰

最優秀選手賞：鈴木里佳（中京大）

首位打者：小森美幸（東海学園大） 5割0分0厘

打点賞：峯田梢（東海学園大） 打点4

本塁打賞：該当者なし

盗塁賞：山田真代（東海学園大） 盗塁6

最優秀防御率賞：田中粧子（東海学園大） 防御率0.00

ベストナイン

投手：田中粧子（東海学園大）、捕手：瀬ノ口真貴（中京大）

一塁手：河内雅美（中京大）、二塁手：世古由香（中京大）

三塁手：小森美幸（東海学園大）、遊撃手：池田清夏（東海学園大）

外野手：南景子（中京大）・山田真代（東海学園大）・小林美紗代（桜花学園大）

DPDEF0：三枝幸恵（桜花学園大）

7. 2部個人表彰

優秀選手賞：渕上幸子（愛知教育大）

首位打者賞：座間味瞳（中京女子大） 5割3分3厘

最優秀防御率賞：河部祐里（愛知教育大） 防御率1.18

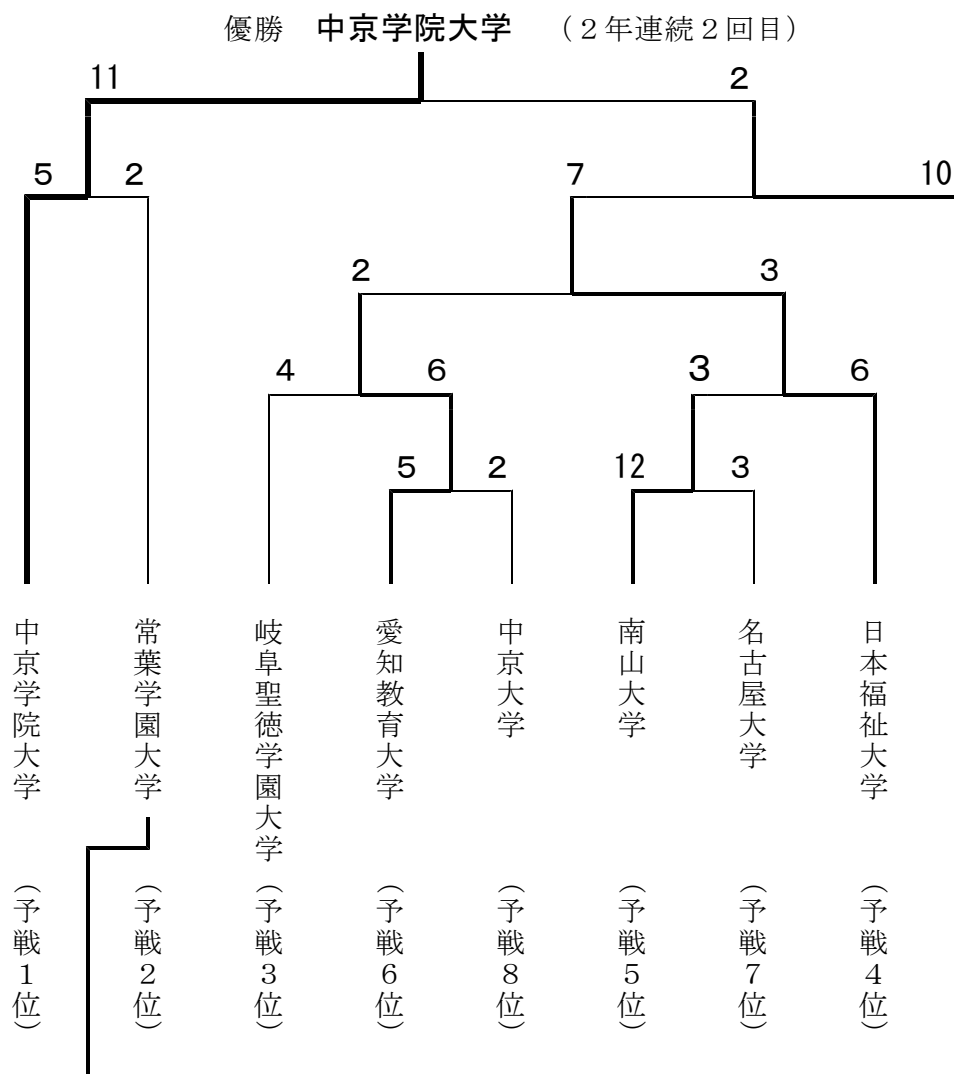
8. 講評

地元豊橋市でのインカレを控えた春季リーグ戦であったが、もうひとつ物足りなさを感じさせられた。2部3チームの部員不足による欠場は言うまでもなく、1部リーグ戦においてもコールドゲームが3試合あり、試合内容にやや緊迫感に欠けた感じを受けた。もちろん、手に汗握る接戦もあり、ソフトボールの厳しさやおもしろさを満喫させられた試合もあった。しかしながら、7月に台湾で開催される世界女子大学選手権大会へは本リーグから選手を送ることができず、8月の西日本・インカレでの優勝を目指せるような圧倒的な力を見いだすことはできなかった。優勝・準優勝の2チームにはこれで満足することなく、全国ばかりでなく、世界を視野に入れて競技力の向上に努めてもらいたい。また、他のチームは低いレベルでのドングリの背比べにならないよう、いつでも上位チームに取って代わるだけの力を養っておいてほしい。そのためのキーワードは「スピードと正確性」に尽きると思われる。

一方2部は、上位3チームによる熾烈な争いが展開された。いずれも現在の1部で活躍できるだけの力を有していると思われるが、2部に甘んじている最大の要因は、投手力を中心とする守備力にあると思われる。ひとつでも先の塁を狙う走塁・それを許さない素早く正確な送球、そして状況に応じた守備の戦術、これらの克服が上を目指す課題になるだろう。なお、点差にもめげず最後まで爽やかだった静岡大を讃え、補助員に徹していた3大学に感謝の意を表したい。（東海地区大学ソフトボール連盟理事長 水谷 博）

第3回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会 ー兼、第41回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選会ー

1. 期日：5月20日(競技開始10時30分)・21日(競技開始9時)、予備日27日(土)
2. 会場：岐阜県揖斐川町 健康広場ビッグランド、脛永グラウンド、久瀬山村広場
3. 代表：男女とも上位3チームが全日本大学選手権大会(8月豊橋市)の出場権を得る。
4. 男子トーナメント

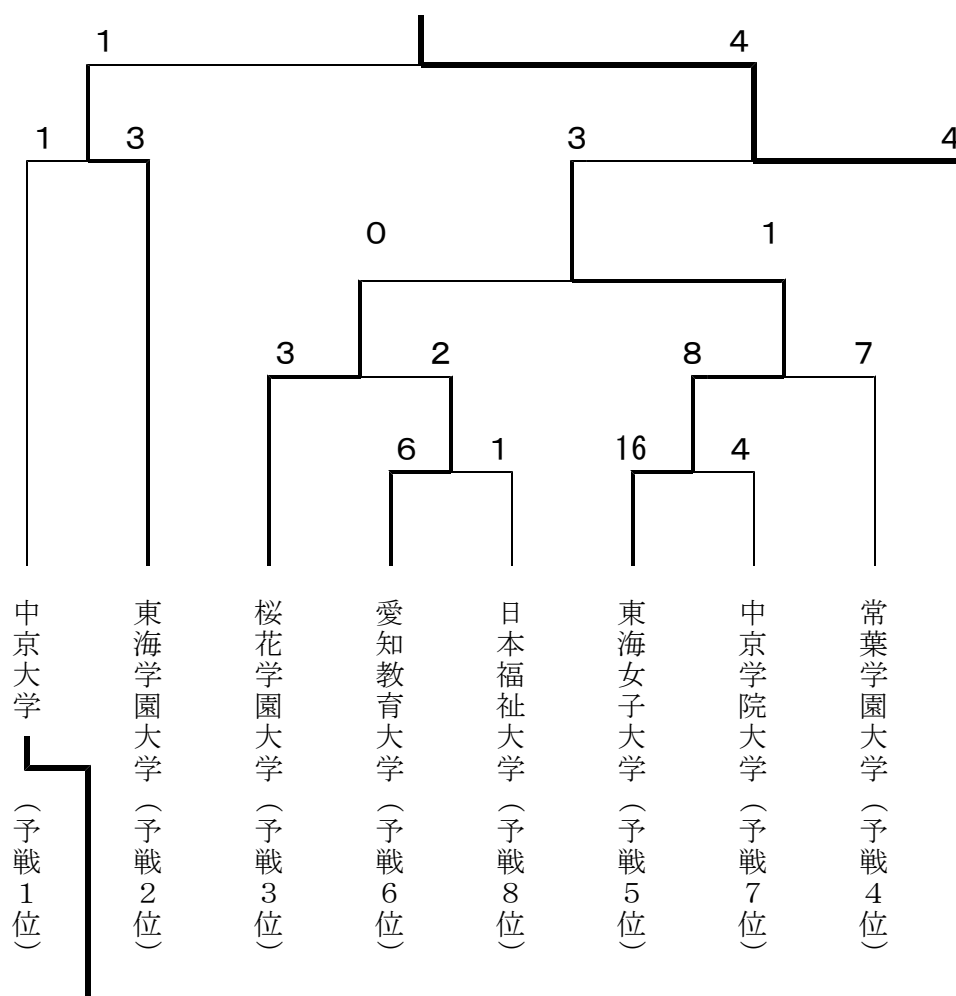


5. 全日本大学選手権大会代表権獲得チーム
 中京学院大学(2年連続3回目)・常葉学園大学(5年連続12回目)・日本福祉大学(初)
6. 講評

本年3回目になる本大会も、インカレ出場権の獲得を目指して、厳しい試合が展開された。特に、2回戦・3回戦は緊迫した試合の連続であった。今一步でインカレ出場を逃した愛知教育大と岐阜聖徳学園大のファイトに賛辞を送りたい。結果、各県1校ずつの出場権を獲得したが、常葉学園大と日本福祉大にはいっそうの緻密さを、強さが際だった中京学院大には世界を目指して全国大会での初優勝を切に望みたい。(東海学連理事長 水谷 博)

7. 女子トーナメント

優勝 中京大学 (2年連続2回目)



8. 全日本大学選手権大会代表権獲得チーム

中京大学(21年連続31回目)・東海学園大学(6年連続6回目)・東海女子大学(2年ぶり15回目)

9. 講評

女子もインカレの出場権獲得に直接かかわる2回戦・3回戦3試合はいずれも1点差ゲームで、シビアなものであった。インカレ1次予選の春季リーグ戦3～5位が勝ち数負け数とも同じであったことから、本大会において真の決着をみたといってよい。結果、昨年のように愛知県が3校を独占すとはならなかった。なお、男女とも春季リーグ戦3位は、インカレ出場権が獲得できないというジンクスができつつあるように思われる。出場権を得たチームは、厳しい戦いの中から全国の上位で通用する競技力の向上に努めてもらいたい。そして、春季リーグ戦や本大会で涙した東海地区全チームの代表として、地元でのインカレにおいて堂々と戦い抜いてもらいたいものである。最後に、素晴らしい戦いの場を提供していただいた東海ソフトボール協会・岐阜県ソフトボール協会・揖斐川町ソフトボール協会はじめ関係各位に衷心より御礼申し上げます。(東海学連理事長 水谷 博)

東海テレビ杯平成18年度秋季第59回
東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成18年10月 7 日・ 9 日・14日・15日

会場：愛知県刈谷市刈谷球場・双葉グラウンド・亀城グラウンド

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	中 学	常 葉	聖 徳	日 福	南 山	愛 教	勝	分	敗	失	順
中京学院	—	○ 6－0	○ 2－0	○ 5－2	○ 8－1	○ 8－1	5	0	0	4	優勝
常葉学園	● 0－6	—	● 6－7	○ 6－2	○ 6－3	○ 4－2	3	0	2	20	2位
岐阜聖徳	● 0－2	○ 7－6	—	● 2－6	○ 10－1	● 2－5	2	0	3	20	5位
日本福祉	● 2－5	● 2－6	○ 6－2	—	○ 6－5	○ 4－0	3	0	2	18	3位
南 山	● 1－8	● 3－6	● 1－10	● 5－6	—	● 1－13	0	0	5	43	6位
愛知教育	● 1－8	● 2－4	○ 5－2	● 0－4	○ 13－1	—	2	0	3	19	4位

※2位と3位、4位と5位は、リーグ戦規程により、直接対戦の勝敗による。

2. 二部リーグ戦対戦成績

チーム	名古屋	中 京	みずほ	愛 知	静 岡	岐 阜	勝	分	敗	失	順
名 古 屋	—	● 1－16	○ 7－6	● 3－4	● 5－8	● 2－5	1	0	4	39	6位
中 京	○ 16－1	—	○ 8－1	● 1－3	○ 6－2	○ 7－5	4	0	1	12	2位
み ず ほ	● 6－7	● 1－8	—	○ 4－1	○ 6－5	● 2－3	2	0	3	24	5位
愛 知	○ 4－3	○ 3－1	● 1－4	—	○ 14－4	○ 4－1	4	0	1	13	1位
静 岡	○ 8－5	● 2－6	● 5－6	● 4－14	—	○ 4－0	2	0	3	31	4位
岐 阜	○ 5－2	● 5－7	○ 3－2	● 1－4	● 0－4	—	2	0	3	19	3位

※1位と2位は、リーグ戦規程により、当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

※3位～5位は、リーグ戦規程により、当該チーム間の失点数と総失点数による。

3. 三部リーグ戦対戦成績

チーム	愛 学	名 城	朝 日	東 学	名 商	勝	分	敗	失	順
愛知学院		● 9－10	○ 7－4	○ 9－0	○ 10－9	3	0	1	23	2位
名 城	○ 10－9		○ 6－4	○ 10－3	○ 11－9	4	0	0	25	1位
朝 日	● 4－7	● 4－6		○ 11－2	○ 8－1	2	0	2	16	3位
東海学園	● 0－9	● 3－10	● 2－11		● 14－15	0	0	4	45	5位
名古屋商	● 9－10	● 9－11	● 1－8	○ 15－14		1	0	3	43	4位

4. 入れ替え戦

一部二部：南山大学（1部6位）3-2愛知大学（2部1位） 南山大学は1部残留

二部三部：名城大学（3部1位）4-2名古屋大学（2部6位） 名城大学は2部昇格

5. 個人表彰

最優秀選手賞：中西健太（中京学院大学）

一部首位打者賞：福重遥（中京学院大学）記録0.750

一部打点賞：福重遥（中京学院大学）記録9

一部本塁打賞：該当者なし

一部盗塁賞：佐藤彰洋（常葉学園大学）記録5

一部最優秀防御率賞：坂本俊行（中京学院大学）記録0.00

ベストナイン 投手：米田倫弘（常葉学園大学）

捕手：原康晃（愛知教育大学）

一塁手：松原史耶（中京学院大学）

二塁手：太田亘哉（常葉学園大学）

三塁手：鈴木康修（日本福祉大学）

遊撃手：森裕樹（岐阜聖徳学園大学）

外野手：福重遥（中京学院大学）

外野手：土屋巧（南山大学）

外野手：玉置諒平（日本福祉大学）

DPDEF0：中田国彦（中京学院大学）

二部優秀選手賞：瀬瀬誠也（愛知大学）

二部首位打者賞：今井健太（岐阜大学）記録0.571

二部最優秀防御率賞：瀬瀬誠也（愛知大学）記録0.52

三部優秀選手賞：佐藤広章（名城大学）

ベストスコアラー賞：大村恵美子（南山大学）

ベスト放送員賞：畑窪あすみ（愛知教育大学）

東海テレビ杯平成18年度秋季第48回
東海地区大学（女子）ソフトボールリーグ戦
 会期：平成18年10月7日・8日・14日・15日
 会場：愛知県高浜市碧海グラウンド・流作グラウンド

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	中 京	東 学	桜 花	常 葉	東 女	愛 教	勝	分	敗	失	順
中 京		○ 4－2	○ 3－2	○ 6－2	● 2－3	○ 5－3	4	0	1	12	優勝
東海学園	● 2－4		○ 6－2	○ 6－2	○ 7－5	○ 1－0	4	0	1	13	2位
桜花学園	● 2－3	● 2－6		● 2－3	○ 3－2	○ 2－0	2	0	3	14	3位
常葉学園	● 2－6	● 2－6	○ 3－2		● 1－7	● 6－12	1	0	4	33	6位
東海女子	○ 3－2	● 5－7	● 2－3	○ 7－1		● 0－5	2	0	3	18	5位
愛知教育	● 3－5	● 0－1	● 0－2	○ 12－6	○ 5－0		2	0	3	14	4位

※1と2位・3～5位は、リーグ戦規程により、直接の対戦での勝者が上位

2. 二部リーグ戦対戦成績

チーム	中 学	日 福	中 女	静 岡	聖 徳	名古屋	勝	分	敗	失	順
中京学院		● 2－3	○ 5－0	○ 16－0	○ 16－0	○ 15－0	4	0	1	3	2位
日本福祉	○ 3－2		○ 2－1	○ 11－2	○ 16－1	○ 9－0	5	0	0	6	1位
中京女子	● 0－5	● 1－2		○ 15－0	○ 16－0	○ 14－1	3	0	2	8	3位
静 岡	● 0－16	● 2－11	● 0－15		● 3－15	● 0－14	0	0	5	71	6位
岐阜聖徳	● 0－16	● 1－16	● 0－16	○ 15－3		○ 7－2	2	0	3	53	4位
名 古 屋	● 0－15	● 0－9	● 1－14	○ 14－0	● 2－7		1	0	4	45	5位

3. 1部2部入れ替え戦

日本福祉大学(2部1位)9－5常葉学園大学(1部6位) 日本福祉大学は1部昇格

4. 個人表彰

最優秀選手賞：谷 口 恵 理(中京大学)

- 一部首位打者賞：須田彩乃（常葉学園大学）記録0.500
一部打点賞：石川寛子（東海学園大学）記録5
一部本塁打賞：該当者なし
一部盗塁賞：該当者なし
一部最優秀防御率賞：浦上純奈（東海女子大学）記録0.76
ベストナイン 投手：小林美沙代（桜花学園大学）※愛教大戦で完全試合を達成
捕手：瀬ノ口真貴（中京大学）
一塁手：勝浦由紀（東海学園大学）
二塁手：谷口恵理（中京大学）
三塁手：阿部裕美（愛知教育大学）
遊撃手：駒野まみ（中京大学）
外野手：石山寛子（東海女子大学）
外野手：千田えりか（東海学園大学）
外野手：柏知里（中京大学）
DPDEF0：河内雅美（中京大学）
二部優秀選手賞：葛西信乃（日本福祉大学）
二部首位打者賞：高橋さゆり（中京学院大学）記録0.600
二部最優秀防御率賞：渡辺奈緒（日本福祉大学）記録0.00
ベストスコアラー賞：鈴木こころ（名古屋大学）
ベスト放送員賞：杉山花奈絵（愛知教育大学）

5. 講評

好天に恵まれ、高浜の秋の風物詩になったリーグ戦は、開催地高浜市連盟の献身的なご尽力により、全日程を事故なく無事終了できたことをまずもって御礼申し上げたい。

さて、一部リーグ戦は、初日に春季優勝校である中京大学が開幕戦の愛知教育大学に苦戦し、続く第4試合で東海女子大学に敗れるという波乱の幕開けであった。春季2位の東海学園大学は順調に白星を重ね、この2校による優勝決定戦が最終試合で戦われた。結果は、中京大学が4-2で貫禄勝ちを収めて、2季連続29回目の優勝を飾った。リーグ戦の中で特筆されるのは、桜花学園大学1年の小林美沙代投手が対愛知教育大学戦で完全試合を達成したことである。リーグ戦としては10季ぶり3人目になる。しかしながら、全体としては15試合中3試合しか完封試合はなく、打高投低の感が否めない。投手力を中心とした守備力の今後のさらなる飛躍を期待したい。

一方、二部リーグ戦は、3強3弱の感があったが、下位チームも最後まで試合を諦めない爽やかさが感じられた。最終日には春季1部6位の中京学院大学と2位の日本福祉大学が入れ替え戦の切符をかけて激闘を演じが、結果は日本福祉大学が終盤の追い上げを振り切った。その入れ替え戦でも1部6位の常葉学園大学を打力で押さえ込み、見事に初の1部昇格を果たした。

最後に、今季からスコアラーと放送員を表彰するようにしたが、これは「私達にも何か賞を」と言う女子マネジャーの声に応えるものであるが、リーグ戦は多くの裏方に支えられて行われていることを示すものであることを記して講評としたい。（理事長 水谷 博）

【近畿地区】

平成18年度第38回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月9, 16, 23, 29, 30日、5月3, 4, 5日

会場：万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	京産	関西	経法	佛教	京都	立命館	勝	敗	分	点	順
京都産業	—	○ 5-3	○ 7-0	○ 9-0	○ 11-0	● 0-8	4	1	0	12	2
関西	● 3-5	—	● 5-13	○ 10-3	○ 8-3	● 1-2	2	3	0	6	4
大阪経法	● 0-7	○ 13-5	—	● 5-11	○ 12-3	● 0-10	2	3	0	6	3
佛教	● 0-9	● 3-10	○ 11-5	—	● 5-6	● 0-7	1	4	0	3	6
京都	● 0-11	● 3-8	● 3-12	○ 6-5	—	● 2-7	1	4	0	3	5
立命館	○ 8-0	○ 2-1	○ 10-0	○ 7-0	○ 7-2	—	5	0	0	15	1

※立命館大学は2季ぶり9度目の優勝

※3位と4位、並びに5位と6位は直接対決の勝敗による

※5位京都大学は2部との入れ替え戦へ。6位佛教大学は自動的に2部降格。

1部総評 今回のリーグ戦はハイスコアな試合が多かった。ほとんどの試合がコールドゲームであったことがそれを裏付けている。そのような中であって、立命館大学は打撃力、投手力ともに一つ頭が抜け出ており、安定した戦いぶりで1部リーグを制した。立命館大学の優勝は2季ぶり9回目。

全体的に打撃力は向上している反面、投手力が弱くなっていると感じた大会であったため、次のリーグではロースコアな試合展開を期待したい。

（事務部長 関西大学4年 竹内達哉）

2部リーグ戦結果

2部A	大阪府立	大阪体育	関西学院	兵庫教育	京都学園	勝	敗	分	点	順
大阪府立	—	○15-6	○8-6	○6-0	●1-2	3	1	0	9	1
大阪体育	●6-15	—	○6-0	●0-5	●4-6	1	3	0	3	4
関西学院	●6-8	●0-6	—	●1-7	●0-7	0	4	0	0	5
兵庫教育	●0-6	○5-0	○7-1	—	○3-2	3	1	0	9	3
京都学園	○2-1	○6-4	○7-0	●2-3	—	3	1	0	9	2

※1位～3位は得失点差による

2部B	神戸学院	四天仏教	龍谷	同志社	流通科学	勝	敗	分	点	順
神戸学院		○3-0	○7-0	○2-0	○12-2	4	0	0	12	1
四天仏教	●0-3		○7-6	●1-6	○9-8	2	2	0	6	3
龍谷	●0-7	●6-7		●0-8	○7-6	1	3	0	3	4
同志社	●0-2	○6-1	○8-0		●0-7	2	2	0	6	2
流通科学	●2-12	●8-9	●6-7	○7-0		1	3	0	3	5

※2位と3位、並びに4位と5位は直接対決の勝敗による

※2部優勝決定戦 神戸学院大学 5-1 大阪府立大学

神戸学院大学は1部昇格、大阪府立大学は1部との入れ替え戦へ

※2部9・10位決定戦 流通科学大学 4-0 関西学院大学

関西学院大学は自動的に3部に降格、流通科学大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 今回の春季リーグは、A・Bブロックともまれにみる接戦であった。Aブロックは、兵庫教育大学、大阪府立大学、京都学園大学の3チームが三つ巴の3勝1敗で並ぶ結果となり、得失点差によって大阪府立大学が首位の座を得た。

Bブロックは、1部から降格してきた神戸学院大学がその力を見せつけ、全勝で首位を決めた。残りの4チームは、最終戦を残して1勝2敗で並ぶという大混戦で、どのチームも最下位になる可能性があった。しかし、同志社大学、四天王寺国際仏教大学がともに勝利し、直接対決の結果で、2位が同志社大学、最下位が流通科学大学となった。

なお、Bブロックの同志社大学対流通科学大学戦において、ルール上の不正行為（同志社大学）をめぐり試合が中断するという事態が生じた。このことを特定の大学のこととして捉えるのではなく、リーグ全体でルールの再確認・徹底をしていくべきであろう。

（庶務部長 同志社大学4年 津久井啓太）

3部リーグ戦結果

3部A	大阪経済	和歌山	大阪工業	大阪産業	大阪市立	勝	敗	分	点	順
大阪経済		△5-5	○10-9	○13-2	○13-2	3	0	1	10	1
和歌山	△5-5		●3-5	○8-7	△8-8	1	1	2	5	3
大阪工業	●9-10	○5-3		○17-10	○8-1	3	1	0	9	2
大阪産業	●2-13	●7-8	●10-17		●7-12	0	4	0	0	5
大阪市立	●2-13	△8-8	●1-8	○12-7		1	2	1	4	4

3部B	大阪	奈良教育	甲南	神戸	姫路獨協	勝	敗	分	点	順
大阪		●3-11	●5-8	●7-10	○18-1	1	3	0	3	4
奈良教育	○11-3		○9-7	●3-14	○12-5	3	1	0	9	2
甲南	○8-5	●7-9		●8-9	○17-16	2	2	0	6	3
神戸	○10-7	○14-3	○9-8		○23-13	4	0	0	12	1
姫路獨協	●1-18	●5-12	●16-17	●13-23		0	4	0	0	5

※3部優勝決定戦 大阪経済大学 9－7 神戸大学

大阪経済大学は2部昇格、神戸大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 今回の3部は、A・Bブロックとも5チームによるリーグ戦が行われた。全体的には、得点の多い試合が多く見られた。その中でも、Aブロックでは、大阪経済大学と大阪工業大学は失点の少ない試合をし、直接対決で大阪経済大学がブロック優勝を決めた。一方、Bブロックでは、神戸大学がどの試合も打ち勝つという試合運びで4戦全勝し、ブロック優勝を果たした。

ブロック決勝では、大阪経済大学が神戸大学を9－7で破り、念願の2部昇格を成し遂げた。来季の2部での活躍を期待したい。また、敗れた神戸大学は入れ替え戦で、2部最下位の流通科学大学と対戦したが、力の差を見せつけられた結果に終わった。

今回は、投手力、打撃力が上回るチームが順当に勝ち進んでいるように思われた。どのチームも2部昇格を1つの目標として、春季リーグに向けて練習を積み重ね、レベルアップをしてほしい。
(記録次長 神戸大学3年 鈴木祐介)

入れ替え戦 1部－2部：京都大学(1部5位) 7－0 大阪府立大学(2部2位)

※京都大学は1部残留

2部－3部：流通科学大学(2部9位) 14－5 神戸大学(3部2位)

※流通科学大学は2部残留

インカレ予選(5月14, 21日)

Aブロック	1回戦	大阪大学	2－1	大阪経済法科大学
		京都学園大学	13－5	四天王寺国際仏教大学
	2回戦	京都学園大学	6－1	大阪大学
Bブロック	1回戦	京都大学	21－6	和歌山大学
		大阪府立大学	14－4	神戸大学
	2回戦	京都大学	3－0	大阪府立大学
Cブロック	1回戦	大阪体育大学	7－0	佛教大学(棄権)
		神戸学院大学	8－1	同志社大学
	2回戦	神戸学院大学	8－0	大阪体育大学
Dブロック	1回戦	関西大学	10－0	兵庫教育大学
	2回戦	関西大学	10－7	龍谷大学

※予選の結果、春季リーグ優勝・立命館大学、準優勝・京都産業大学に加えて、インカレ予選の各ブロックを勝ち上がった京都学園大学、京都大学、神戸学院大学、関西大学がインカレ出場権を獲得した。



平成18年度第38回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成18年4月8・9・15・22・29・30日、5月3・4・5日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・摂南大学

兵庫教育大学・四天王寺国際仏教大学

1 部対戦成績

1 部	大 谷	園 田	龍 谷	親 和	立命館	国 際	外 大	大 体	順
大阪大谷	●	○	○	○	○	○	○	○	2
園田学園	○	●	○	○	○	○	○	○	1
龍 谷	●	●	○	○	○	○	○	●	3
神戸親和	●	●	●	○	○	○	○	○	4
立 命 館	●	●	●	●	○	○	○	○	5
大阪国際	●	●	●	●	●	○	○	○	6
関西外語	●	●	●	●	●	●	○	○	7
大阪体育	●	●	○	●	●	●	●	○	8

※ 3・4位、7・8位は直接対決の勝敗による。

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	池原 恵	園田学園女子大学	5割2分2厘
2 位	平林 真由子	園田学園女子大学	5割1分9厘
3 位	上村 さつき	大阪大谷大学	4割7分4厘
3 位	辻 佳子	園田学園女子大学	4割7分4厘
5 位	山本 久美子	園田学園女子大学	4割7分1厘
6 位	松本 里菜	神戸親和女子大学	4割5分
7 位	松本 麻衣子	大阪大谷大学	4割4分8厘
8 位	井野 直美	大阪国際大学	4割3分8厘
8 位	寺本 衣里	大阪国際大学	4割3分8厘
10 位	西 澄香	園田学園女子大学	4割2分9厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	山口 憲子	園田学園女子大学	0. 2 5
2 位	井茂 麻由	神戸親和女子大学	0. 5 8
3 位	岡田 結花	立命館大学	0. 6 5
4 位	上村 さつき	大阪大谷大学	0. 6 6
5 位	馬場 由香里	龍谷大学	2. 1 3

ベストプレイ賞

盗塁賞

大 学	氏 名	守備位置	高階絢子(神戸親和女子大学) 記録 7
園田学園女子大学	藺田 かなえ	中堅手	
大阪大谷大学	横山 知世	遊撃手	ホームラン賞
龍谷大学	芦田 菜摘	二塁手	池原 恵(園田学園女子大学) 記録 2
神戸親和女子大学	森下 優子	一塁手	
立命館大学	佐古井 倫子	内野手	
大阪国際大学	舟木 千恵	外野手	
関西外国語大学	矢野 晶子	投 手	
大阪体育大学	寺浦 永里子	投 手	

2部対戦成績表

2 部	天 理	武庫川	四 天	佛 教	兵 教	勝	敗	分	順
天 理		○ 5 - 0	○ 8 - 2	○ 12 - 5	○ 13 - 2	4	0	0	1
武 庫 川	● 0 - 5		○ 12 - 2	○ 10 - 0	○ 9 - 0	3	1	0	2
四天王寺	● 2 - 8	● 2 - 12		○ 7 - 0	○ 8 - 5	2	2	0	3
佛 教	● 5 - 12	● 0 - 10	● 0 - 7		○ 4 - 1	1	3	0	4
兵庫教育	● 2 - 13	● 0 - 9	● 5 - 8	● 1 - 4		0	4	0	5

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	真鍋 典子	四天王寺国際仏教大学	6割8分4厘
2 位	山本 愛	天理大学	6割
3 位	吉井 佐織	兵庫教育大学	5割3分8厘
4 位	岡本 彩	四天王寺国際仏教大学	5割
4 位	三橋 智子	兵庫教育大学	5割

6	位	楠本 涼子	四天王寺国際仏教大学	4割5分
7	位	小泉 綾	天理大学	4割2分8厘
8	位	稲山 可奈	四天王寺国際仏教大学	3割9分1厘
9	位	妹尾 幸世	四天王寺国際仏教大学	3割8分8厘
10	位	上山 麻美	天理大学	3割6分

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	山本 愛	天理大学	3. 5 0
2 位	西口 有紀	武庫川女子大学	5. 1 1
3 位	三島 亜矢子	佛教大学	5. 2 0

ベストプレイ賞

盗塁賞

大 学	氏 名	守備位置	宮野典子(兵庫教育大学)
天理大学	西畑 綾	一塁手	記録 7
武庫川女子大学	山下 みゆ紀	遊撃手	
四天王寺国際仏教大学	森川 公美子	内野手	
佛教大学	福田 あや	内野手	
兵庫教育大学	篠部 聡子	投 手	

3部対戦成績表

3 部	びわこ	府 立	奈 教	摂 南	勝	敗	分	順
び わ こ		○ 24－1	○ 22－0	○ 12－2	3	0	0	1
大阪府立	● 1－24		○ 13－12	● 14－22	1	2	0	3
奈良教育	● 0－22	● 12－13		● 11－12	0	3	0	4
摂 南	● 2－12	○ 22－14	○ 12－11		2	1	0	2

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	北川 優子	びわこ成蹊スポーツ大学	6割4分7厘
2 位	上野 朱加	びわこ成蹊スポーツ大学	6割
3 位	吉岡 広美	奈良教育大学	5割6分2厘
4 位	平岡 希望	びわこ成蹊スポーツ大学	5割5分
5 位	加嶋 理恵	びわこ成蹊スポーツ大学	5割3分8厘
6 位	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	5割
7 位	小山 志保	摂南大学	4割6分1厘
8 位	高谷 倫子	奈良教育大学	4割5分

9 位	坪田 沙希子	大阪府立大学	4 割 2 分 8 厘
10 位	奥村 まゆみ	びわこ成蹊スポーツ大学	4 割 1 分 1 厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	4. 4 5
2 位	宇田川 由有	奈良教育大学	7. 3 8
3 位	小嶋 絢	摂南大学	1 1. 9 5

ベストプレイ賞

盗塁賞

大 学	氏 名	守備位置	奥村まゆみ
びわこ成蹊スポーツ大学	寺澤 美幸	二塁手	(びわこ成蹊スポーツ大学)
摂南大学	美濃 由佳	内野手	記録 6
大阪府立大学	村上 美沙	投 手	
奈良教育大学	米澤 佳代	中堅手	

1 部総評

インカレ出場権がかかっていた 1 部リーグでは、シーズン開幕時期とは思えないくらい全チーム予選リーグから緊迫した試合展開を繰り広げた。特に園田学園女子大学の安定した試合が目についた。個人打撃成績のベスト 5 に 4 名が入賞。その中でも池原、平林は 5 割台の高打率を出し、投手成績では投手の軸となる山口が圧倒的な防御率を残した。投打共に噛み合った園田学園女子大学が 2 年ぶりの優勝を飾った。□また、1 次予選リーグの結果により、1 部昇格となった関西外国語大学は、1 勝のみと言う残念な結果にはなったが、粘り強いチームワークを見せ、大阪体育大学との直接対決の結果 7 位となった。今後の活躍に期待したいチームである。

去年に引き続き、関西地区がレベルの高い激戦区である事が再認識でき、今年も必ずしや関西の強豪チーム 5 チームが上位入賞を果たし、『日本一』が出ることを期待したい。

菅原千歳 (園田学園女子大学)

2 部総評

雨の影響により、1 日遅れて 2 部リーグが開始されたが、その後は天候にも恵まれ、順調に試合を消化していった。コールド成立の試合が多く、2 部内でも力の差が感じられた。久しぶりに 2 部降格となった武庫川女子大学は、他のチームをコールドで降していくが、天理大学の勢いを止めることはできず、天理大学の 3 季連続優勝で春季リーグを終えた。

楠本涼子 (四天王寺国際仏教大学)

3 部総評

今回の春リーグは、点の取り合いが多く、競り合った試合が多く見られた。しかし、主力選手による得点が多く見られたり、守備の詰めが甘かったりと、各チーム課題も見えたリーグだった。秋に繋げられるいい試合だったように思う。

米澤佳代 (奈良教育大学)

平成18年度第38回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月23, 24日, 10月1, 8, 9, 15, 22, 29日, 11月3, 5日

会場：万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	京 都	経 法	神 学	京 産	立命館	関 西	勝	敗	分	点	順
京 都	—	● 4-11	● 2-4	● 0-7	● 3-5	○ 13-5	1	4	0	3	5
大阪経法	○ 11-4	—	● 5-6	● 0-12	● 0-10	○ 9-2	2	3	0	6	4
神戸学院	○ 4-2	○ 6-5	—	● 3-7	● 2-6	○ 10-7	3	2	0	9	3
京都産業	○ 7-0	○ 12-0	○ 7-3	—	○ 8-1	○ 10-7	5	0	0	15	1
立 命 館	○ 5-3	○ 10-0	○ 6-2	● 1-8	—	○ 8-0	4	1	0	12	2
関 西	● 5-13	● 2-9	● 7-10	● 7-10	● 0-8	—	0	5	0	0	6

※京都産業大学は2季ぶり17度目の優勝。

※5位の京都大学は2部との入れ替え戦へ。6位の関西大学は自動的に2部降格。

1部総評

晴天に恵まれ、ほぼ日程通りに終えることができた今回のリーグ戦は、新チームになっても投打でまとまっていた京都産業大学が危なげなく優勝を決めた。昨季優勝だった立命館大学は、優勝決定戦であった京都産業大学戦では8失点をしてしまい敗北したが、その他のゲームは安定した試合運びをし、2位でリーグ戦を終えた。最終試合まで決まらなかったのが3～5位であったが、結局、神戸学院大学がインカレ3位の意地を見せて、3位となった。また、5試合で50失点の関西大学は立命館大学戦以外では得点するも、大量失点が響き1勝もあげることができず、最下位で2部に自動降格となった。

今回のリーグ戦では、上位と下位では投手力の差が大きく見られ、ソフトボールらしい接戦のゲームが少なかったのが残念であった。来季はインカレ予選にもつながる大事なリーグ戦でもあるので、どのチームもいい形で春季に臨めるよう投打に安定した力をつけて頑張ってもらいたい。

(事務部長 関西大学3年 田中 彰)

2部リーグ戦結果

2部A	大阪府立	流通科学	四天仏教	龍 谷	大阪経済	勝	敗	分	点	順
大阪府立	—	○10-6	●1-2	○5-2	●4-8	2	2	0	6	3
流通科学	●6-10	—	●2-13	●1-8	●7-10	0	4	0	0	5
四天仏教	○2-1	○13-2	—	○3-2	○9-0	4	0	0	12	1
龍 谷	●2-5	○8-1	●2-3	—	○12-1	2	2	0	6	2
大阪経済	○8-4	○10-7	●0-9	●1-12	—	2	2	0	6	4

※2～4位は得失点差による。

2部B	兵庫教育	同志社	大阪体育	佛教	京都学園	勝	敗	分	点	順
兵庫教育		● 2-3	△ 4-4	○ 12-2	○ 12-2	2	1	1	7	2
同志社	○ 3-2		○ 14-2	△ 1-1	○ 6-0	3	0	1	10	1
大阪体育	△ 4-4	● 2-14		○ 10-2	○ 3-1	2	1	1	7	3
佛教	● 2-12	△ 1-1	● 2-10		● 1-8	0	3	1	1	5
京都学園	● 2-12	● 0-6	● 1-3	○ 8-1		1	3	0	3	4

※2位と3位は得失点差による。

※2部優勝決定戦 同志社大学 11-1 四天王寺国際大学

同志社大学は1部昇格、四天王寺国際大学は1部との入れ替え戦へ

※2部9・10位決定戦 佛教大学 7-1 流通経済大学

流通経済大学は自動的に3部に降格、佛教大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評

2部リーグはA・Bブロックとも初日の第1、2試合に好カードが組まれ、終わってみればやはりその勝敗が大きく最終結果を左右した感がある。Aブロックは四天王寺国際仏教大学と龍谷大学が、そしてBブロックは同志社大学と兵庫教育大学がそれぞれ対戦した。スコアはいずれも1点差の3-2であった。この対戦を制した四天王寺国際仏教大学は続く大阪府立大学戦でも僅差のゲームをものにし、4戦全勝でブロック優勝を決めた。一方、同志社大学も佛教大学とは引き分けたものの安定した戦いぶりで、ブロック優勝を果たし、さらに優勝決定戦では勢いのある四仏大をコールドで下し、1部自動昇格を果たした。また、四仏大も入れ替え戦では粘る京都大学を下して、念願の1部昇格を果たした。

この2チームとも数年前まで1部に在籍した経歴を持っており、元気いっぱいのプレイで1部リーグの起爆剤となつてほしい。春までの練習の中で、投手力を含めた総合的な力のアップを切に期待している。

(理事長 兵庫教育大学 森田啓之)

3部リーグ戦結果

3部A	姫 獨	和歌山	大 工	神 戸	奈 教	大 産	勝	敗	分	点	順
姫路獨協		● 8-21	○ 8-0	● 2-9	● 12-21	● 9-20	1	4	0	3	6
和歌山	○ 21-8		● 2-5	● 6-10	● 5-14	○ 11-6	2	3	0	6	4
大阪工業	● 0-8	○ 5-2		● 5-7	○ 11-10	○ 10-4	3	2	0	9	2
神戸	○ 9-2	○ 10-6	○ 7-5		○ 11-8	○ 9-7	5	0	0	15	1
奈良教育	○ 21-12	○ 14-5	● 10-11	● 8-11		○ 12-1	3	2	0	9	3
大阪産業	○ 20-9	● 6-11	● 4-10	● 7-9	● 1-12		1	4	0	3	5

※2位と3位、並びに5位と6位は直接対決の勝敗による。

3部B	大阪市立	甲南	近畿	大 阪	関西学院	勝	敗	分	点	順
大阪市立		● 3－8	● 2－6	● 3－10	● 1－12	0	4	0	0	5
甲南	○ 8－3		○ 7－0	● 1－4	● 1－11	2	2	0	6	3
近 畿	○ 6－2	● 0－7		● 1－7	○ 10－4	2	2	0	6	4
大 阪	○ 10－3	○ 4－1	○ 7－1		● 2－3	3	1	0	9	2
関西学院	○ 12－1	○ 11－1	● 4－10	○ 3－2		3	1	0	9	1

※1位と2位、並びに3位と4位は直接対決の勝敗による。

※3部優勝決定戦 神戸大学 9-8 関西学院大学

神戸大学は2部昇格、関西学院大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評

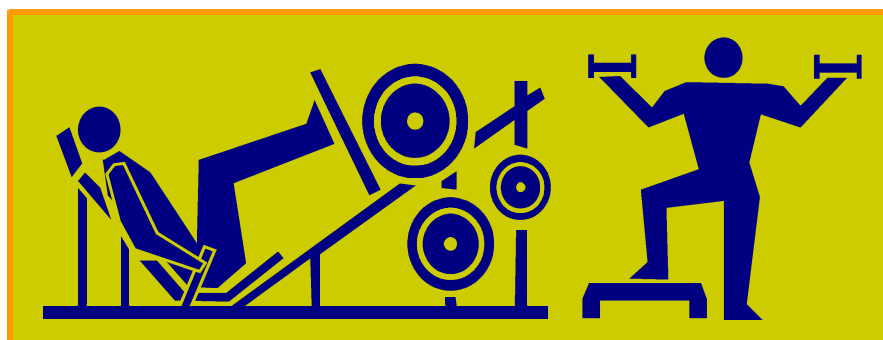
今回の秋季リーグ3部では、Aブロック6チーム、Bブロック5チームでのリーグ戦が行われた。Aブロックでは、春季にブロック優勝をしたものの昇格できなかった神戸大学が、打ち勝つ試合で全勝優勝を決めた。一方、Bブロックは、関西学院大学と大阪大学が3勝1敗で並ぶも、直接対決の激戦（3-2）を制した関西学院大学がブロック優勝を決めた。ブロック決勝では、神戸大学が関西学院大学を9-8のサヨナラ勝ちで破り、初の2部昇格を果たした。来季の2部での奮闘を期待したい。また、敗れた関西学院大学は入れ替え戦で佛教大学と対戦したが、力及ばず2部復帰はならなかった。点の取り合いという試合の中にも、1点の大切さを感じる試合がいくつも見られた大会であった。各チームとも目標を立てて、春季リーグに向けて練習してほしい。（記録部長 神戸大学3年 鈴木祐介）

入れ替え戦 1部-2部：京都大学（1部5位）5-10四天王寺国際仏教大（2部2位）

※四天王寺国際大学は1部昇格

2部-3部：佛教大学（2部9位）7-6 関西学院大学（3部2位）

※佛教大学は2部残留



平成18年度第38回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成18年 9月 9・10・16・17・18・23・24日、10月 7日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・大阪大谷大学

摂南大学・兵庫教育大学・四天王寺国際仏教大学

1 部対戦成績

1 部	立命館	国 際	大 谷	園 田	親 和	龍 谷	武庫川	大 体	順
立 命 館	—	○ 5－4	● 2－10	○ 2－1	● 4－7	● 1－2	○ 7－0	○ 3－0	5
大阪国際	● 4－5	—	○ 2－1	● 0－2	○ 1－0	○ 4－0	○ 6－0	○ 7－0	3
大阪大谷	○ 10－2	● 1－2	—	○ 2－0	○ 5－2	○ 7－0	○ 2－0	● 2－3	1
園田学園	● 1－2	○ 2－0	● 0－2	—	○ 4－0	○ 6－1	○ 12－2	○ 8－0	2
神戸親和	○ 7－4	● 0－1	● 2－5	● 0－4	—	○ 12－5	○ 2－0	○ 3－2	4
龍 谷	○ 2－1	● 0－4	● 0－7	● 1－6	● 5－12	—	○ 2－0	○ 7－1	6
武 庫 川	● 0－7	● 0－6	● 0－2	● 2－12	● 0－2	● 0－2	—	○ 6－5	7
大阪体育	● 0－3	● 0－7	○ 3－2	● 0－8	● 2－3	● 1－7	● 5－6	—	8

※ 1位～3位は当該チーム間の得失点差、4位と5位、並びに7位と8位は直接対決の勝敗による。

1 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	岡本 由香	大阪国際大学	5割4分2厘
2 位	山下 みゆ紀	武庫川女子大学	4割8分
3 位	松本 麻衣子	大阪大谷大学	4割6分
4 位	桐谷 衣里子	武庫川女子大学	4割3分4厘
5 位	吉川 未知	園田学園女子大学	3割9分1厘
6 位	森田 まゆ	園田学園女子大学	3割8分9厘
7 位	今井 飛鳥	立命館大学	3割8分5厘
8 位	服部 美望	大阪国際大学	3割8分1厘
9 位	森山 未悠	大阪大谷大学	3割6分8厘
9 位	佐古井 倫子	立命館大学	3割6分8厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	山口 憲子	園田学園女子大学	0.52
2 位	岡田 結花	立命館大学	0.85
3 位	上村 さつき	大阪大谷大学	1.10
4 位	馬場 由香里	龍谷大学	2.03
5 位	中里見 友紀子	大阪国際大学	2.23

ベストプレイ賞

盗塁賞

大 学	氏 名	守備位置
大阪大谷大学	山本 明香	左翼手
園田学園女子大学	山本 久美子	捕 手
大阪国際大学	舟木 千恵	中堅手
神戸親和女子大学	井茂 麻由	投 手
立命館大学	田村 佳奈江	遊撃手
龍谷大学	亀本 伊純	中堅手
武庫川女子大学	西口 有紀	投 手
大阪体育大学	松本 紘美	一塁手

平林真由子

(園田学園女子大学)

記録4

ホームラン賞

森下 優子

(神戸親和女子大学)

記録3

2部対戦成績表

2 部	天 理	外 大	びわこ	兵 教	四天王	佛 教	勝	敗	分	順
天 理	○	○	○	○	○	○	5	0	0	1
関西外大	●	○	○	○	○	○	4	1	0	2
びわこ	●	●	○	○	○	○	3	2	0	3
兵庫教育	●	●	●	△	○	○	1	3	1	5
四天王寺	●	●	●	△	○	○	1	3	1	4
佛 教	●	●	●	●	●	○	0	5	0	6

※ 4位と5位は得失点差による。

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	久保 真由美	兵庫教育大学	7割6厘
2 位	平岡 希望	びわこ成蹊スポーツ大学	5割2分1厘
3 位	楠本 涼子	四天王寺国際仏教大学	4割7分6厘

4	位	宮野 典子	兵庫教育大学	4割6分7厘
5	位	安井 加奈子	びわこ成蹊スポーツ大学	4割6分1厘
6	位	神田 はな	関西外国語大学	4割5分
7	位	稲山 可奈	四天王寺国際仏教大学	4割4分
8	位	矢野 晶子	関西外国語大学	4割2分3厘
9	位	園田 香央理	佛教大学	4割1分1厘
10	位	新 真依	びわこ成蹊スポーツ大学	4割9厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	鳥家 愛未	関西外国語大学	1. 27
2 位	寺澤 美幸	びわこ成蹊スポーツ大学	2. 33
3 位	井上 奈々	びわこ成蹊スポーツ大学	3. 11

ベストプレイ賞

盗塁賞

大 学	氏 名	守備位置	盗塁賞
天理大学	矢野 裕美子	三塁手	藤原 千晶 (兵庫教育大学)
関西外国語大学	栗田 真梨	左翼手	記録5
びわこ成蹊スポーツ大学	奥村 まゆみ	三塁手	
四天王寺国際仏教大学	妹尾 幸代	捕 手	
兵庫教育大学	石井 由佳子	二塁手	
佛教大学	岡島 由布子	中堅手	

3部対戦成績表

3 部	神 学	府 立	奈 教	摂 南	京 女	勝	敗	分	順
神戸学院	△ 11-11	△ 11-11	○ 9-2	○ 5-3	○ 12-0	3	0	1	1
大阪府立	△ 11-11	△ 11-11	○ 35-5	● 10-15	○ 24-7	2	1	1	3
奈良教育	● 2-9	● 5-35	● 5-35	● 12-20	○ 17-10	1	3	0	4
摂 南	● 3-5	○ 15-10	○ 20-12	○ 13-1	○ 13-1	3	1	0	2
京都女子	● 0-12	● 7-24	● 10-17	● 1-13	● 1-13	0	4	0	5

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打 率
首位打者	村上 美沙	大阪府立大学	6割6分7厘
2 位	高橋 里枝	神戸学院大学	5割6分
3 位	龍前 千香子	神戸学院大学	5割4分5厘
4 位	土井 歩	大阪府立大学	5割

5	位	今西 亜里沙	奈良教育大学	4割3分8厘
6	位	小山 志保	摂南大学	4割
6	位	小林 優里	大阪府立大学	4割
6	位	城前 佳奈子	摂南大学	4割
9	位	瀬戸 絵衣子	大阪府立大学	3割6分4厘
10	位	浦野 充代	大阪府立大学	3割3分3厘

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀投手	久保井 瞳	神戸学院大学	4.93
2 位	宮部 裕子	摂南大学	6.44
3 位	村上 美沙	大阪府立大学	9.75

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
神戸学院大学	松本 愛美	中堅手
摂南大学	竹下 実耶子	三塁手
大阪府立大学	中下 裕美	投 手
奈良教育大学	日高 真奈美	二塁手
京都女子大学	早川 さゆり	投 手

盗塁賞

小林 優里
(大阪府立大学)
記録12

1部リーグ総評

今年の秋季リーグ戦も、昨年の秋同様、9月9日(日)の2週目から開幕した。リーグ戦を通し台風の突撃や天候の悪化が多く予想されていたものの、終わって見ると天候にも恵まれ、無事に予定通りの日程で終えることが出来た。秋季リーグ戦は例年まれにない混戦となり、上位5チームは最終戦まで勝率が並び、またその上位3チームは当該チーム得失点差、4～5位は直接対決での決定となった。最終的に大谷の2年連続優勝、準優勝は園田という結果となった。チームによっては、春季リーグで引退していた4回生・短大2回生の姿もあったが、最後のリーグにける気持ちはどのチームも同じであり、春季リーグとは違った接戦した試合を見ることが出来た。特に全チーム得失点差や直接対決などの結果での順位決定となるため最後まで目の離せない白熱した試合展開となった。全試合終了後は昨年と同様で恒例となる今季で引退する選手による、全大学混合チームでの試合を実施。公式戦同様の真剣さの中にも和気あいあいとした雰囲気があり、両チームでの作戦のみせどころやハッスルプレーなどで大いに会場を盛り上がらせた。来年は関西地区が中心となるよう各チームがレベル向上をはかり全国の大学での上位進出を願いたい。

一年間を通し、このように関西リーグが無事に幕が閉じる事ができたのも、学連の運営にあたり協力してくださった協会関係者、各チームの監督・保護者の方々お陰である。心から感謝し、来年の関西リーグ戦が今季以上に発展することを願いたい。菅原千歳(園田学園女子大学)

2部リーグ総評

今季は、神戸学院大学の新規加入もあり、いつもより1チーム多い6チームでの総当たりとなった。天候を気にしながらのリーグになったが、順調に試合を消化していき、投打のバランスの取れた天理大学の4季連続優勝で幕を閉じる形となった。試合の方は、得失点差によるコールド成立の試合が多く、それ以外でも点数の多く入る試合が多かったように思われる。初めて2部に登場したびわこ成蹊スポーツ大学は得意の打撃で3位という成績を残すに至った。2部リーグをさらに活気あるリーグにするためにも、混戦した試合を展開していきたい。

楠本涼子(四天王寺国際佛教大学)

3部リーグ総評

今回の秋リーグは、前回に比べて、どのチームもチーム力が上がり、接戦の試合が多かったように思われる。しかし、エラーによる得点が多い、またエラーが続いてしまうなど、チームそれぞれの課題も見つかったのではなかろうか。来年のリーグでは、さらなる個人の技術向上とともに、チーム力をさらにのばすことができるよう期待したい。

米澤佳代(奈良教育大学)

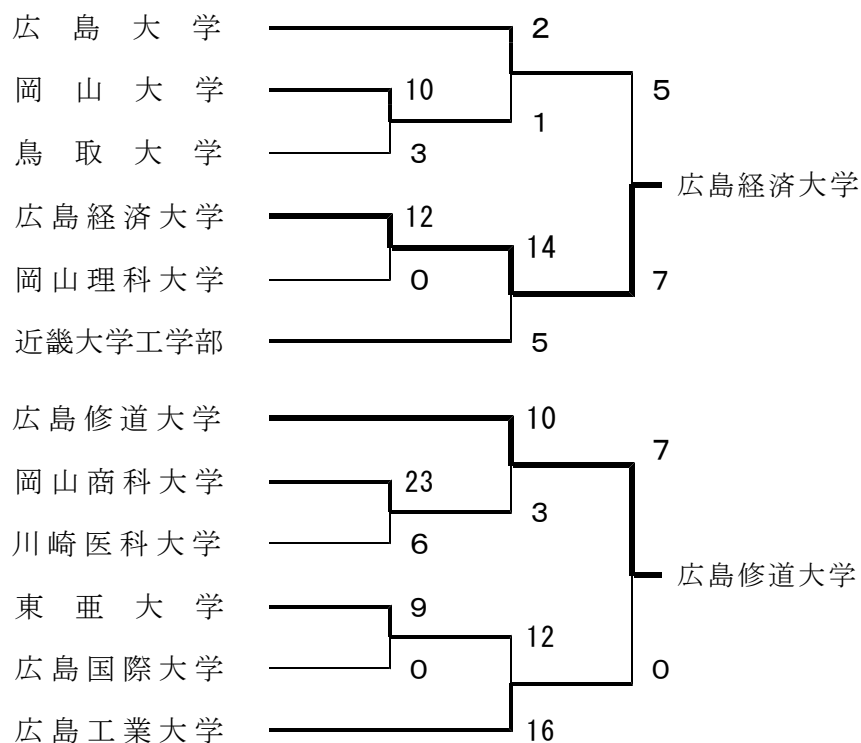
【中国地区】

第41回全日本大学・第38回西日本大学ソフトボール選手権大会 中国地区予選会

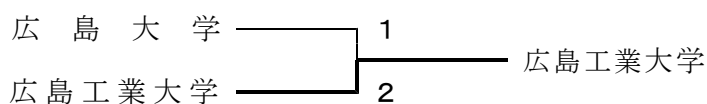
会期：平成18年5月20日（土）・21日（日）

会場：岡山県三咲町・久米南町

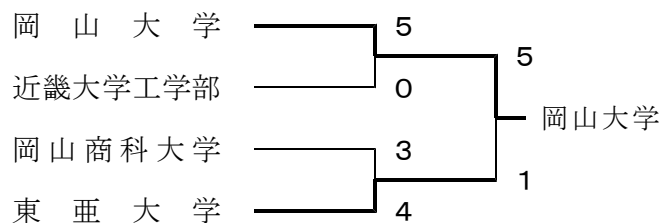
男子の部



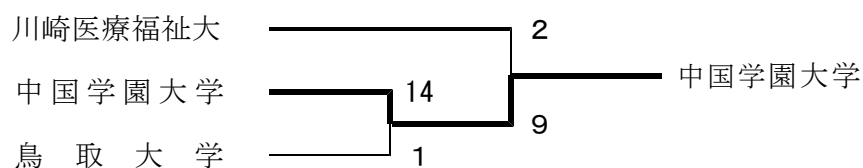
全日本大学選手権大会第三代表決定戦

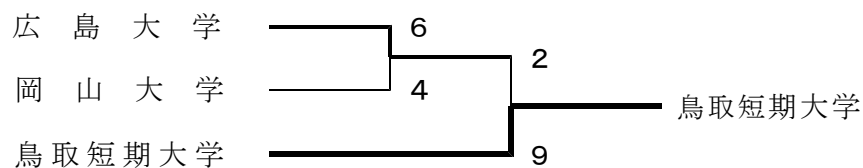


西日本大学選手権大会第五代表決定戦

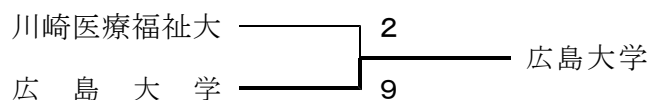


女子の部





西日本大学選手権第三代表決定戦



全日本大学ソフトボール選手権大会出場権獲得大学

男子の部：広島経済大学・広島修道大学・広島工業大学

女子の部：中国学園大学・鳥取短期大学

西日本大学ソフトボール選手権大会出場権獲得大学

男子の部：広島経済大学・広島修道大学・広島工業大学・広島大学・岡山大学

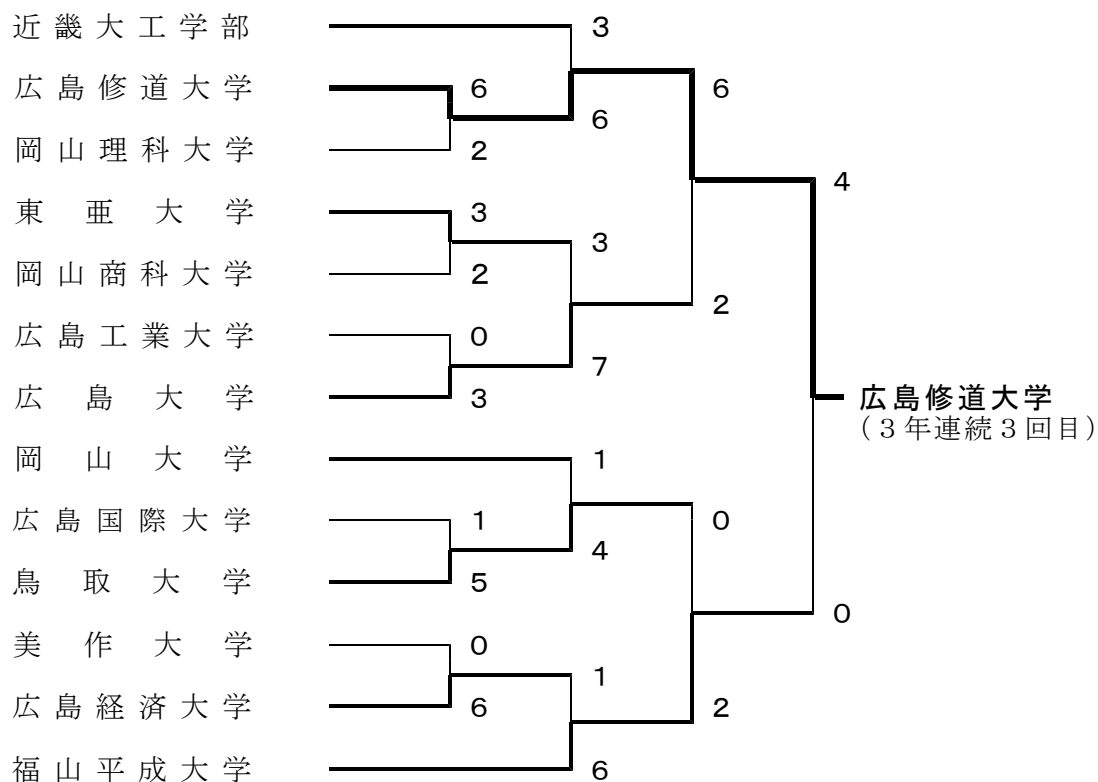
女子の部：中国学園大学・鳥取短期大学・広島大学

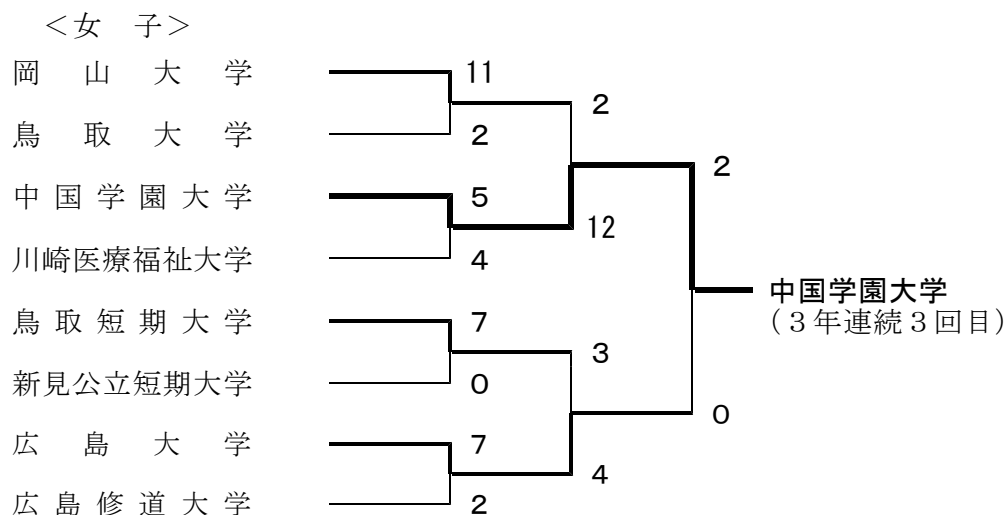
第6回中国地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成18年11月11日（土）・12日（日）

会場：広島修道大学グラウンド

<男子>

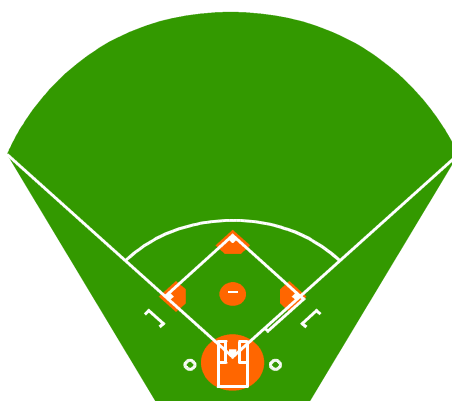




総評

第6回中国地区大学選手権大会は、広島修道大学グラウンドで11月11・12日の日程で開催された。今年は、新たな参加や復帰参加もあり、過去最大数での大会となった。

結果は、男子広島修道大学、女子中国学園大学のともに3連覇となったが、中でも福山平成大学（準優勝）の攻守にバランスの取れたチーム力が目を引いた。また、女子の広島大学（準優勝）は、年々チーム力が向上し安定した戦いで2年連続の準優勝であった。本大会は、親睦と競技力の向上を目的として創設した大会である。その目的の一つである”競技力の向上”はここ数年の戦いを見るかぎり、学連シーズンが長くなり結果的に練習量も増えてか好結果をもたらしているように思われる。本地区の新年度は、新たに男女各1チームの学連登録が確実に男子15チーム、女子8チームの23チームとなり、目的の達成を目指して今以上に努力して行きたいと思う。



【四国地区】

平成18年度四国地区男子ソフトボール春季大会

会期：平成18年5月3日(土)、4日(日)

会場：(株) トクヤマ坂出グラウンド

Aグループ	香 川	徳 島	愛 媛	高知工科	勝	敗	分	順
香 川		○11-10	○13-4	●7-8	2	1	0	1
徳 島	●10-11		●2-5	●5-9	0	3	0	4
愛 媛	●4-13	○5-2		○7-4	2	1	0	3
高知工科	○8-7	○9-5	●4-7		2	1	0	2

※1～3位は得失点差による

Bグループ	四 国	松 山	四国学院	高 知	勝	敗	分	順
四 国		●4-13	●2-15	●1-5	0	3	0	4
松 山	○13-4		●1-4	●4-7	1	2	0	3
四国学院	○15-2	○4-1		●2-3	2	1	0	2
高 知	○5-1	○7-4	○3-2		3	0	0	1

1・2位決定戦 高 知 大 学 5-3 香 川 大 学

3・4位決定戦 四国学院大学 11-4 高知工科大学

5・6位決定戦 松 山 大 学 9-2 愛 媛 大 学

7・8位決定戦 徳 島 大 学 20-2 四 国 大 学

第41回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会予選会 ー兼、第38回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会ー

会期：平成18年5月20日(土)

会場：丸亀土器川公園 (男子)、坂出市林田運動公園 (女子)

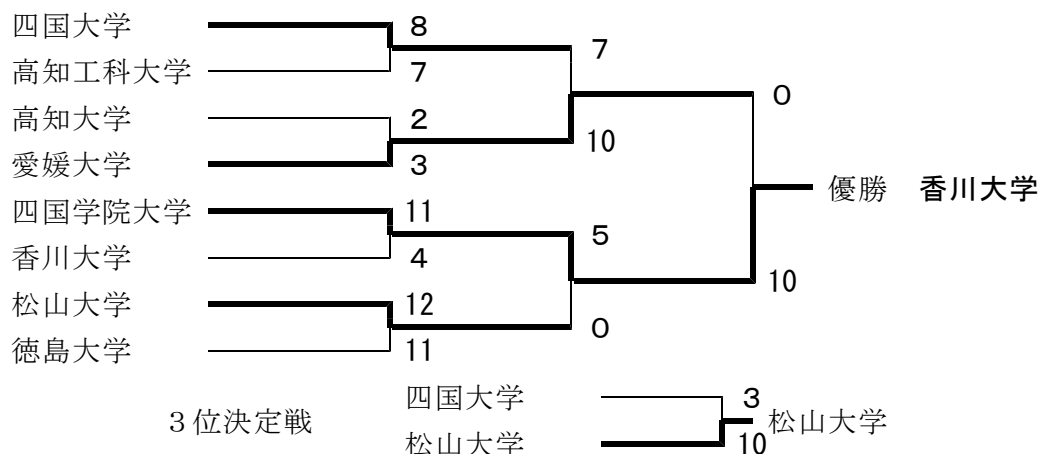
女子結果

チ ャ ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順位
愛媛女子短期大学		○7-0	○8-3	2	0	優勝
香 川 大 学	●0-7		○8-1	1	1	2位
四 国 大 学	●3-8	●1-8		0	2	3位

※全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学

※西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学、香川大学

男子結果



※全日本大学選手権出場権獲得校：四国学院大学・愛媛大学

※西日本大学選手権出場権獲得校：四国学院大学・愛媛大学・松山大学

平成18年度四国地区大学(男・女)ソフトボール秋季大会

会期：平成18年10月14日(土)・15日(日)

会場：香川県丸亀市土器川公園グラウンド

男子結果

Aグループ	四 国	四国学院	高 知	徳 島	勝	敗	分	順
四 国		● 3-15	● 6-7	● 10-11	0	3	0	4
四国学院	○ 15-3		● 8-10	○ 10-2	2	1	0	1
高 知	○ 7-6	○ 10-8		● 4-7	2	1	0	2
徳 島	○ 11-10	● 2-10	○ 7-4		2	1	0	3

※1～3位は得失点差による

Bグループ	香 川	松 山	愛 媛	高知工科	勝	敗	分	順
香 川		● 5-9	○ 7-6	● 3-13	1	2	0	4
松 山	○ 9-5		● 3-6	○ 8-5	2	1	0	2
愛 媛	● 6-7	○ 6-3		○ 9-1	2	1	0	1
高知工科	○ 13-3	● 5-8	● 1-9		1	2	0	3

※1位と2位、並びに3位と4位は直接対決の勝敗による

1・2位決定戦 四国学院大学 4-2 愛媛大学

3・4位決定戦 高知大学 9-5 松山大学

5・6位決定戦 徳島大学 18-11 高知工科大学

7・8位決定戦 四国大学 7-0 香川大学(棄権)

女子結果

チー ム	愛媛短大	香川大学	四国大学	勝	敗	順位
愛媛女子短期大学		○ 5-0	○ 16-1	2	0	優勝
香川大学	● 0-5		○ 6-1	1	1	2位
四国大学	● 1-16	● 1-6		0	2	3位

決勝リーグ戦

	九州共立	日本文理	福岡	勝	敗	分	順位
九州共立大		● 0 - 2	● 0 - 5	0	2	0	3位
日本文理大	○ 2 - 0		△ 0 - 0	1	0	1	2位
福岡大学	○ 5 - 0	△ 0 - 0		1	0	1	1位

※ 1位と2位は得点率による

※ 7年連続12回目の優勝を果たした福岡大学が全日本大学選手権の出場権獲得

第6回九州地区大学ソフトボール秋季大会結果

会場：沖縄県豊見城市瀬長島球場

会期：平成18年12月8日（金）～12月10日（日）

男子結果

予選Aリンク（1位：第一経済大学）

第一経済大学 8 - 6 崇城大学

第一工業大学 6 - 2 崇城大学

第一工業大学 11 - 4 琉球大学

第一経済大学 10 - 0 琉球大学

予選Cリンク（1位：沖縄国際大学）

九州産業大学 8 - 0 長崎県立大学

沖縄国際大学 11 - 1 福岡工業大学

長崎県立大学 2 - 1 福岡工業大学

沖縄国際大学 2 - 0 九州産業大学

予選Bリンク（1位：熊本学園大学）

熊本学園大学 8 - 0 久留米工業大学

鹿児島国際大学 15 - 3 西南学院大学

久留米工業大学 11 - 2 西南学院大学

熊本学園大学 8 - 1 鹿児島国際大学

予選Dリンク（1位：福岡大学）

九州東海大学 8 - 0 九州大学

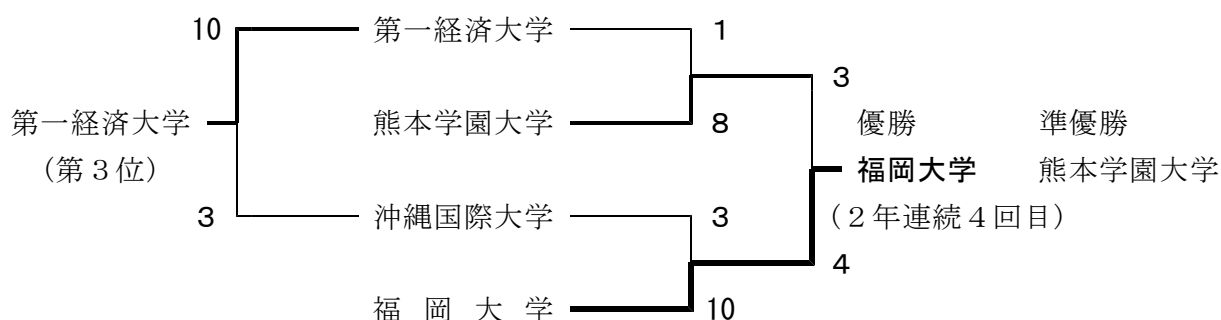
佐賀大学 2 - 1 九州大学

福岡大学 13 - 0 名桜大学

九州東海大学 8 - 7 名桜大学

福岡大学 6 - 0 佐賀大学

決勝トーナメント



女子結果

チーム	日本文理	沖国熊学	名桜	勝	分	敗	順位
日本文理大学		○ 10 - 0 ○ 10 - 0	○ 7 - 0 ○ 13 - 0	4	0	0	優勝
沖縄国際・熊本学園大学	● 0 - 10 ● 0 - 10		○ 11 - 4 ○ 6 - 4	2	0	2	準優勝
名桜大学	● 0 - 7 ● 0 - 13	● 4 - 11 ● 4 - 6		0	0	4	3位

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容をいっそう充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡をくださいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。(研究調査委員会 小川幸三・森田啓之)

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX:(0795)44-2227

E-mail:hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者(理事、監督、コーチ、選手等)に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文(含.抄録)、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内(巻頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理・採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月20日で区切るものとする。

執 筆 要 項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、全角40字×40行(上下余白25mm・左右余白25mm)、文字サイズは11ポイント、和文フォントは明朝体を基本とする。ソフト名を記して、CD-Rとともに提出すること。

【広報記録委員会】

全日本大学ソフトボール連盟表彰

全日本大学ソフトボール連盟の役員として、永年にわたり連盟の役員として運営にご尽力を賜り、ここに「功労表彰」を受けられた方をご紹介します。（敬称略・順不同・所属大学並びに役職は受賞時のもの）

松永尚久評議員（東海大学）・野口周一評議員（新島学園短期大学）

また、2006年7月台湾において開催された第2回世界大学女子選手権大会において銅メダルに輝いた本連盟所属の選手を、「優秀選手」として連盟表彰しました。詳細は、19～37ページおよびhttp://www.softball.or.jp/2006/national/nf_college.htmlのとおりですが、氏名と所属大学のみ再掲します。

上村さつき(大阪大谷大学)・竹川 裕香(福岡大学)・成田 春菜(富士大学)
藤原麻起子(東北福祉大学)・山口 憲子(園田学園女大)・鹿島 唯(日本体育大学)
村中 梢(東北福祉大学)・池原 恵(園田学園女大)・内田千恵美(早稲田大学)
小柳 薫(東京女子体大)・加藤 恵理(東北福祉大学)・鈴木 紅美(日本体育大学)
高橋あゆみ(日本体育大学)・中野 久美(東京女子体大)・西川 友理(東京女子体大)
平林真由子(園田学園女大)・舟木 千恵(大阪国際大学)〈守備位置別五十音順〉

《お知らせ》

チームHPへのリンクについて

学連HP <http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/>では、加盟各大学のトップページにリンクを張らせていただいています。このところ、チームでHPを持つところが多くなりましたので、チームのHPへ直結するようリンクを張り替えることも可能です。これを希望される場合はE-mail アドレス mztn@chujo-u.ac.jp へご連絡ください。

**トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯
第6回大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集**

出場の申し込みは、次ページの大会要項をご覧のうえ、お願いいたします。

なお、参加申込は学連HP <http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/> 上のみから承っております。「大会要項」必ず熟読ください。また、出場までの手順等は次のようになっていますので、ご留意ください。

1. 1月末日までにE-mailで mztn@chujo-u.ac.jp へ出場申込を行う。mailの件名は、「〇〇大学東海オープン出場申込」であること。
2. 出場が認められた後、2月初旬に送信される参加申込書（Excelファイル）に必要事項を入力し、2月20日（火）までに返信する。
3. 参加申込の受理と申込書がE-mailで送信されない場合は問い合わせること。
（ウイルス感染の疑いがあるmailは開きません。1週間以内に返信がない場合は、別のパソコンから送信すること。）
4. 参加が認められたチームは、2月末日までに参加料を振り込む。
5. 参加が認められなかったチームにも2月5日（月）頃までにはE-mailで連絡します。
6. 3月中旬に、組み合わせ抽選の結果など必要事項を郵便で連絡します。

**トヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯
第6回大学ソフトボール東海オープン大会要項**

- | | |
|---------|--|
| 1. 主 催 | 東海地区大学ソフトボール連盟 |
| 2. 主 管 | 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・安城市ソフトボール協会 |
| 3. 後 援 | 全日本大学ソフトボール連盟
安城市・安城市教育委員会・安城市体育協会・中日新聞社 |
| 4. 協 賛 | トヨタ自動車(株)・(株)豊田自動織機・(株)デンソー・(株)東海理化 |
| 5. 大会期間 | 平成19年3月14日（水）・15日（木）、予備日3月16日（金） |
| 6. 大会会場 | 安城市総合運動公園（6球場） |
| 7. チーム数 | 男子12、女子12、計24チーム |
| 8. 参加資格 | 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
また、予備日を含めて全日程に参加できること。
なお、出場申し込み多数の場合は、主催者が各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に選抜する。 |
| 9. 出場資格 | 主催者によって、出場を認められたチームのあらかじめ選手登録された30名以内の選手に限る。
ベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1名、コー |

- チ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名の計31名以内とする。
- なお、新1年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
10. 参 加 料 1チーム30,000円
11. 申込方法 E-mailアドレスmztn@chujo-u.ac.jpへ1月末日までに申込書を請求し、返信すること。また、出場が認められた後、参加料を次の振込口座へ2月20日(火)までに振り込むこと。
- 【振込口座】
- 銀行：三菱東京UFJ銀行大府支店 普通口座番号1529547
- 名義：東海地区大学ソフトボール連盟理事長水谷博
12. 競技方法 男女各12チームを3チームずつ4グループに分けて予選リーグ戦を1日
 で実施し、翌日1位グループ・2位グループ・3位グループ各4チーム
 による順位決定トーナメント戦を行う。
13. 競技規則 2007年度オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。
 予選リーグ戦の順位決定方法等特別な事項は監督主将会議で決定する。
14. 使 用 球 ミズノ社製公認革ボールとし、試合毎に各チームは2個提出する。
15. 審 判 員 (財)日本ソフトボール協会公認審判員
16. 記 録 員 (財)日本ソフトボール協会公認記録員
17. 表 彰 優勝チームに対し、賞状とトヨタ・デンソー・豊田自動織機・東海理化
 杯を、準優勝・第3位のチームに対し賞状と盾を授与する。なお、トヨ
 タ・デンソー・豊田自動織機・東海理化杯は持ち回りとする。
 最優秀選手賞と敢闘選手賞として男女各1名に賞状と盾を授与する。
18. 組合抽選 2月21日(水)午後7時から安城市体育館において公開代理抽選を行う。
19. 監督会議 3月14日(水)午前8時30分から安城市総合運動公園ソフトボール場A球
 場スタンドにおいて行う
20. 開 会 式 3月14日(水)午前9時から安城市総合運動公園ソフトボール場A球場に
 おいて行う。
21. 閉 会 式 全試合終了後安城市総合運動公園ソフトボール場A球場において行う。
22. 費 用 参加チームの旅費、滞在費はすべてチームの負担とする。
23. 傷 害 主催者・主管者は大会期間中における傷害及・疾病並びに事故等につい
 て一切の責任を負わない。保険証を持参すること。
24. 宿泊弁当 主催者は斡旋しない。ただし、宿泊については関係機関を紹介する。
25. 備 考 出場チームは部長または監督に引率され、チームの行動について責任を
 負うこと。
26. 交流試合 大会が順調に終了した場合は、予備日に最大8試合の交流試合を実施す
 る。なお、この対戦チームについては、希望は伺うものの、主催者に
 一任されたい。
27. 問合せ先 中京女子大学 水谷 博 FAX (0562) 44-0310 学生SC
 E-mail mztn@chujo-u.ac.jp (なるべくこれで)

平成17・18・19年度 全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
会 長	大 内 敬 哉	中京大学	—	
副 会 長	一 谷 宣 宏	園田学園女子大学	中 野 紀 明	国士舘大学
	武 藤 幸 政	城西大学		
顧 問	坂 井 正 郎	国士舘大学名誉教授	角 田 真一郎	早稲田大学名誉教授
	水 野 信 義	WSM教育研究所	斎 藤 滋 雄	元学習院大学教授
理 事 長	末 井 健 作	兵庫県立大学	—	
副理事長	逢 坂 秀 樹	鳥取短期大学	高 橋 伸 次	高崎経済大学
常任理事	森 田 啓 之	兵庫教育大学（事務局長）		
	大和田 寛	仙台大学	黒 田 重 靖	富山大学
	小 川 幸 三	日本体育大学	水 谷 博	中京女子大学
	久保田 豊 司	大阪国際大学	山 本 孔 一	愛媛女子短期大学
	中 野 元	熊本学園大学		
理 事	小 嶋 高 良	八戸工業大学	大 塚 健 樹	盛岡大学
	岡 田 万 嗣	山梨学院大学	丸 山 克 俊	東京理科大学
	立 山 利 治	国際武道大学	青 木 真	上越教育大学
	吉 野 みね子	東京女子体育大学	木 藤 盛 雄	成蹊大学
	山 本 英 弘	朝日大学	矢 澤 久 史	東海女子大学
	丸 山 悟	日本福祉大学	鈴 木 亨	桜花学園大学
	児 玉 公 正	大谷女子大学	中 谷 敏 昭	天理大学
	富 田 国 興	（広島修道大学）	吉 末 和 也	園田学園女子大学
評 議 員	飯 島 隆	盛岡大学	舟 山 健 一	東北福祉大学
	大 塚 隆	東海大学	櫻 井 佳代子	新島学園短期大学

職 名	氏 名	所 属	氏 名	所 属
評 議 員	加 藤 茂 夫	専修大学	合 津 正之助	常葉学園大学
	佐 多 直 温	愛知大学	廣 田 真 史	名古屋大学
	石 井 賀一郎	中京学院大学	但 尾 哲 哉	神戸親和女子大学
	板 谷 昭 彦	園田学園女子大学	板 野 道 弘	中国短期大学
	荒 牧 昭二郎	九州東海大学	吉 村 清	琉球大学
	上江州 剛	名桜大学		
監 事	藤 井 立 三	明星大学	平 野 義 明	大阪工業大学
事 務 局	〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部			
	FAX : (0792) 93-5710		E-mail : suei@shse.u-hyogo.ac.jp	

平成18年度 全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

委 員 長	持舘 智(東京地区・東京学芸大学)				
副委員長	岩崎悠志(近畿地区・大阪大学)、菅原千歳(近畿地区・園田学園女子大)				
地区	氏 名	所属大学	地区	氏 名	所属大学
関 東	沼田 光由	高崎経済大学	関 東	駒谷 幸子	城西大学
東 京	高橋 真理	日本女子体育大学	東 京	中嶋 一喜	中央大学
東 海	中川 裕梨	名古屋大学	東 海	半田 奈美	名城大学
東 海	小金園 令	朝日大学	東 海	大森衣里子	常葉学園大学
東 海	石川 昌子	愛知学院大学	近 畿	森田 寛之	大阪大学
近 畿	岡崎 直子	武庫川女子大学			

平成18年度 男子加盟大学一覧			
全日本大学ソフトボール連盟			
地 区	数	加 盟 大 学 名	
北海道・東北	9	浅井学園大学 仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 宮城教育大学 盛岡大学	
関 東	20	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 日本大学生産学部 文教大学 山梨学院大学	
北 信 越	6	金沢大学 信州大学 敦賀短期大学 富山大学 長野大学 福井県立大学	
東 京	24	桜美林大学 学習院大学 杏林大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 武蔵工業大学 明治大学 明星大学 立教大学 早稲田大学	
東 海	17	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 朝日大学 岐阜大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 名古屋商科大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学	
近 畿	28	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 近畿大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺国際仏教大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学	
中 国	12	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 近畿大学工学部 東亜大学 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学 川崎医科大学	
四 国	8	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 徳島大学 松山大学	
九 州	23	沖縄国際大学 大分大学医学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 九州東海大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 崇城大学 第一経済大学 第一工業大学 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 日本文理大学 福岡大学 福岡工業大学 名桜大学 琉球大学	

平成18年度　女子加盟大学一覧			
全日本大学ソフトボール連盟			
地　　区	数	加　　盟　　大　　学　　名	
北海道・東北	7	仙台大学　東北福祉大学　弘前大学　富士大学　浅井学園大学 宮城教育大学　盛岡大学	
関　　　東	15	関東学園大学　国際武道大学　埼玉大学　相模女子大学 淑徳大学　順天堂大学城西大学　城西国際大学　清和大学 千葉大学　筑波大学　東海大学　日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学　文教大学	
北　　信　越	7	飯田女子短期大学　金沢大学　上越教育大学　信州大学 富山大学　福井大学　松本大学	
東　　　京	16	桜美林大学　学習院大学　慶應義塾大学　国士舘大学 国際基督教大学　専修大学　成蹊大学　創価大学　中央大学 東京学芸大学　東京女子体育大学　日本大学　日本女子体育大学 日本体育大学　明治大学　早稲田大学	
東　　　海	13	愛知教育大学　桜花学園大学　岐阜聖徳学園大学　静岡大学 中京大学　中京学院大学　中京女子大学　東海学園大学 東海女子大学　常葉学園大学　名古屋大学　日本福祉大学 名城大学	
近　　　畿	18	大阪国際大学　大阪体育大学　大阪府立大学　大阪大谷大学 関西外国語大学　京都女子大学　神戸親和女子大学 四天王寺国際仏教大学　摂南大学　園田学園女子大学　天理大学 兵庫教育大学　佛教大学　奈良教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学　武庫川女子大学　立命館大学　龍谷大学	
中　　　国	6	岡山大学　川崎医療福祉大学　中国学園大学　鳥取大学 鳥取短期大学　広島大学	
四　　　国	3	愛媛女子短期大学　香川大学　四国大学	
九　　　州	7	沖縄国際大学　九州女子大学　熊本学園大学　福岡大学 日本文理大学　九州共立大学　名桜大学	
男　子		147大学	
女　子		92大学	
合　計		239大学	
平成18年12月25日現在			

編 集 後 記

10年一昔、全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** も本号で第10号を数えることができました。これは、偏に、インカレの記録を快くご提供くださった(財)日本ソフトボール協会記録委員会、貴重な地区情報をお寄せいただいた地区常任理事、そして何より後輩たちに励ましの一文をご寄稿いただいた諸先輩方のご尽力の賜物とまずもって衷心より御礼申し上げます。

創刊号は、いただいた原稿をスキャナーで読み込んだものを集めた50数ページの読みにくい冊子でした。シドニーオリンピック代表の増淵投手が表紙を飾った第4号ぐらいからは、体裁が整い、ページ数も100を超えるようになりました。昨年の第9号は、「学連創立40周年記念号」として記念誌的な内容を含めて刊行することができました。しかし、創刊号の大内会長の挨拶にある「学連の活動を記録に留める」ことはかなりできるようになりましたが、「ソフトボールに関する情報や研究論文の発信」についてはまだまだ不十分と言わざるを得ません。学連が学連たる所以は、規約第3条に示されているようにここにありますので、今後は研究・調査に関する情報発信の充実を図っていききたいと存じます。

ただ、インカレをはじめとする学生の試合、一試合一試合における汗と涙のドラマができるだけ伝わるように、いっそう編集には工夫を重ねたいと思います。この点、ご教示をお願いするとともに、本号の原稿や情報をお寄せいただいた方々に感謝申し上げます、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海女子大学）

表紙写真：第2回世界大学女子ソフトボール選手権大会

文部科学大臣杯第41回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会開会式

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第10号

2006年12月25日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail: mztn@chujo-u.ac.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学環境人間学部気付

FAX (0792) 93-5710

E-mail: suei@hept.himeji-tech.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058) 263-4101

I S S N 1 3 4 3 - 4 3 9 X

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)
財日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する

ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION

想いを込める一球がある。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

高反発素材
SR717で飛ばす!

2重管構造の
大きな反発力。

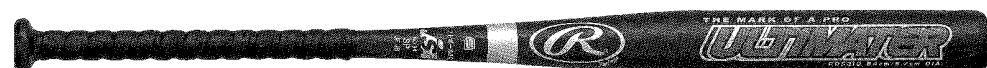
81cm・82cm
をラインナップ。

体験した事のない
振り抜き感。

振り抜きやすさを追求した

アルティメーター登場!

81&82cmのバットをご用意しました。



ソフトボール用バット(3号革ボール・ゴムボール対応)

NEW ULTIMATER アルティメーター

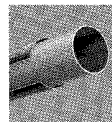
RB5210 ¥32,550(本体 ¥31,000)

サイズ/直径5.7cm [S81] 81cm(710g平均) [S82] 82cm(720g平均) [S83] 83cm(730g平均) [S84] 84cm(740g平均)
カラー/ ◎ ブラック 素材/(本体) 超々ジュラルミンSR717 (内管) 超々ジュラルミンSR717 (グリップテープ) ポリウレタン

ミドルバランス

SR717

アシックスがバット専用素材として、株式会社神戸製鋼所と共同開発した素材です。反発性と耐久性を兼ね備えた高強度超々ジュラルミン素材です。

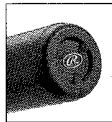


2重管

2重管構造によるトランボリン効果をより高めるため、内管にも超々ジュラルミンパイプを採用。より効果的な反発感を生み出します。

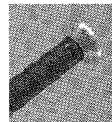
URキャップ

U.S.A.ローリングスと同じデザインを採用した、ローリングスオリジナルデザインヘッドキャップ。



ラヴィーン®・グリップ-W

振動をおさえるパッドを内側に装着し、よりソフトな振り感を引き出します。また、ノンスリップ機能をプラスし、より力強く握ることを可能にします。





ウインドミル No. 10 (2006)

ISSN 1343-439X